

3. 個別の行政分野等

問4 災害・防災対策について、あなたの状況に最も近い番号を選んでください。

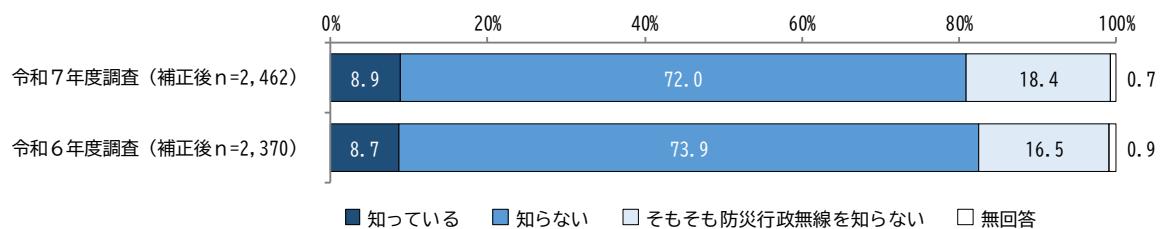
4-1	防災行政無線の放送内容(市のスピーカーによる一斉放送)を電話で確認できる大和市のフリーダイヤル(0120-112-933)を知っていますか。	○は1つ
-----	--	------

防災行政無線の放送内容を確認するフリーダイヤルの認知度は、約1割となっています。

防災行政無線の放送内容を確認するフリーダイヤルを知っているかについて、「知っている」の割合が8.9%、「知らない」の割合が72.0%、「そもそも防災行政無線を知らない」の割合が18.4%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

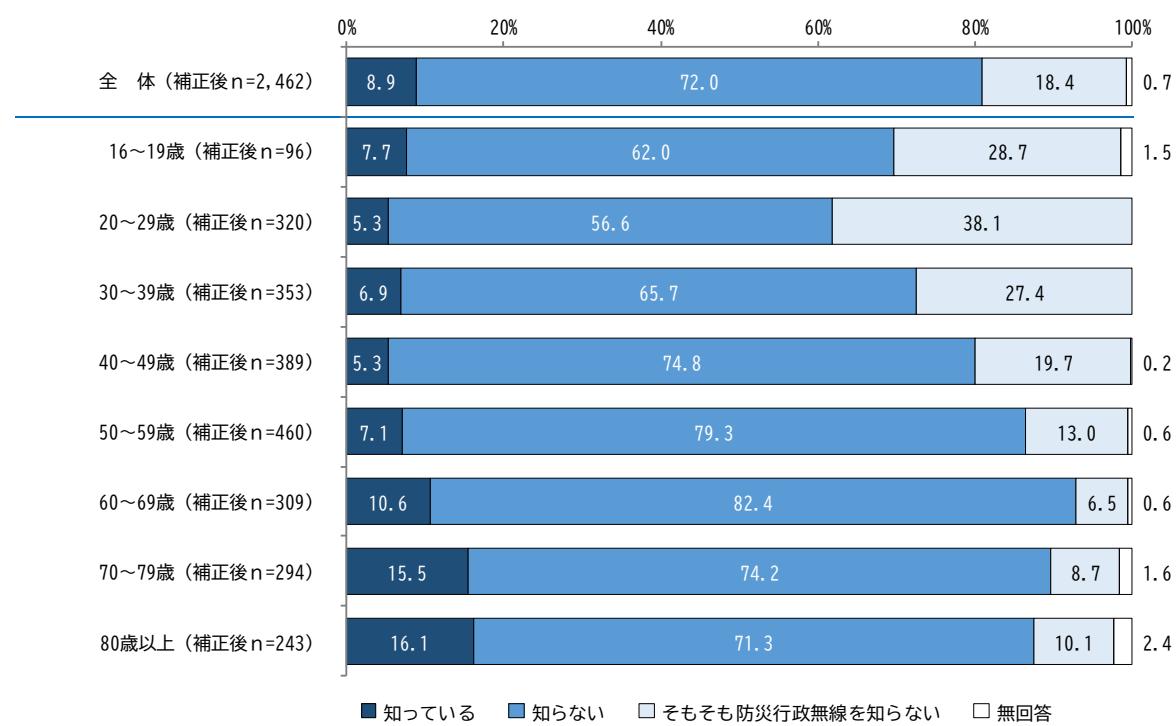
図表4-1-1 防災行政無線の放送内容を確認するフリーダイヤルの認知度



■ 4-1 ×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど「知っている」の割合が高い傾向にあります。また、年齢が下がるほど、「そもそも防災行政無線を知らない」の割合が高くなる傾向にあります。

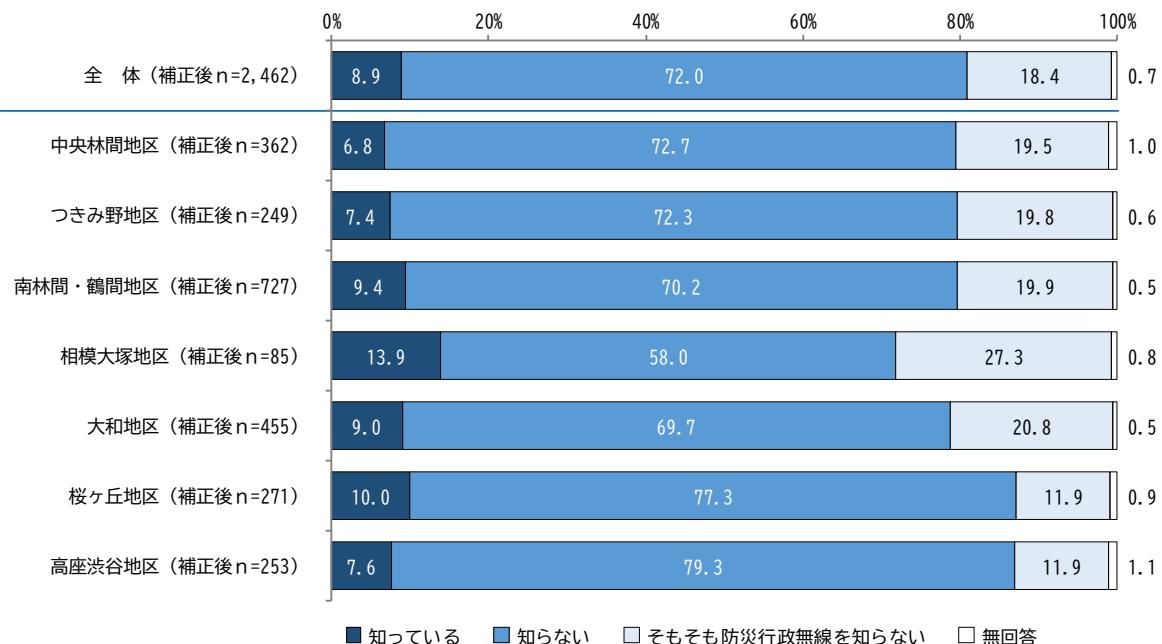
図表4-1-2 防災行政無線の放送内容を確認するフリーダイヤルの認知度×年齢



■ 4-1 ×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で「そもそも防災行政無線を知らない」の割合が高くなっています。

図表4-1-3 防災行政無線の放送内容を確認するフリーダイヤルの認知度×居住地域



4-2

ご家庭での災害時の備えとして、何日分の食料品（飲料水含む）を備蓄していますか。

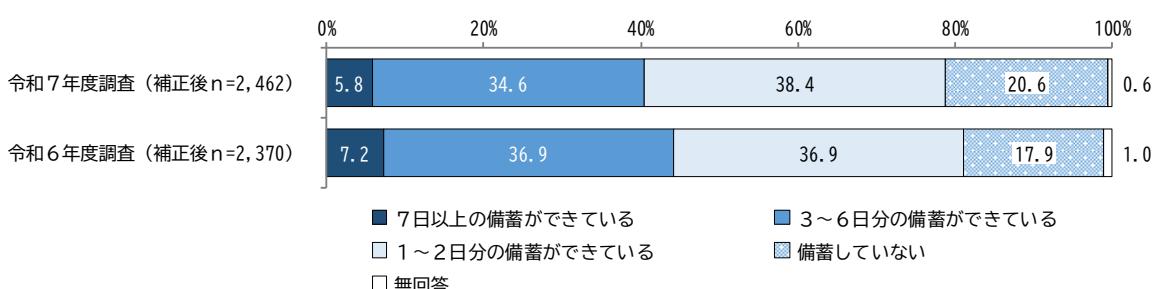
○は1つ

ご家庭での災害時の備えとして、『3日分以上の備蓄ができている』（「7日以上の備蓄ができる」と「3～6日分の備蓄ができる」の合計）割合が、約4割となっています。

家庭での災害時の備えとして、「1～2日分の備蓄ができる」という割合が38.4%と最も高く、次いで「3～6日分の備蓄ができる」という割合が34.6%、「備蓄していない」の割合が20.6%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表4-2-1 家庭での災害時の備えとして何日分の食料品を備蓄しているか

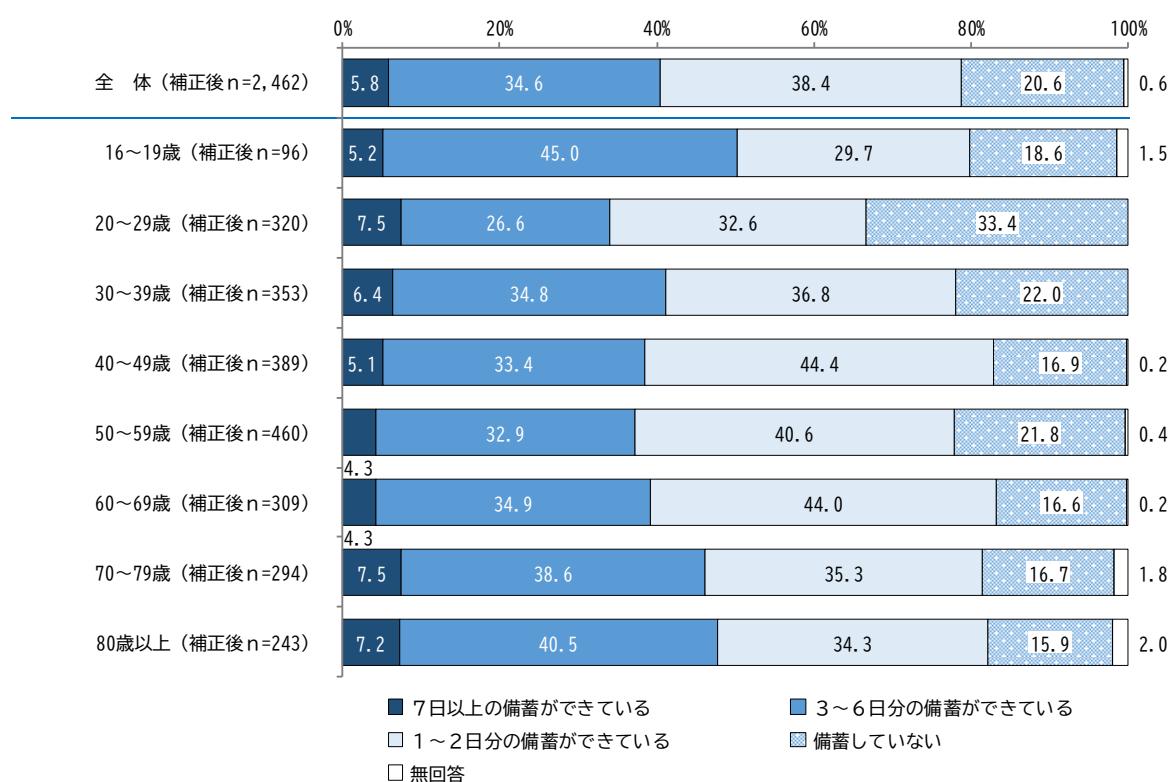


※ 市では災害時の備えとして、最低3日、できれば1週間分の食料品備蓄（飲料水含む）をお願いしています。

■ 4-2 ×年齢

年齢別でみると、20～29歳で「備蓄していない」の割合が高くなっています。

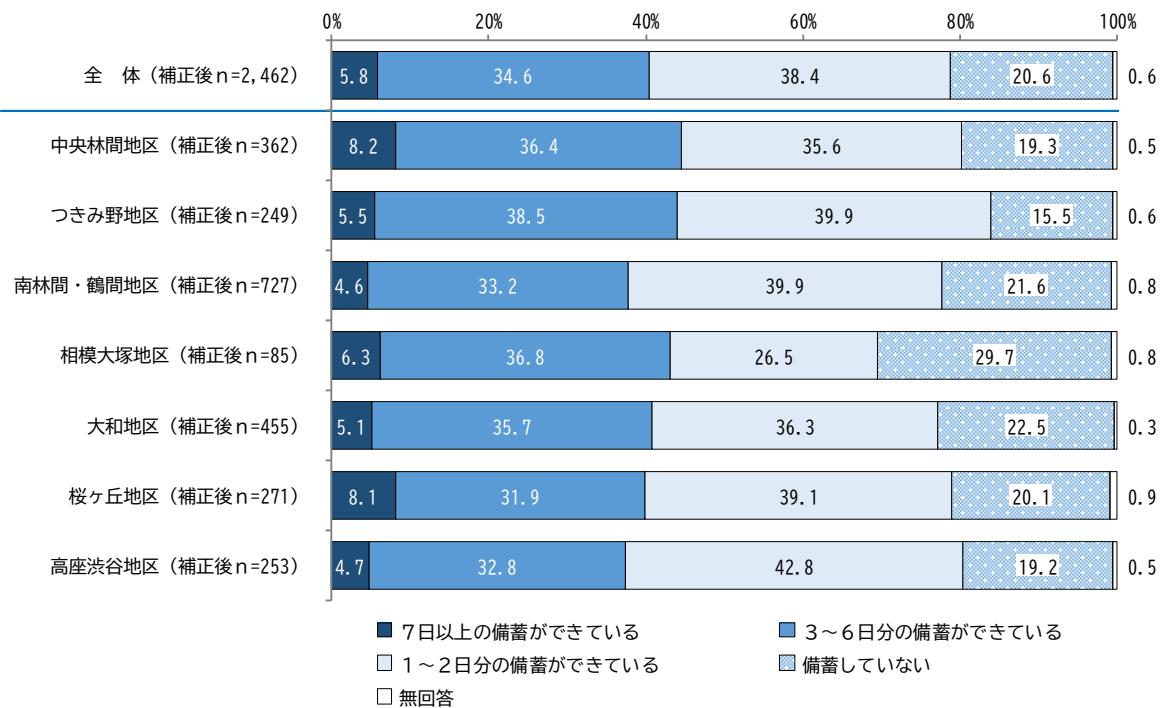
図表4-2-2 家庭での災害時の備えとして何日分の食料品を備蓄しているか×年齢



■ 4-2 ×居住地域

居住地域別でみると、大きな差はみられません。

図表4-2-3 家庭での災害時の備えとして何日分の食料品を備蓄しているか×居住地域



4-3

災害発生時の家族や友人との緊急連絡手段について、あらかじめ決めていますか。

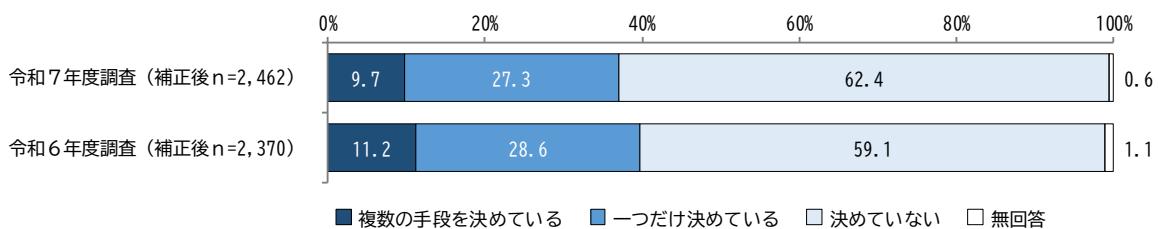
○は1つ

複数の緊急連絡手段をあらかじめ決めている割合が、約1割となっています。

災害発生時の家族や友人との緊急連絡手段を、あらかじめ決めているかについて、「複数の手段を決めている」の割合が9.7%、「一つだけ決めている」の割合が27.3%、「決めていない」の割合が62.4%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表4-3-1 災害発生時の家族や友人との緊急連絡手段をあらかじめ決めている

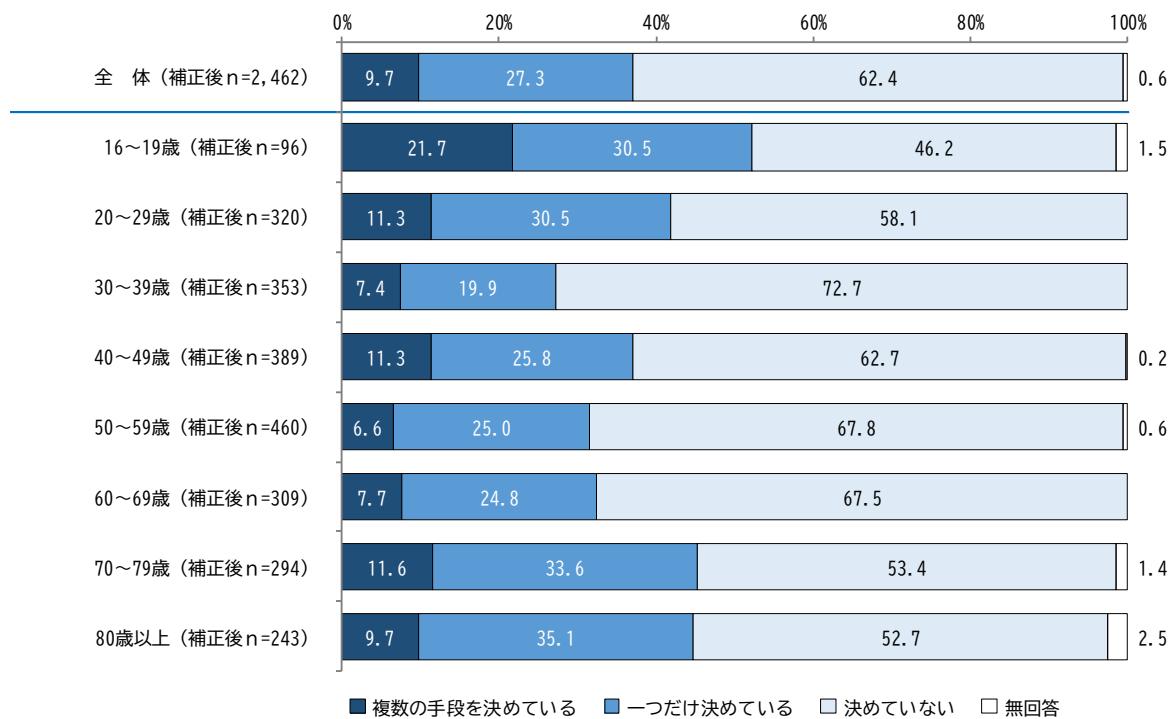


※ 市では災害時の備えとして、NTTの災害用伝言ダイヤル171や、携帯電話各社の災害用伝言板、各種SNSなど、さまざまなツールを用いた複数の連絡手段の確保をお願いしています。

■ 4-3 ×年齢

年齢別でみると、16～19歳で「複数の手段を決めている」の割合が高くなっています。

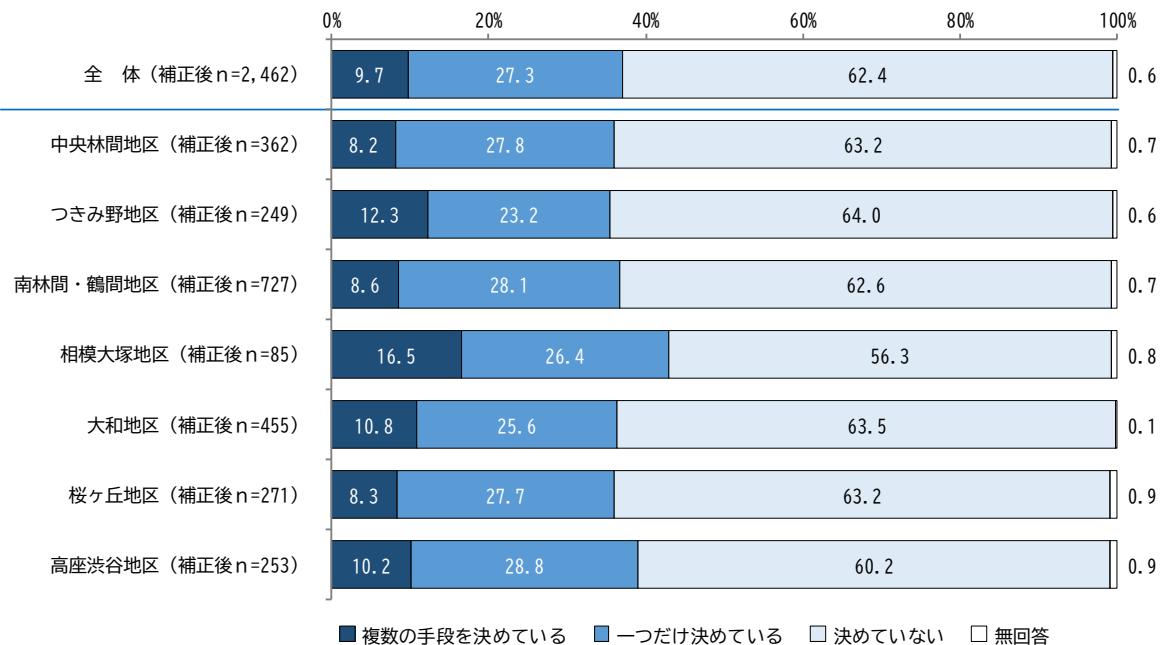
図表4-3-2 災害発生時の家族や友人との緊急連絡手段をあらかじめ決めている×年齢



■ 4-3 ×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で「複数の手段を決めている」の割合が高くなっています。

図表4-3-3 災害発生時の家族や友人との緊急連絡手段をあらかじめ決めている×居住地域



4-4

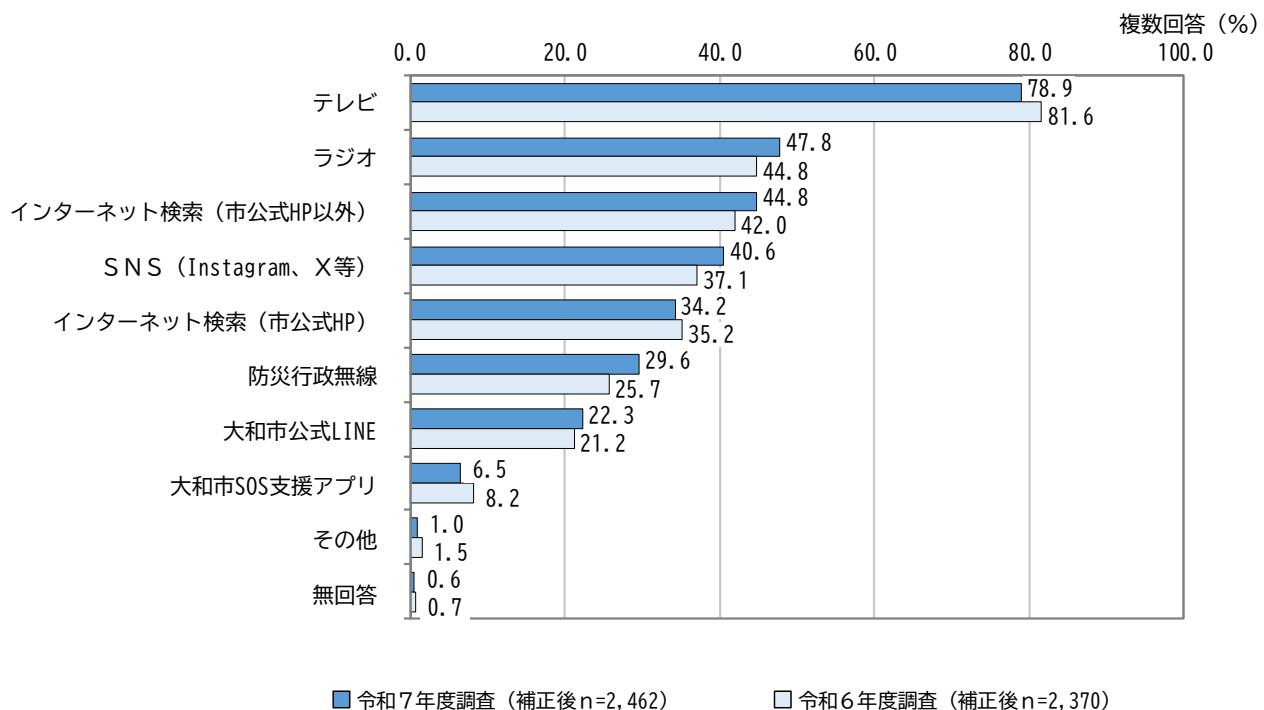
災害時の情報収集手段として使用するものを全てお選びください。

○はいくつでも

テレビを災害時の情報収集手段として使用する割合が、約8割と最も高くなっています。

災害時の情報収集手段として使用するものについて、「テレビ」の割合が78.9%と最も高く、次いで「ラジオ」の割合が47.8%、「インターネット検索（市公式HP以外）」の割合が44.8%となっています。令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

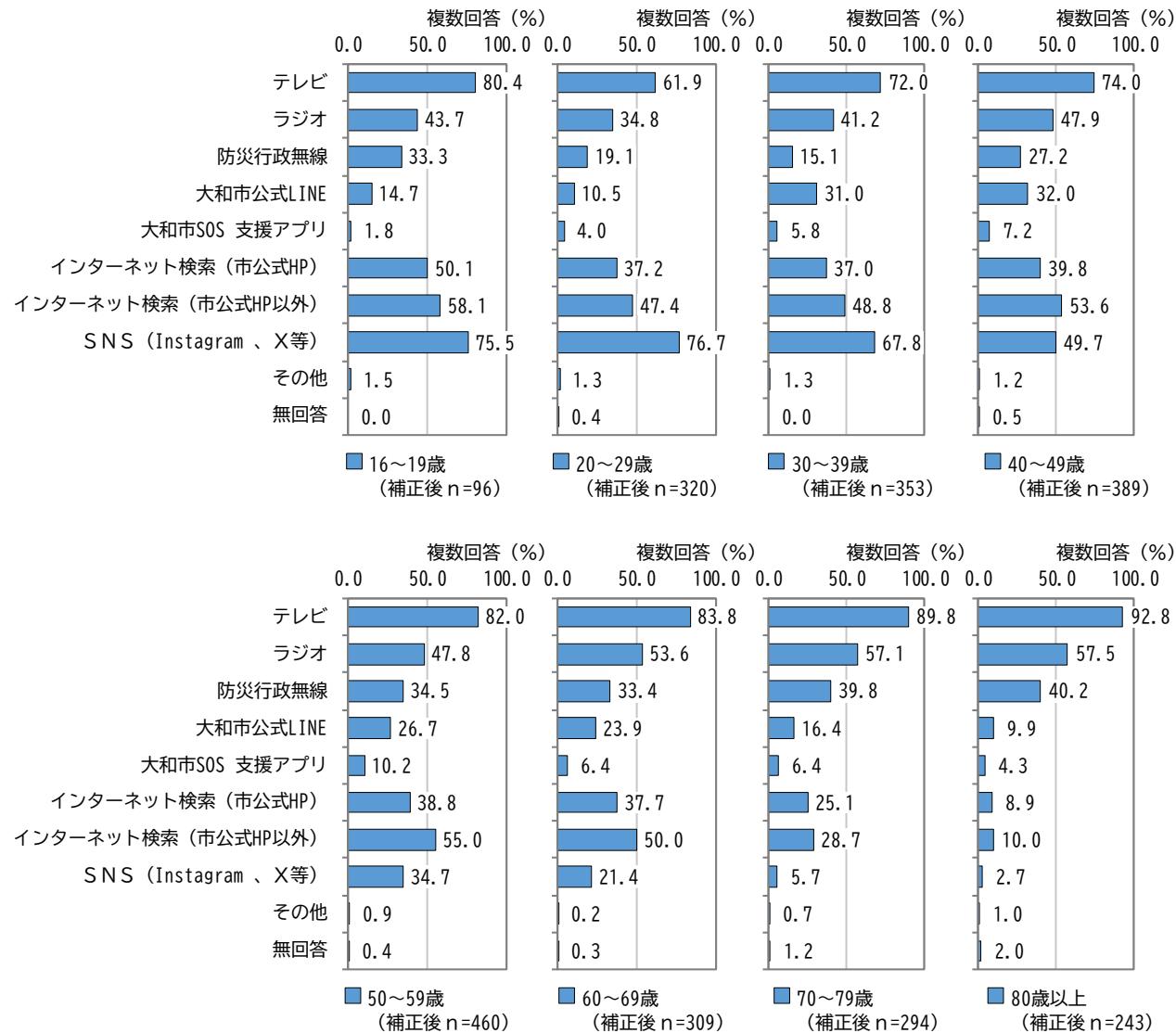
図表4-4-1 災害時の情報収集手段として使用するもの



■ 4-4 ×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど「テレビ」「ラジオ」「防災行政無線」の割合が高い傾向にあり、年齢が下がるほど「SNS (Instagram、X等)」の割合が高い傾向にあります。

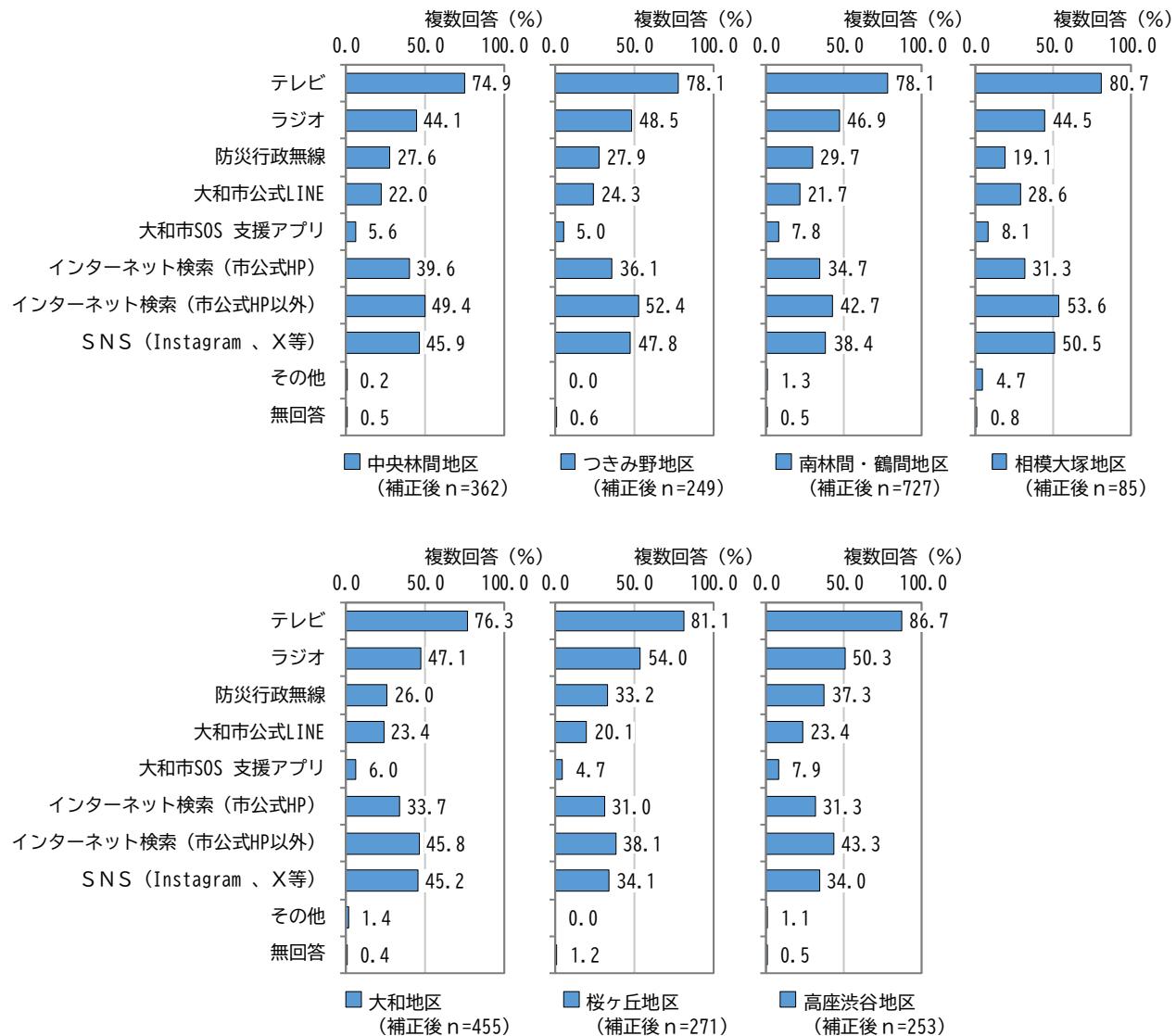
図表4-4-2 災害時の情報収集手段として使用するもの×年齢



■ 4-4 ×居住地域

居住地域別でみると、高座渋谷地区、桜ヶ丘地区で「テレビ」「防災行政無線」「ラジオ」の割合が高くなっています。

図表4-4-3 災害時の情報収集手段として使用するもの×居住地域



4-5

あなたが住んでいる地域の避難場所について、災害の種類・規模など状況に応じた複数の避難場所を知っていますか。

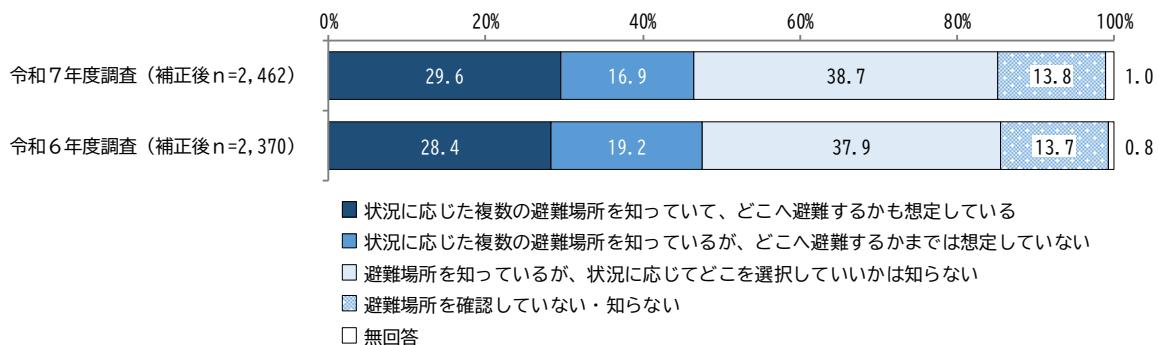
○は1つ

災害の種類・規模など状況に応じた複数の避難場所を知っている割合が、約5割となっています。

災害の種類・規模など状況に応じた複数の避難場所を知っているかについて、「避難場所を知っているが、状況に応じてどこを選択していいかは知らない」の割合が38.7%と最も高く、次いで「状況に応じた複数の避難場所を知っていて、どこへ避難するかも想定している」の割合が29.6%、「状況に応じた複数の避難場所を知っているが、どこへ避難するかまで、は想定していない」の割合が16.9%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

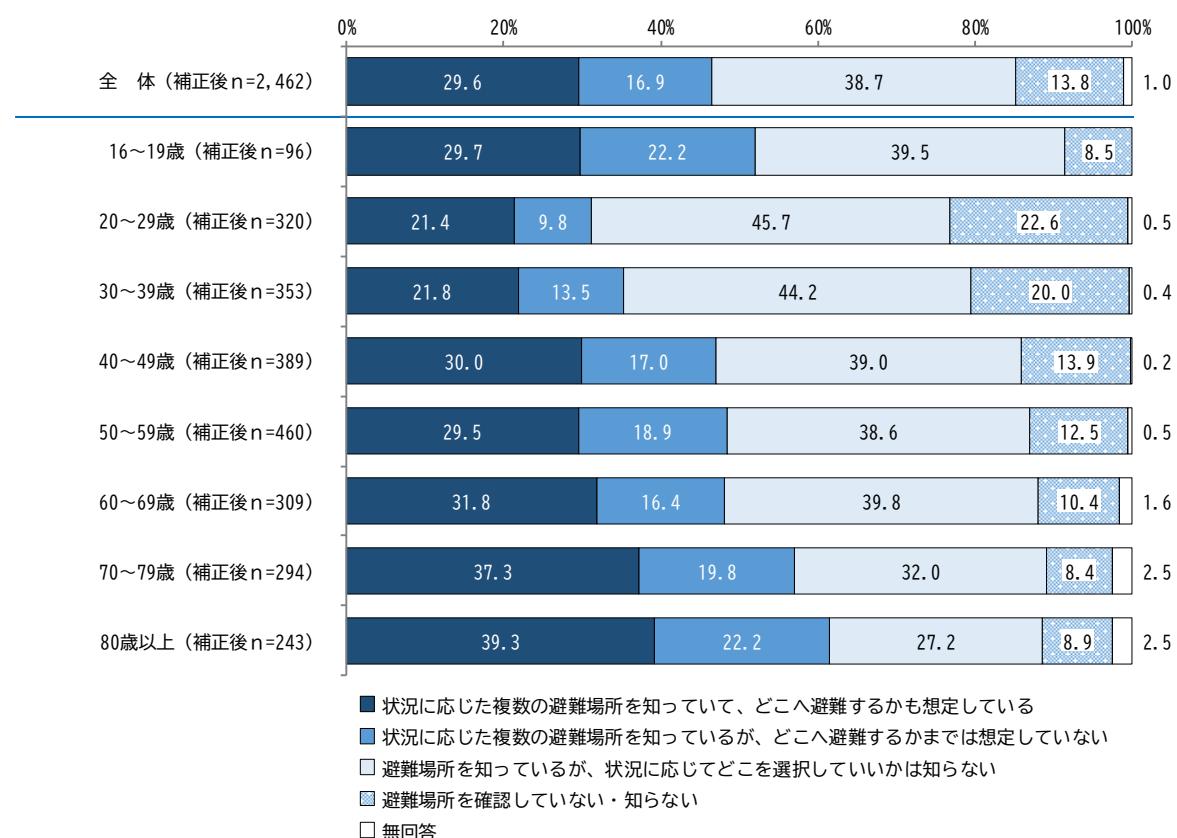
図表4-5-1 災害の種類・規模など状況に応じた複数の避難場所を知っている



■ 4-5 ×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど「状況に応じた複数の避難場所を知っていて、どこへ避難するかも想定している」の割合が高い傾向にあります。

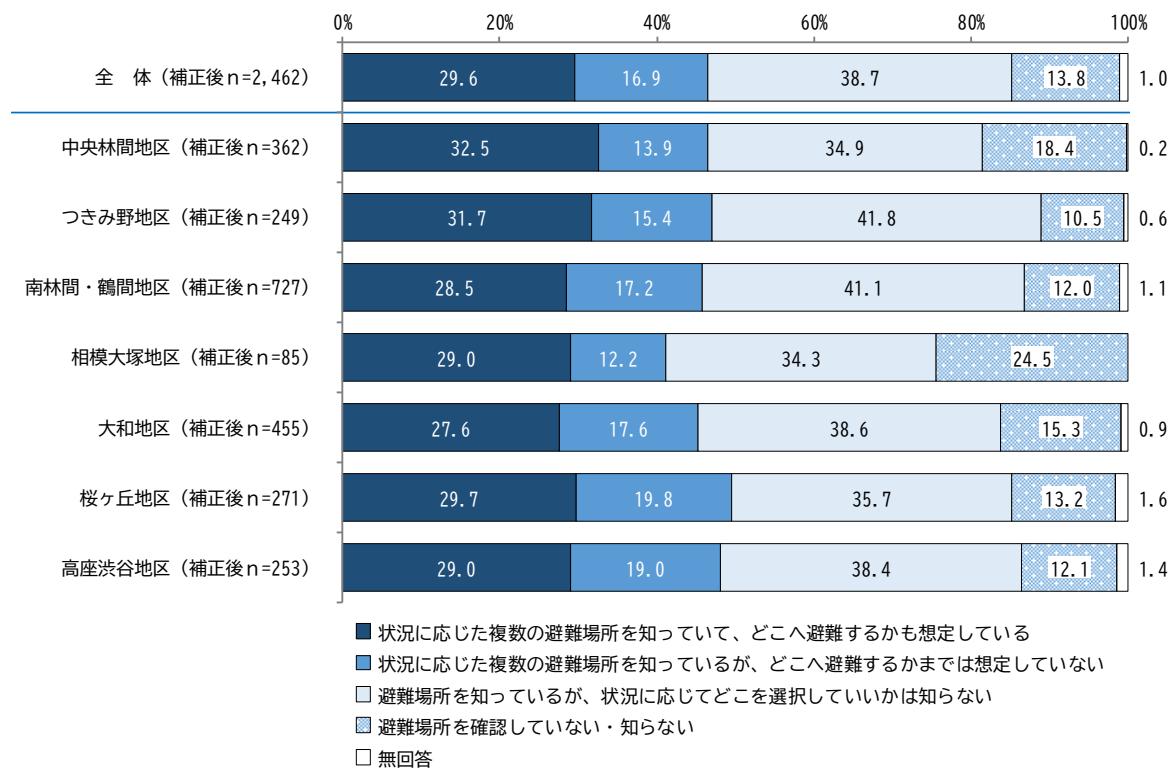
図表4-5-2 災害の種類・規模など状況に応じた複数の避難場所を知っている×年齢



■ 4-5×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で「避難場所を確認していない・知らない」の割合が高くなっています。

図表4-5-3 災害の種類・規模など状況に応じた複数の避難場所を知っている×居住地域



4-6

災害用携帯トイレの備蓄（1人1日あたり5回×7日分を目安とする）状況と、使い方の習熟度について、お選びください。

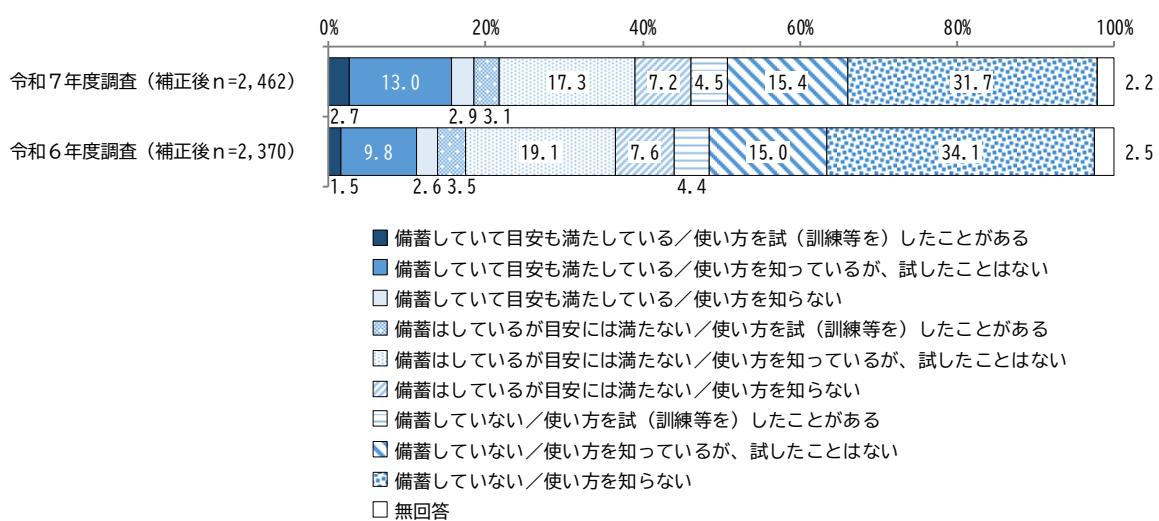
○は1つ

備蓄量の目安を満たしている割合が、約2割となっています。

災害用携帯トイレの備蓄（1人1日あたり5回×7日分を目安とする）状況と使い方の習熟度について、「備蓄していない／使い方を知らない」の割合が31.7%と最も高く、次いで「備蓄はしているが目安には満たない／使い方を知っているが、試したことはない」の割合が17.3%、「備蓄していない／使い方を知っているが、試したことはない」の割合が15.4%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表4-6-1 災害用携帯トイレの備蓄状況と使い方の習熟度

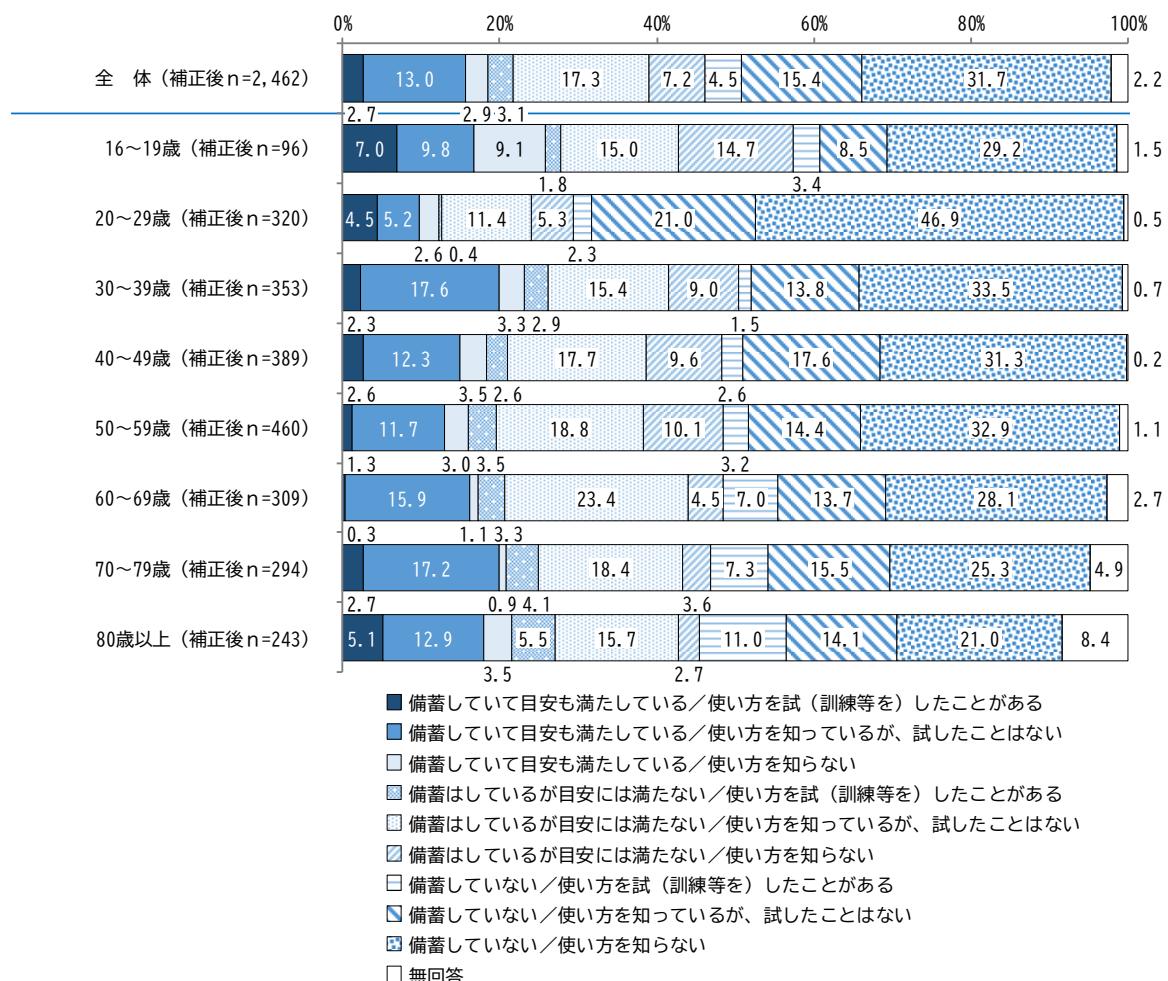


※ 市では災害時に必要な備えの1つとして、最低3日、できれば1週間分の携帯トイレの備蓄をお願いしています。（家族の人数×1日5回）

■ 4-6 ×年齢

年齢別でみると、20～29歳で「備蓄していない／使い方を知らない」の割合が高くなっています。

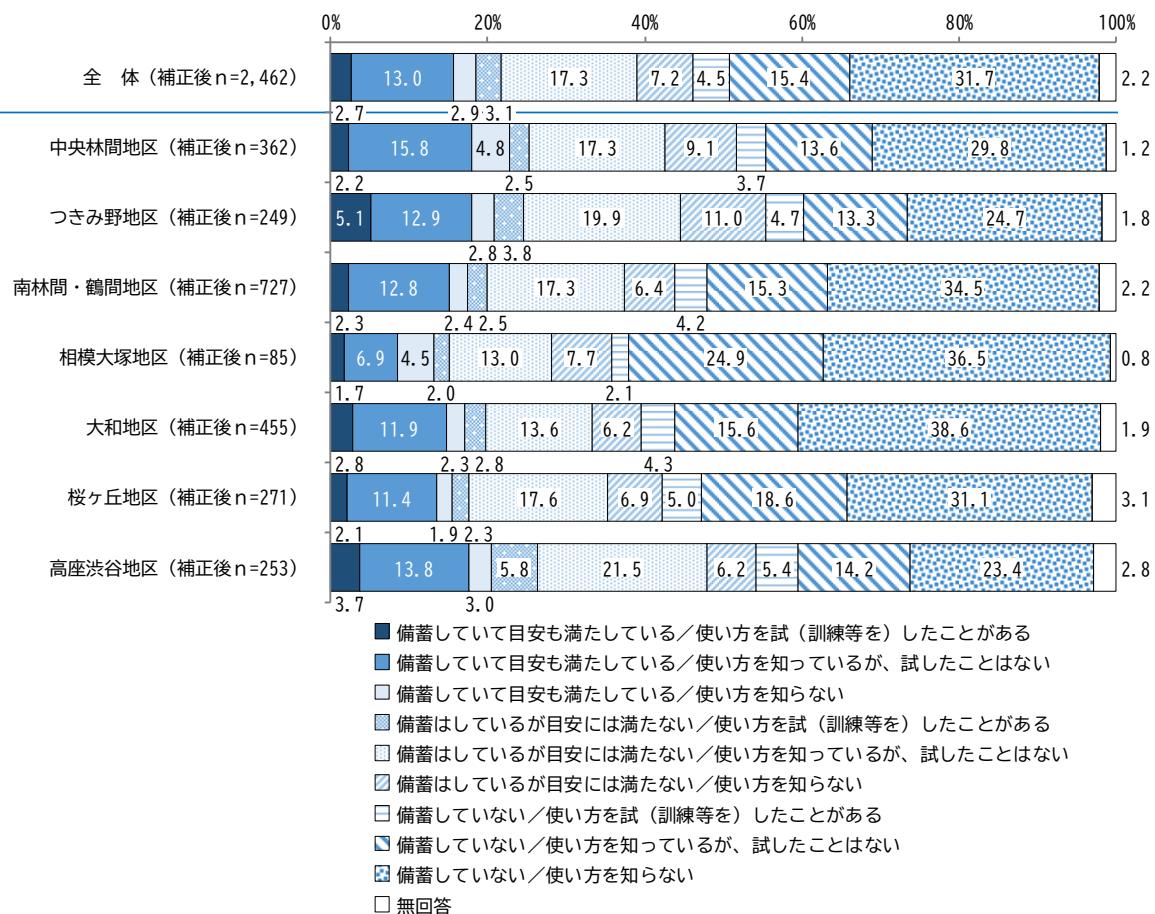
図表4-6-2 災害用携帯トイレの備蓄状況と使い方の習熟度×年齢



■ 4-6 ×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で「備蓄はしているが目安には満たない／使い方を知らない」の割合が高くなっています。

図表4-6-3 災害用携帯トイレの備蓄状況と使い方の習熟度×居住地域



4-7

地震への安全対策について、自宅における家具等と、職場における事務機器等の固定状況を教えてください。

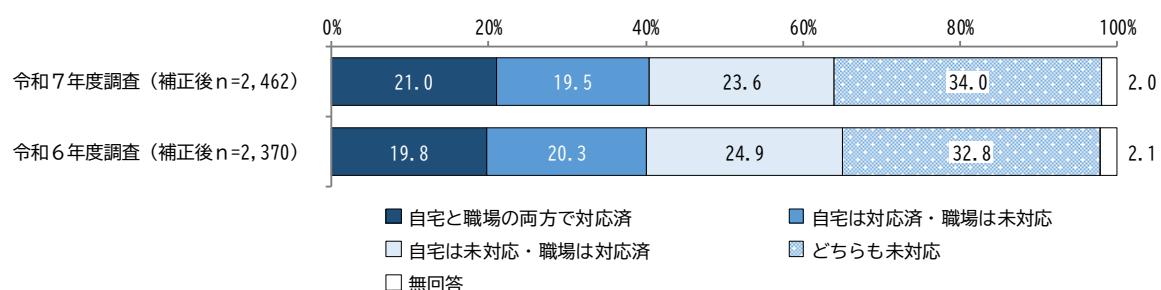
○は1つ

地震への安全対策として、自宅における家具等を固定している割合が約4割で、職場における事務機器等を固定している割合が約4割となっています。

自宅における家具等と職場における事務機器等の固定状況について、「どちらも未対応」の割合が34.0%と最も高く、次いで「自宅は未対応・職場は対応済」の割合が23.6%、「自宅と職場の両方で対応済」の割合が21.0%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

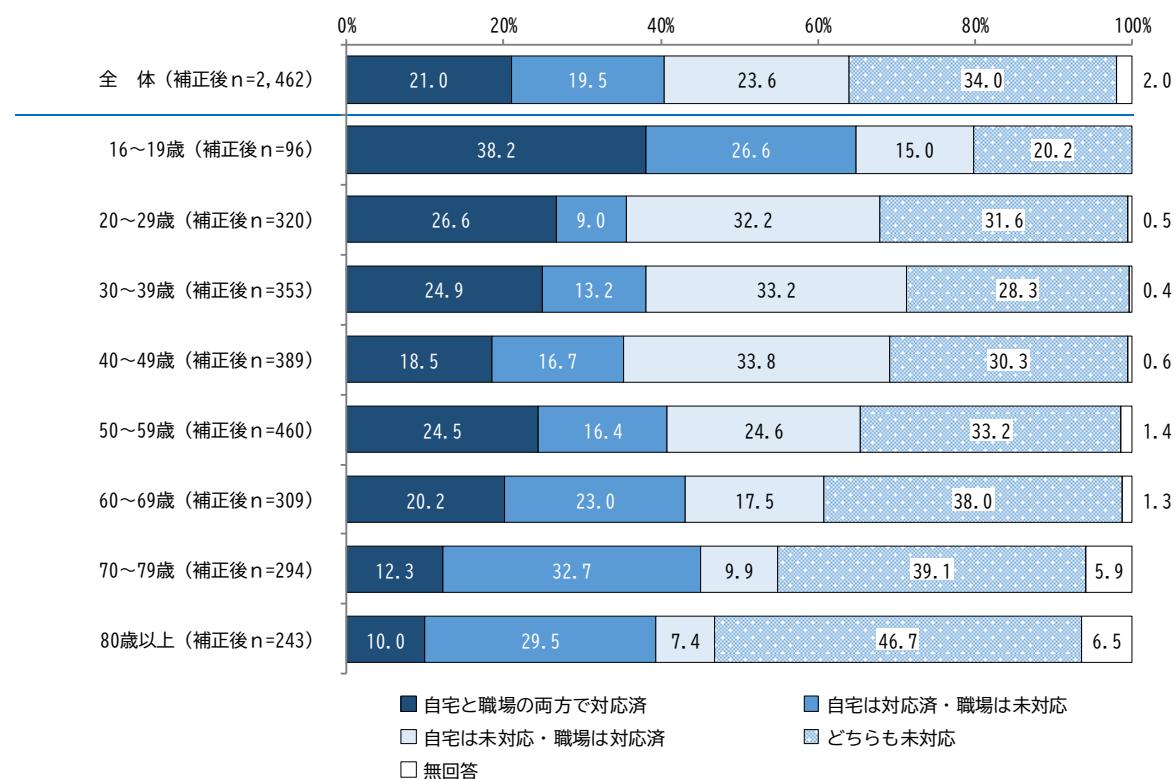
図表4-7-1 自宅における家具等と職場における事務機器等の固定状況



■ 4-7 ×年齢

年齢別でみると、16～19歳で「自宅と職場の両方で対応済」、80歳以上で「どちらも未対応」の割合が高くなっています。

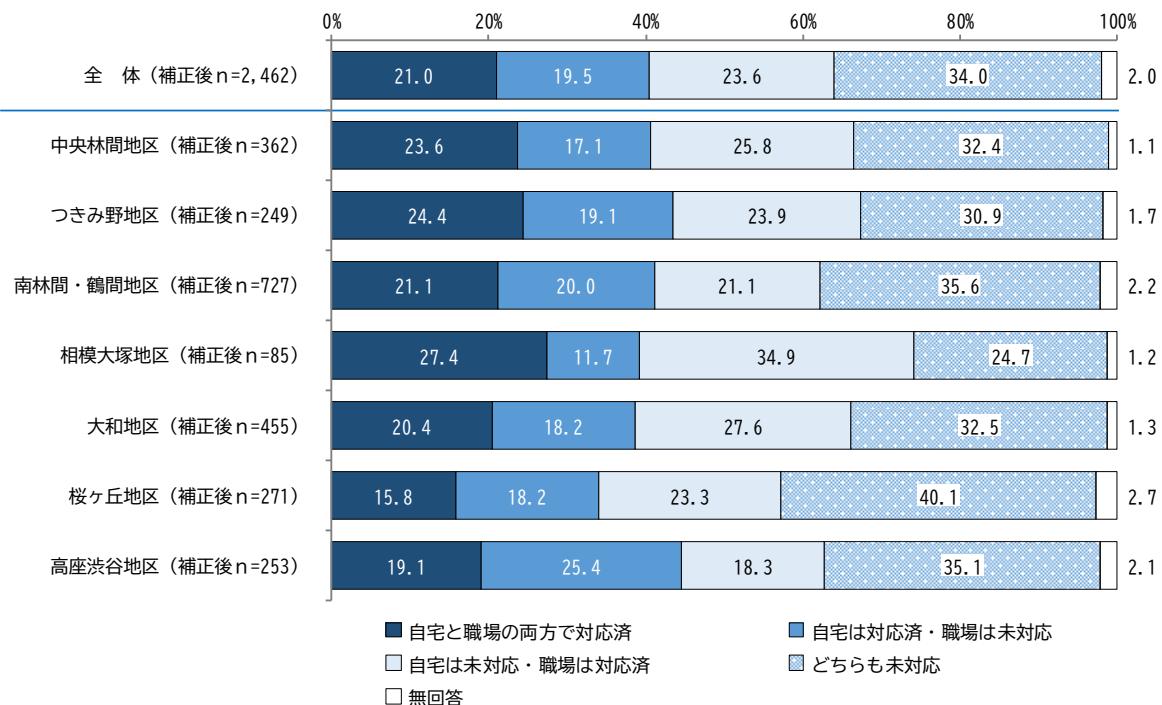
図表4-7-2 自宅における家具等と職場における事務機器等の固定状況×年齢



■ 4-7×居住地域

居住地域別でみると、桜ヶ丘地区で「どちらも未対応」の割合が高くなっています。

図表4-7-3 自宅における家具等と職場における事務機器等の固定状況×居住地域



問5

治安の向上に向けて、市に力を入れて取り組んでほしいものを選んでください。

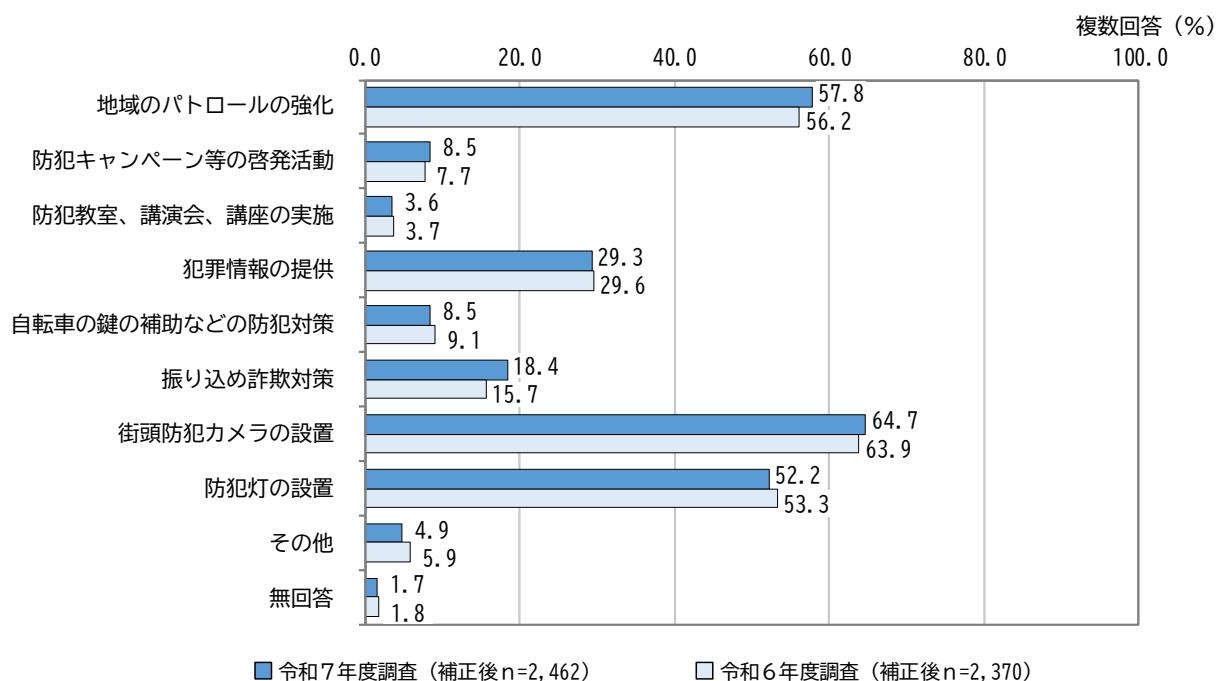
○は3つまで

治安の向上に向けて、「街頭防犯カメラの設置」「地域のパトロールの強化」「防犯灯の設置」に力を入れて取り組んでほしいと思っている割合が高くなっています。

治安の向上に向けて、「街頭防犯カメラの設置」の割合が64.7%と最も高く、次いで「地域のパトロールの強化」の割合が57.8%、「防犯灯の設置」の割合が52.2%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

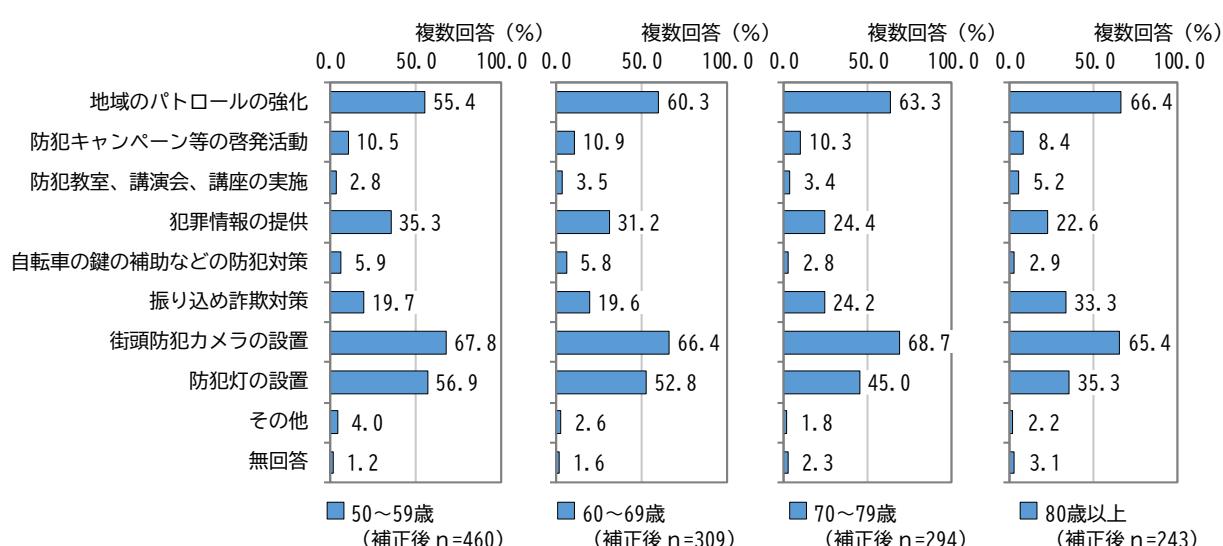
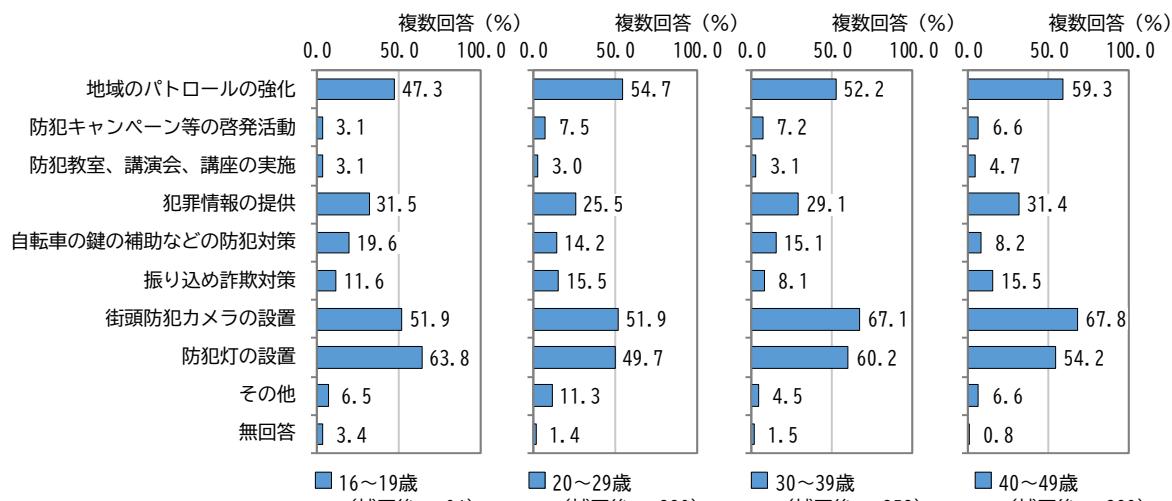
図表5-1 治安の向上に向けて力を入れて取り組んでほしいもの



■ 問5×年齢

年齢別でみると、年齢が下がるほど「自転車の鍵の補助などの防犯対策」の割合が高い傾向にあり、年齢が上がるほど「振り込め詐欺対策」の割合が高い傾向にあります。

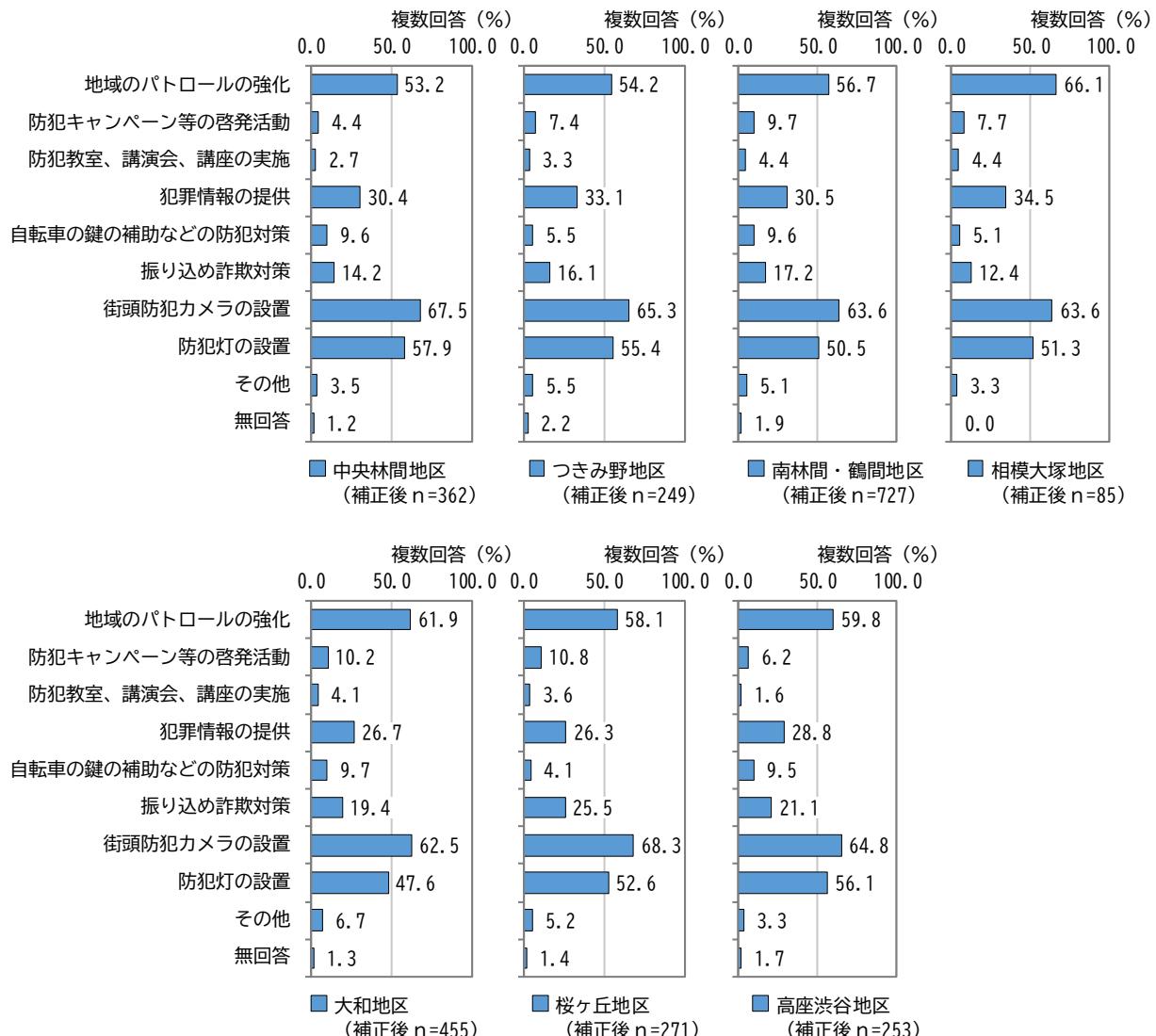
図表5-2 治安の向上に向けて力を入れて取り組んでほしいもの×年齢



■ 問5×居住地域

居住地域別でみると、大きな差はみられません。

図表5-3 治安の向上に向けて力を入れて取り組んでほしいもの×居住地域



問6 市の環境について、あなたの考えに最も近い番号を選んでください。

6-1

大和市は、身边に多くの動植物とふれあいのあるまちだと思いますか。

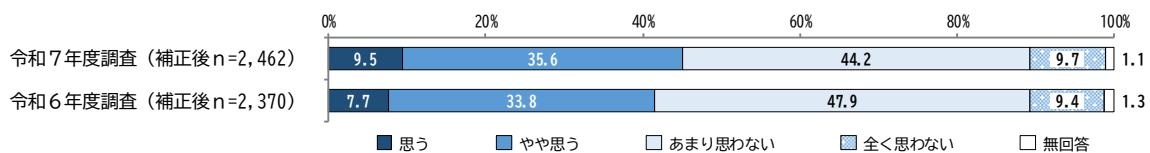
○は1つ

大和市は、身边に多くの動植物とふれあいのあるまちだと思います（「思う」と「やや思う」の合計）割合が、約5割となっています。

大和市は、身边に多くの動植物とふれあいのあるまちだと思いますかについて、「思う」「やや思う」を合わせた“思う”的割合が45.1%、「あまり思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”的割合が53.9%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

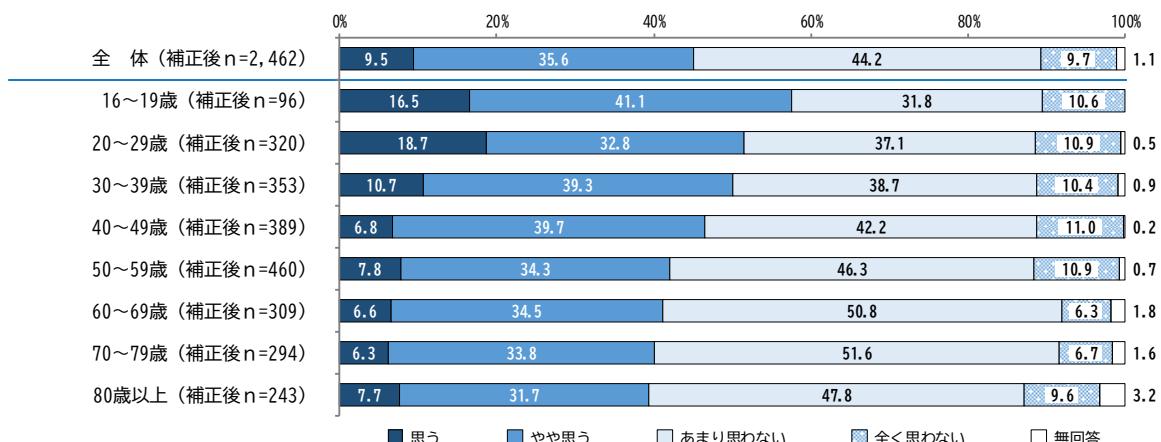
図表6-1-1 大和市は身边に多くの動植物とふれあいのあるまちだと思います



■ 6-1 ×年齢

年齢別でみると、年齢が下がるほど「思う」の割合が高い傾向にあります。

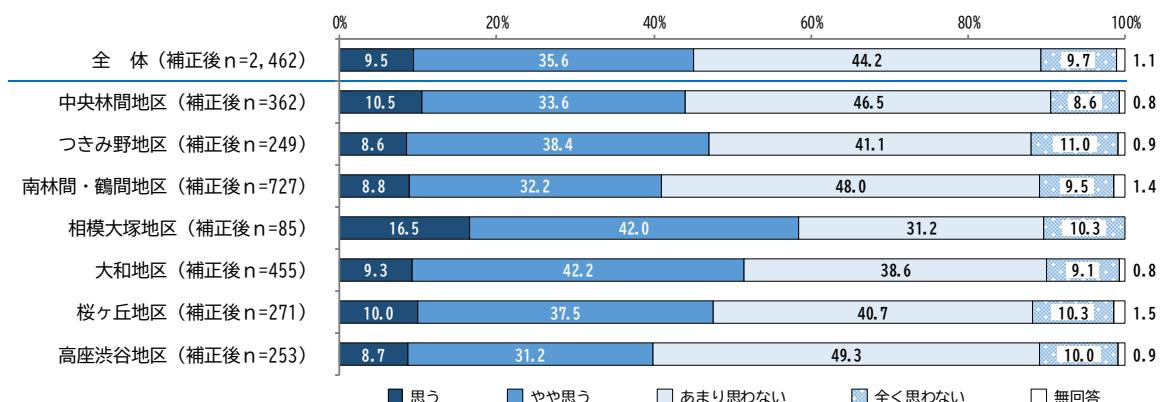
図表6-1-2 大和市は身边に多くの動植物とふれあいのあるまちだと思います×年齢



■ 6-1 ×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で「思う」の割合が高くなっています。

図表6-1-3 大和市は身边に多くの動植物とふれあいのあるまちだと思います×居住地域



6-2

あなたのまわりでは、環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多いと思いますか。

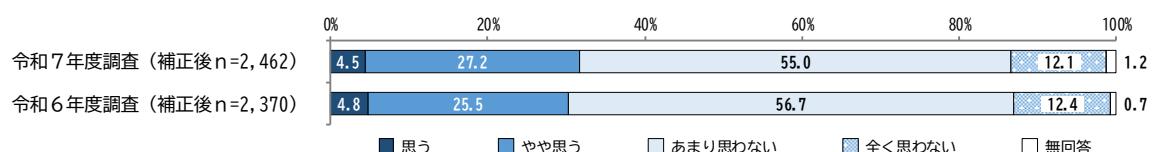
○は1つ

環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多いと思う（「思う」と「やや思う」の合計）割合が、約3割となっています。

環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多いと思うかについて、「思う」「やや思う」を合わせた“思う”的割合が31.7%、「あまり思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”的割合が67.1%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

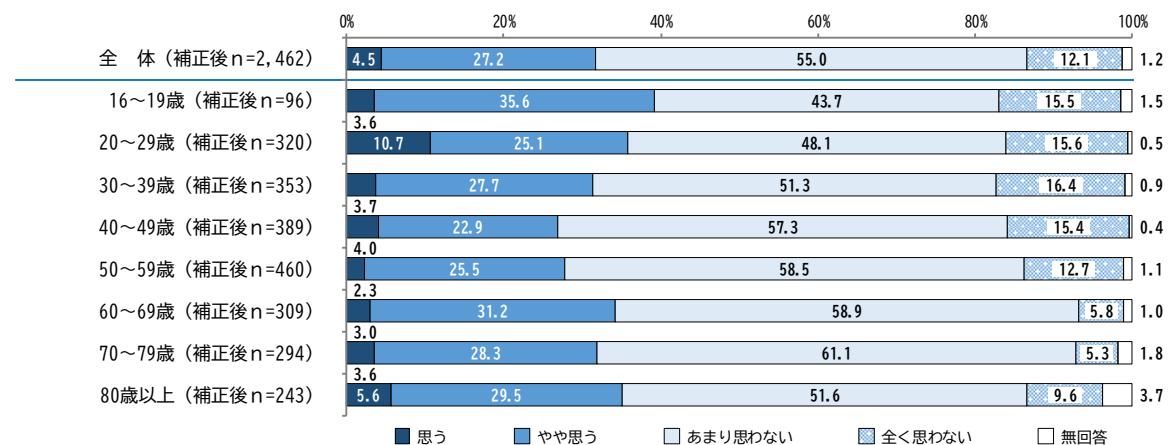
図表6-2-1 環境に配慮したり環境保全活動に取り組む人が多いと思うか



■ 6-2 ×年齢

年齢別でみると、40～49歳、50～59歳で、“思う”的割合が低くなっています。

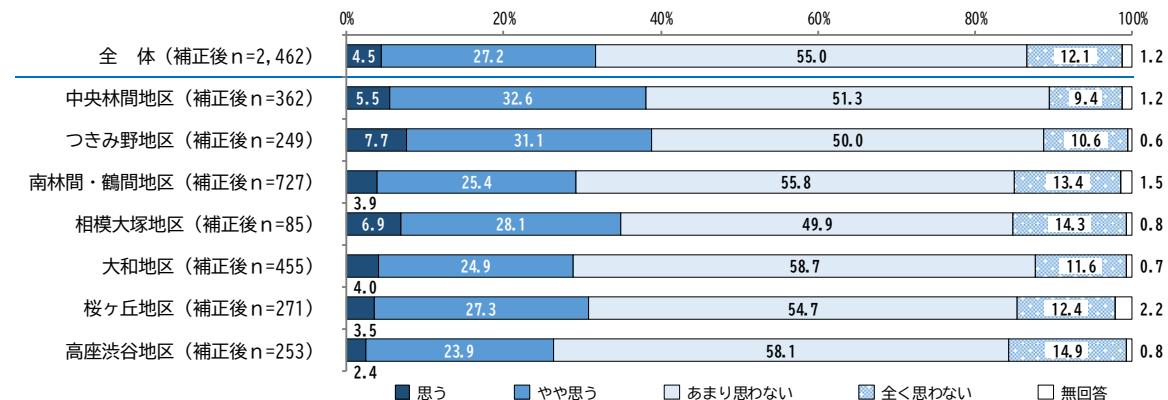
図表6-2-2 環境に配慮したり環境保全活動に取り組む人が多いと思うか×年齢



■ 6-2 ×居住地域

居住地域別でみると、中央林間地区、つきみ野地区で“思う”的割合が高くなっています。

図表6-2-3 環境に配慮したり環境保全活動に取り組む人が多いと思うか×居住地域



6-3

あなたは、石けんの利用や生活排水が河川を汚さないような取り組みをして
いますか。

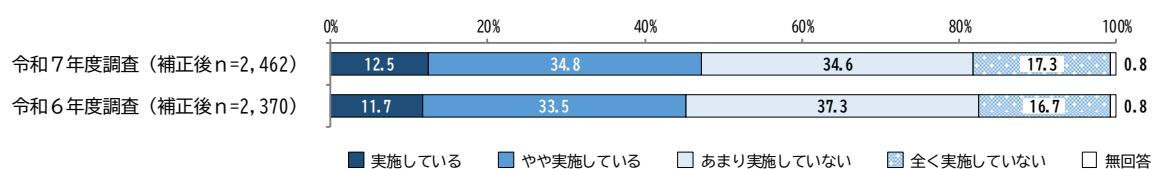
○は1つ

石けんの利用や生活排水が河川を汚さないような取り組みを実施している（「実施している」と「や
や実施している」の合計）割合が、約5割となっています。

石けんの利用や生活排水が河川を汚さないような取り組みをしているかについて、「実施している」「や
や実施している」を合わせた“実施している”の割合が47.3%、「あまり実施していない」「全く実施して
いない」を合わせた“実施していない”的割合が51.9%となっています。

令和6年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

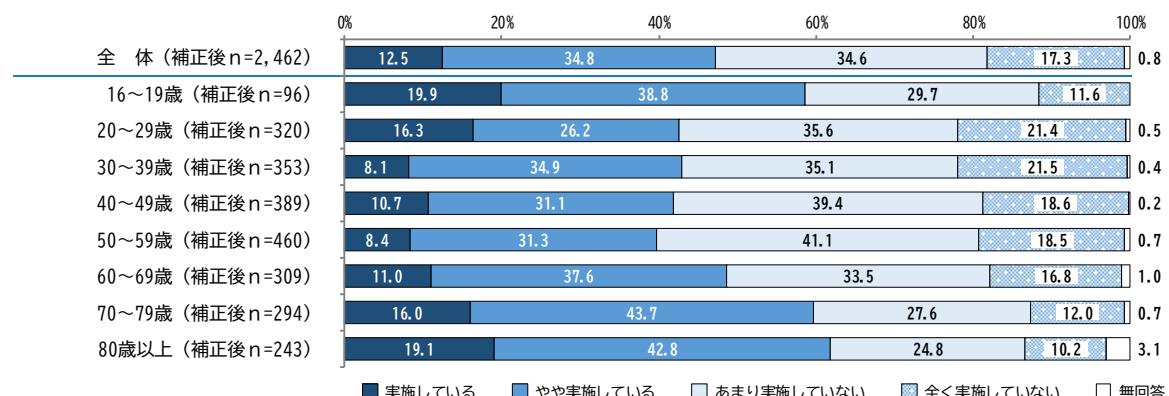
図表6-3-1 石けんの利用や生活排水が河川を汚さないような取り組みをしているか



■ 6-3 ×年齢

年齢別でみると、16～19歳、70～79歳、80歳以上で、“実施している”的割合が高くなっています。

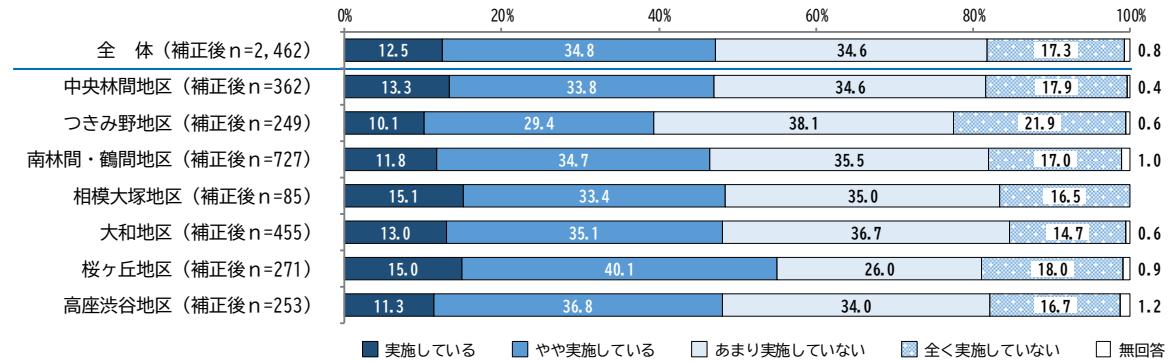
図表6-3-2 石けんの利用や生活排水が河川を汚さないような取り組みをしているか×年齢



■ 6-3 ×居住地域

居住地域別でみると、桜ヶ丘地区で“実施している”的割合が高くなっています。

図表6-3-3 石けんの利用や生活排水が河川を汚さないような取り組みをしているか×居住地域



6-4

地球温暖化対策等について、ご意見や感じていることを自由に記入してください

自由記述

632人から回答があり、その内容を分類した結果は次のとおりです。

※複数の意見が記入されているため、回答者数の合計とは一致しません。

図表6-4 地球温暖化対策等についての意見

区分	件数
ごみ分別とリサイクル	82
温暖化に対する危機意識	79
環境負荷の低い生活・取組の実践例	76
自然環境の保護	75
温暖化対策に必要な視点・取組体制	51
温暖化対策への支援制度	45
環境教育と啓発	42
エネルギー構成・再生可能エネルギー	34
展開すべき具体的な温暖化対策等	33
災害・人体・生命への脅威	22
市の公共施設における対策	21
地表温度の上昇・ヒートアイランドの抑制	17
その他	103
合計	678

主な内容は以下のとおりです。

■ ごみ分別とリサイクル

- ・以前ゴミゼロをうたっていたが、最近はプラのみ気をつけ紙ゴミについては減らそうという意識を持つ人が減っているように思う。
- ・資源ゴミの分別を皆がきちんと実行して欲しい。資源ゴミも自宅前に出せると良いが無理だろうと思っている。
- ・脱プラや分別ゴミに関して市区町村によって差がありすぎる。有料ゴミ袋や分別などゴミ問題に関しては国が率先して行うべきだと思う。
- ・市行政を含めて、紙で印刷配布はなくして、デジタル化して紙を無くしていくことで、焼却ごみをなくしていくべきだと思う。
- ・使い捨てプラスがあふれている。プラス容器を簡単に作って売らないでほしい。

■ 温暖化に対する危機意識

- ・ここ数年、世界のいたる所で温暖化によると思われる異常気象（高温、多雨、少雨）が数多く発生している。原因とされる温室効果ガスの抑制に向け、様々な対策（カーボンニュートラル等）が進められているが、5年先、10年先が心配です。
- ・意識して対策に取り組んでいない立場として堂々と言えることではありませんが、日本の四季がなくなりつつあることに恐怖を感じます。
- ・温暖化に依る自然災害が心配。しかし個人で何をしてよいのか。どの様に対策をとるのかよくわからない。
- ・家のエアコンの設定温度は気をつけているが、スーパーやコンビニ等に行くと、冷蔵庫の様な寒さに、対策しているのか？と疑問を感じる。
- ・昔の様に四季が感じられなくなり日中の暑さには閉口しています。
- ・最近気候変化が著しいので地球温暖化対策に協力しなければならないと思っているが、本当にその対策が正しいのか、効果があるのか疑問に思ってしまっているので、積極的に行動に移せていない。
- ・年々暑さが厳しくなり季節も4つに分けられなくなっているように思う。誰もがその点に気付いているが、では何をすべきかと考えたり、自分事として真剣にとらえているかは不明だと思う。他人事、他人まかせなところがある。

■ 環境負荷の低い生活・取組の実践例

- ・なるべく徒歩や公共交通機関を利用するようにしている。
- ・移動手段として車を利用せず、できる限り自転車を利用している。
- ・徒歩や自転車や電車・バスを使おう。
- ・最近エアコン・冷蔵庫などの家電製品は、省エネ技術が向上し消費電力もおさえられている。少しづつ家電の買い替えも必要な事だと思っています。
- ・小さな事が自分に出来ることをしている。1、冷暖房、照明、節水、利用を少なくする。食品ロスを減らす。1、エコバックを使う。1、アイドリングをしない。
- ・電気、ガス、水道のムダ使いに注意している。
- ・電源をまめに切る。買物はなるべく自転車等を使い車を減らす。食品はなるべく使い切り、食べ残しを減らすなど日常的に頭の中に入っている。
- ・庭には植木、花を植え緑化に努めている。
- ・物を買うにしても再生できるものを選ぶ。なるべくゴミを出さないようにする。

■ 自然環境の保護

- ・環境汚染がすすんでいて引地川が汚れていることが残念。神明橋付近の川は草がボーボーに生えている為、ゴミが流れてきて溜まってしまったり、ポイ捨ても時々見かけます。大雨の時には氾濫してしまうのではないかと心配になります。川の清掃を地域で行った方がいいのではないでしょうか。
- ・公園の木が少ない。やまと公園も中央林間のツリーハウスも大きな木を伐採してしまった事が残念。新しいキレイな建物にソーラー発電等を設置するのも良いが、木を残す、保護する、育てる方向の地球温暖化対策も、地熱を下げる、CO₂削減にもなり、市が地球温暖化対策しているアピールにも大きくつながると思う。

- ・市街地の緑化を強力に推進してほしい。
- ・大和市では最近、林などを宅地にしていて、緑も少なくしている。

■ 温暖化対策に必要な視点・取組体制

- ・後世のことを考えた取組みが不充分であり、行政がもっと施策として国民・市民に求めて良いのではないでしょうか。
- ・温暖化対策は喫緊の課題だと思うが、市として取り組んでいる具体的な施策が見えない。観念的なものではなく、小さくても良いので市民一人一人からすぐに取りかかれる施策を提案して欲しい。
- ・義務付けられていないことが多いように感じるので、もう少し強制的な部分を増やさなければ、温暖化対策につながらないと思う。
- ・個人でできることには限りがあるが温暖化は急速に進んでいる。市にも積極的な啓蒙活動の推進や中央行政への働きかけを望みます。子や孫の未来が心配です。
- ・個人に努力を求めるより、企業に対し利益売上至上主義を押えた方が有効と考える。
- ・車を減らす為に、公共交通機関を早急に増やすべきだと思います。
- ・このままだと年々気温が上がってき、耐えられなくなってしまうのではないかと思っている。

■ 温暖化対策への支援制度

- ・屋上緑化、太陽光パネル設置、EV自動車等の優遇措置を大和市でやれることはありますか。
- ・夏は暑すぎるので野外で仕事する人に空調服の支給もしくは補助金を出すなどどうでしょうか。
- ・建築物（住宅を含む）の断熱化に対する助成、補助などは有効だと感じる。反して太陽光発電等は設備の廃棄までを考慮するとあまり良い施策だとは思わない。
- ・個人での対策には限界があるため、国や市の支援を温暖化対策ルールを定め、基準を満たしている法人や個人（世帯）への支援金補助（公共料金の負担軽減又は減税など）を実施してみるのはいかがでしょうか？
- ・太陽光パネルの廃棄に補助を出してほしい。

■ 環境教育と啓発

- ・個々がもっと自覚して欲しい。この事は子供たちにしっかり教えていく事。少しの事でも1人1人が実践していく方が良い。
- ・これ以上、地球温暖化が進まないよう、市民一人一人ができる事を何かできたらと思います。ただ、何をどうすれば良いかの指針などあればお知らせ頂きたいです。
- ・まず、市で行っている事、自治会等で推進している事、各個に対する要望、取組みがわからないので、今後、情報がほしいです。
- ・引地川でもプラ袋等が多く見られ、マイクロプラスチックの原因にもなり、環境悪化につながり又地球温暖化にもつながると思うので、啓発活動を強く進めてほしい。
- ・対策と取り組みをもう少し誰もが気付いて実行できるよう多くの所で（市施設、学校、駅等）わかりやすく今の状況、今できることを考えた方がよい。手遅れになる前に。

■ エネルギー構成・再生可能エネルギー

- ・ソーラーパネルの設置はやめてほしい。
- ・太陽光発電や蓄電について、情報を発信して欲しい。集合住宅の場合ベランダに設置するとなると蓄電できるに至るのか知りたい。
- ・日本は地球温暖化対策含め SDGS とか意識が薄い。もっと対策するべき。火山とか沢山あるし地熱発電でもやればいいと思う
- ・再生可能エネルギーの利用に関して、補助を充実してほしい。

■ 展開すべき具体的な温暖化対策等

- ・サマータイム導入まではいかなくとも、夕立ち、ゲリラ豪雨も多くなってきたので会社は 16:00 で終了してはどうか。
- ・もう少しリユース品を使うこと=お金がない＆節約だけではなく、地球環境に優しいや、そういうものを使うほうが地球環境を考えると賢い選択、そういうほうがカッコいい風潮など根付いて欲しい。また、プラスチック製品は何回か（2回でも3回でも）使うことを想定した製造＆使う用途の確立をして欲しい。
- ・ジモティーと協力して大和市もごみ削減に取り組んでいることは知っているので、他にも民間と協力したり他の市で行なっている温暖化対策に繋がることがあれば積極的に取り入れていって欲しい。
- ・自動車（公用車）を電気自動車にする。公共交通機関をより利用してもらえるように徒歩や自転車移動をするとポイント付与される。
- ・電気自動車、ソーラー発電等脱炭素化。プラゴミの減少化等1人々ががんばればきっと地球温暖化を今より悪くする事は、ないと思う。

■ 災害・人体・生命への脅威

- ・引地川沿いの住民ですが、近年の異常気象に依る集中豪雨での他地域での被害を身近に感じます。川の中の、丈長の草と堆積した土砂にて、川が浅く狭くなつて、ちょっとした雨でも水量が（水位）上がり、心配です。被害を受ける前での対策を願います。
- ・外で行うスポーツは、気温が高い日に長い時間するのは危険だと思う。
- ・最近の亜熱帯のような気候には危機感を感じる。庭に雨がたまって、エアコンの室外機が水没しそうになったことがある。
- ・暑すぎる。子どもの登下校が心配。
- ・年々暑さが増し、室内にいてもエアコンが必須になっている。対策も大切だが、一番は家族の命が大切になるので難しい。
- ・年々気温が上昇しているため、まずは熱中症対策など自分を守る対策が必要だと感じる。

■ 市の公共施設における対策

- ・小中学校等の体育館への冷房設置など早急に進めてほしい。室内競技へのやりにくさも感じている。
- ・公共の建物にまず太陽光発電設備をする事だ。自然エネルギーに依る発電に力を入れて原発は止める方向へ国が力を入れる事です。
- ・40°C近い照り返しのきついコンクリート道を老人や子どもが夏に買い出しに歩くのは危険なレベル。大和市独自で市内だけでも自由に歩けるように、雨風をしのぐひさし付ストリートを開発して設置するはどうだろう。ひさし付ストリートは冬時期は市場として再利用し、自由な商工業を生み出せるかも。

■ 地表温度の上昇・ヒートアイランドの抑制

- ・アスファルト等の工事で、温度をおさえる材料を含んで対策をしてほしい。
- ・建物や設備、遊具等に熱を遮断、熱が上昇しない塗装を施してほしい。
- ・都市生活で放出される熱をいかに減らすかに予算を割くべき。熱の放出の少ないアスファルトやエアコンの室外機などの研究開発など。

■ その他

- ・温暖化の原因がCO₂だと科学的に証明されているわけではない。世界のCO₂排出の50%以上が中国、アメリカ、インドであり、日本は排出たった3%しか出してないので、がんばる必要ないとと思う。
- ・生活がひっ迫している為、地球温暖化の事など考えられない。
- ・各国ごとに考え方が違うので、世界的に実施することが不可能だと思う。
- ・世界的にみても国家規模で対策がとられているが、その効果が見えない、報じられていない。対策をとる国がある一方、グローバルサウスなどこれから発展していく国々がそれ以上に温暖化対策に反する行為を続ける限り効果も少ないと思う。その中で個人、世帯の対策がどこまで有効なのか正直疑問。一定の対策はとってはいるが、どこか懐疑的な気持ちはある。

問7 市政情報や市の広報誌についてお伺いします。

7-1

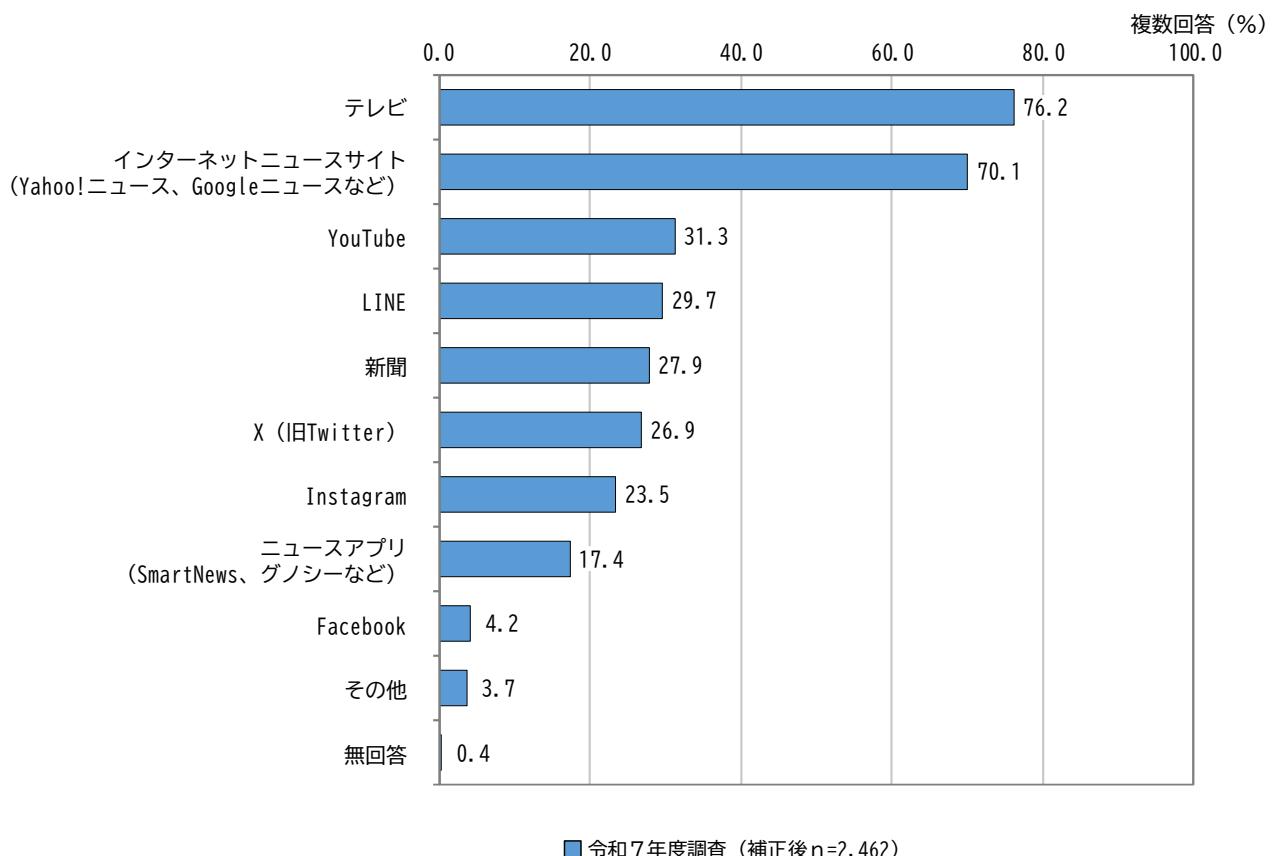
あなたは普段、どの媒体で「情報」を入手していますか。
【市政情報に限りません】

○はいくつでも

情報の入手先では、「テレビ」「インターネットニュースサイト」が約7割となっています。

情報の入手先について、「テレビ」の割合が76.2%と最も高く、次いで「インターネットニュースサイト（Yahoo!ニュース、Googleニュースなど）」の割合が70.1%、「YouTube」の割合が31.3%となっています。

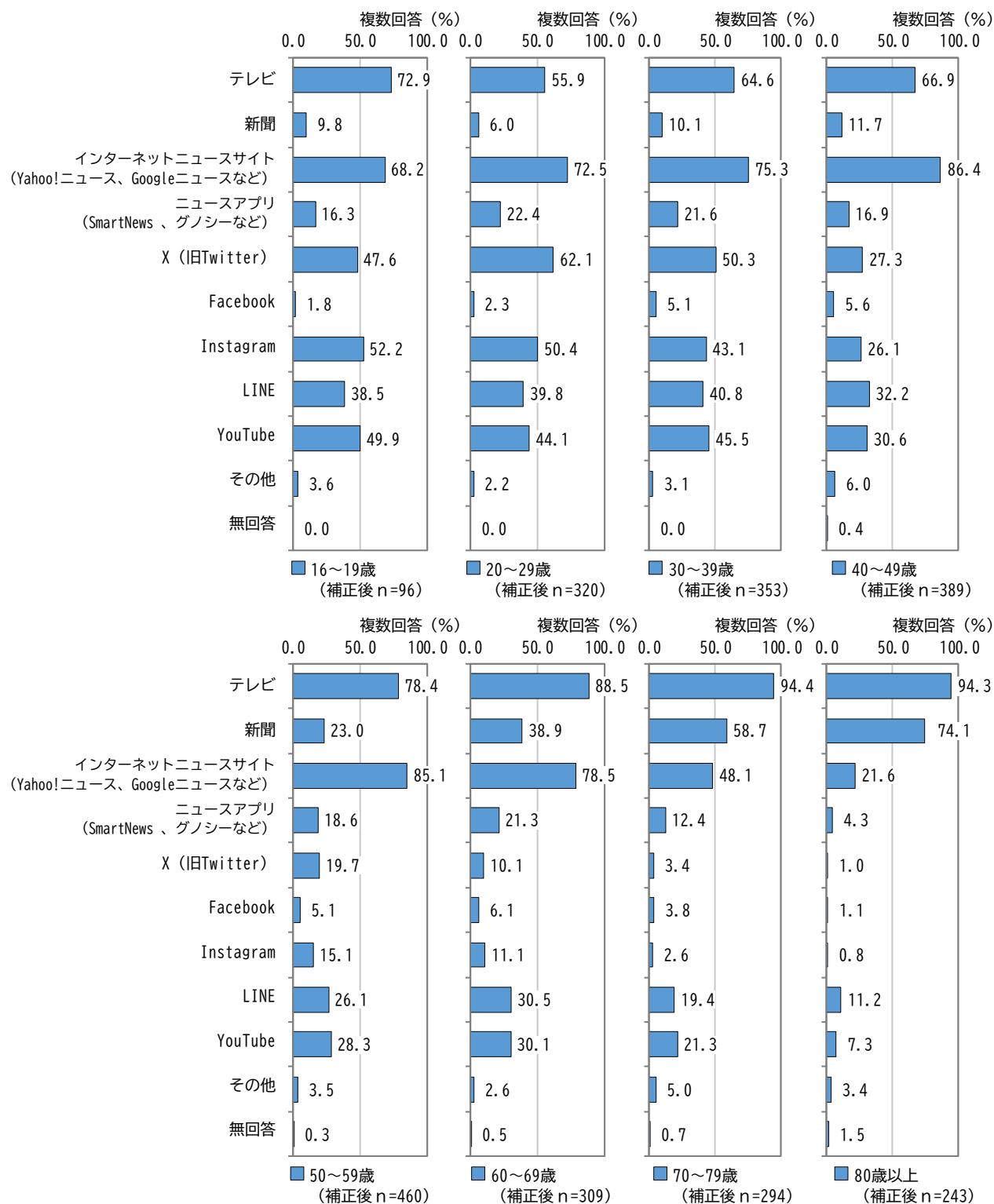
図表7-1-1 情報の入手先



■ 7-1 ×年齢

年齢別でみると、年齢が下がるほど「Instagram」の割合が高く、年齢が上がるほど「新聞」の割合が高い傾向にあります。また、70～79歳、80歳以上で「テレビ」、40～49歳、50～59歳で「インターネットニュースサイト（Yahoo!ニュース、Googleニュースなど）」、20～29歳、30～39歳で「LINE」、16～19歳で「YouTube」の割合が高くなっています。

図表7-1-2 情報の入手先×年齢



7-2

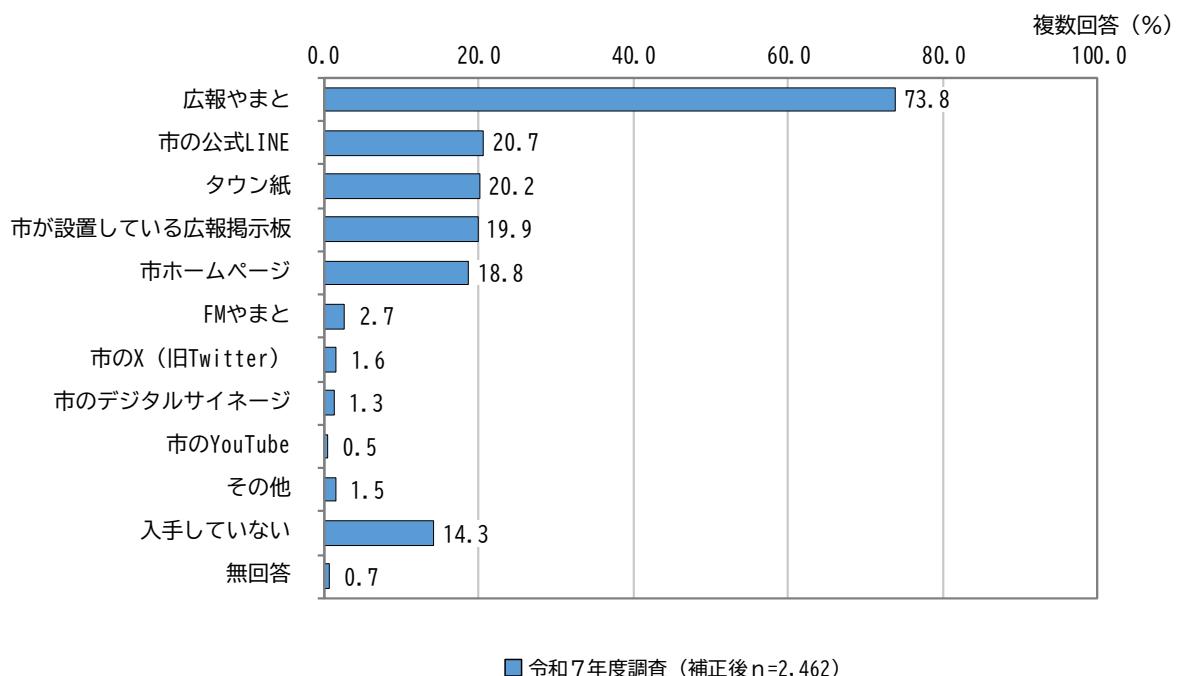
あなたは普段、市政情報をどの広報媒体で入手していますか。

○はいくつでも

市政情報の入手先では、「広報やまと」が約7割となっています。

市政情報の入手先について、「広報やまと」の割合が73.8%と最も高く、次いで「市の公式LINE」の割合が20.7%、「タウン紙」の割合が20.2%となっています。

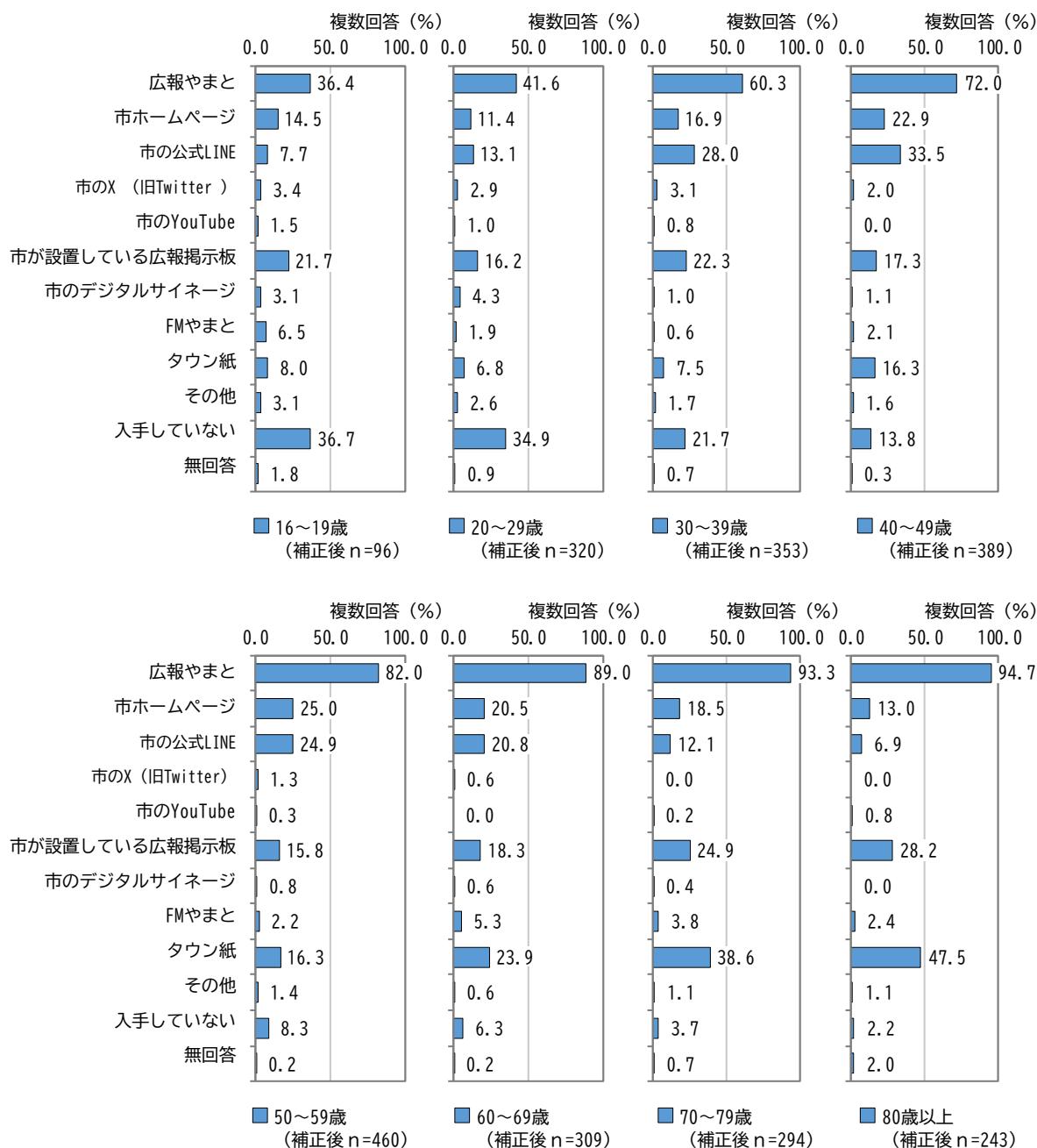
図表7-2-1 市政情報の入手先



■ 7-2 ×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど「広報やまと」の割合が高く、「入手していない」の割合が低くなっています。また、40~49歳で「市の公式LINE」、80歳以上で「タウン紙」の割合が高くなっています。

図表7-2-2 市政情報の入手先×年齢



7-3

ア～ウについてどちらの広報誌のほうが読みたいと思いますか。

○は1つ

【色とページ数】では「フルカラーだが、ページ数は少なめ」、【文字情報と写真やイラスト】では「文字情報は少ないが、写真やイラストが多く読みやすい」【記事の詳細度】では「文字情報は、見出しと概要のみとし、記事の掲載件数が多い（詳細な内容を知りたいときはネット検索や電話で確認する）」が高くなっています。

ア 色とページ数

【色とページ数】について、「フルカラーだが、ページ数は少なめ」の割合が 66.7%、「二色刷りだが、ページ数は多め」の割合が 27.9% となっています。

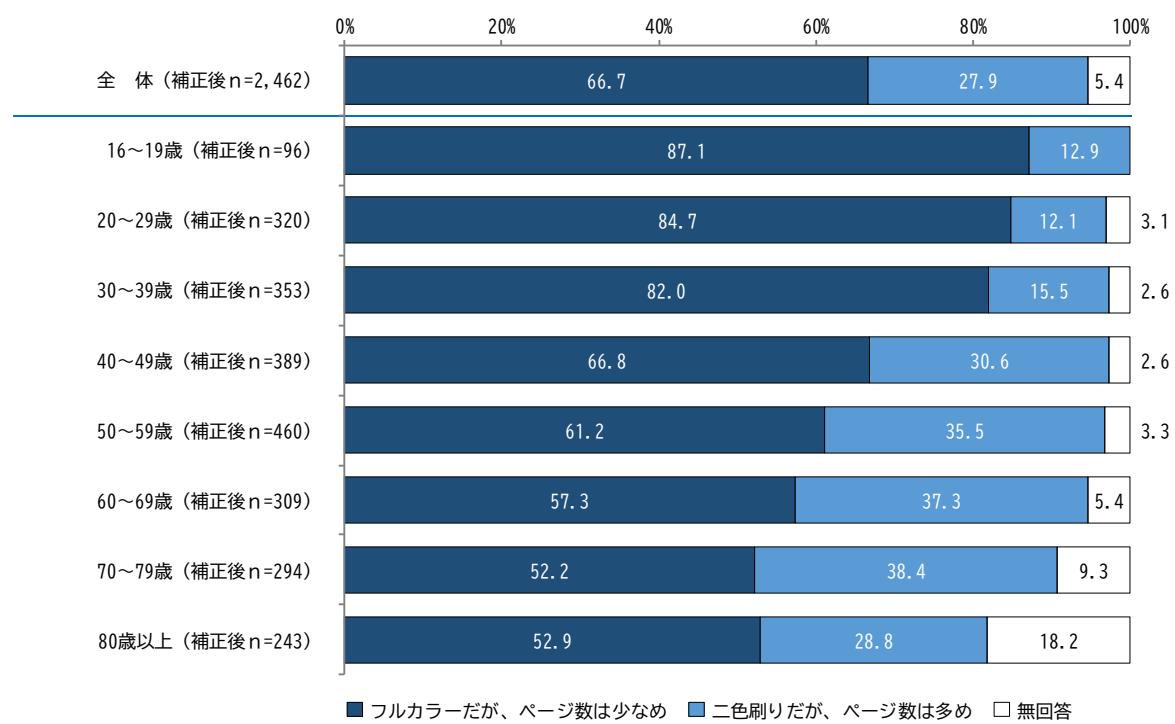
図表7-3-1 広報誌について（色とページ数）



■ 7-3ア×年齢

年齢別でみると、年齢が下がるほど「フルカラーだが、ページ数は少なめ」の割合が高い傾向にあります。

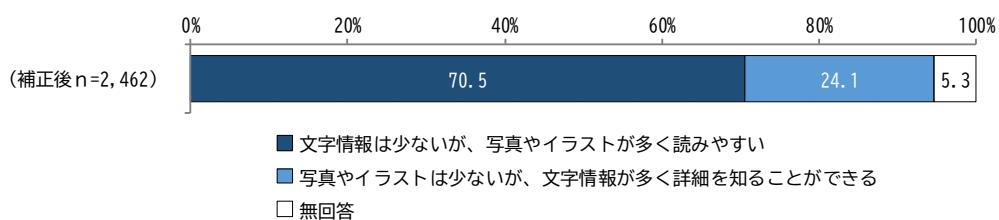
図表7-3-2 広報誌について（色とページ数）



イ 文字情報と写真やイラスト

【文字情報と写真やイラスト】について、「文字情報は少ないが、写真やイラストが多く読みやすい」の割合が70.5%、「写真やイラストは少ないが、文字情報が多く詳細を知ることができる」の割合が24.1%となっています。

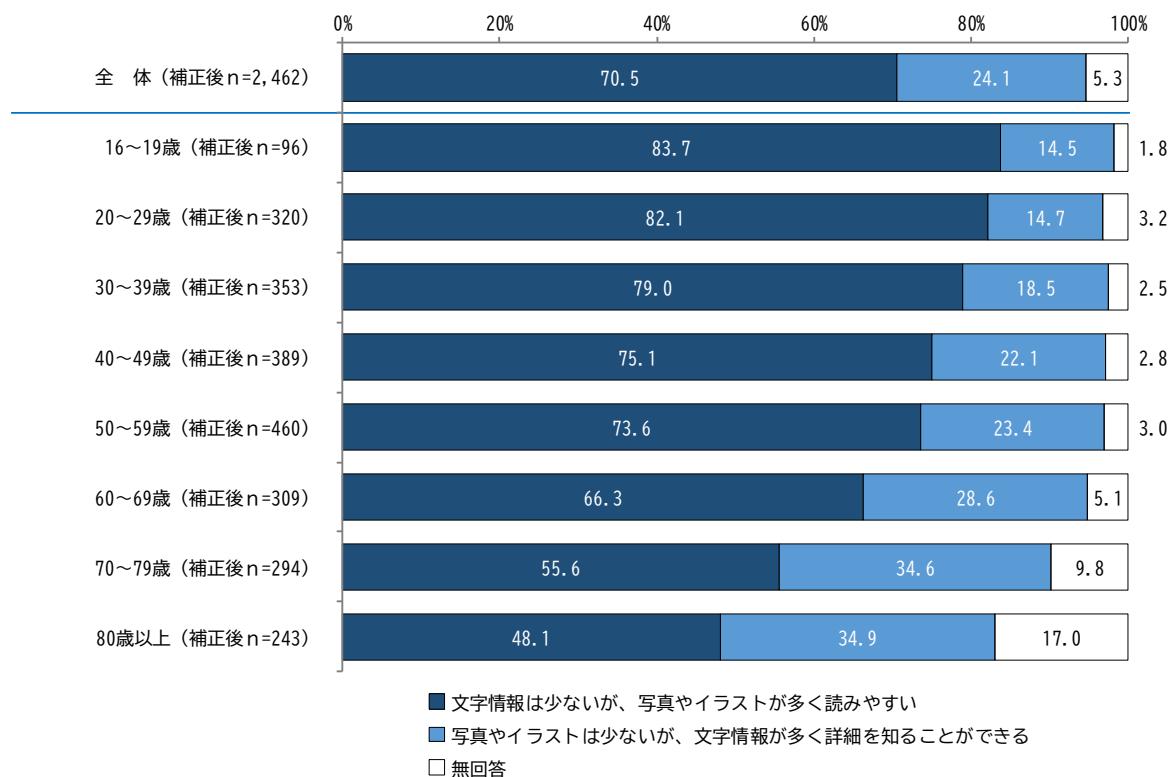
図表7-3-4 広報誌について（文字情報と写真やイラスト）



■ 7-3イ×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど「写真やイラストは少ないが、文字情報が多く詳細を知ることができます」の割合が高くなっています。

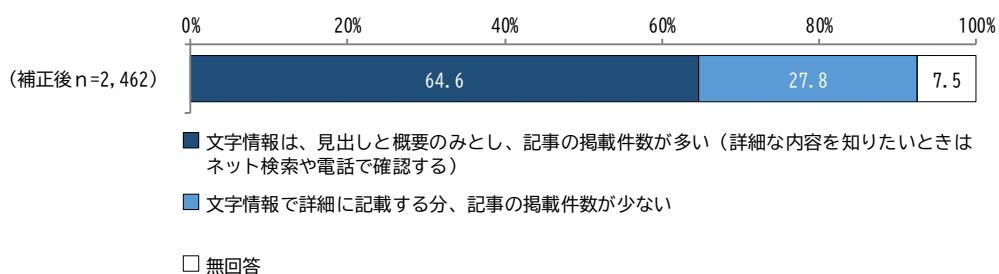
図表7-3-5 広報誌について（文字情報と写真やイラスト）



ウ 記事の詳細度

【記事の詳細度】について、「文字情報は、見出しと概要のみとし、記事の掲載件数が多い（詳細な内容を知りたいときはネット検索や電話で確認する）」の割合が 64.6%、「文字情報で詳細に記載する分、記事の掲載件数が少ない」の割合が 27.8%となっています。

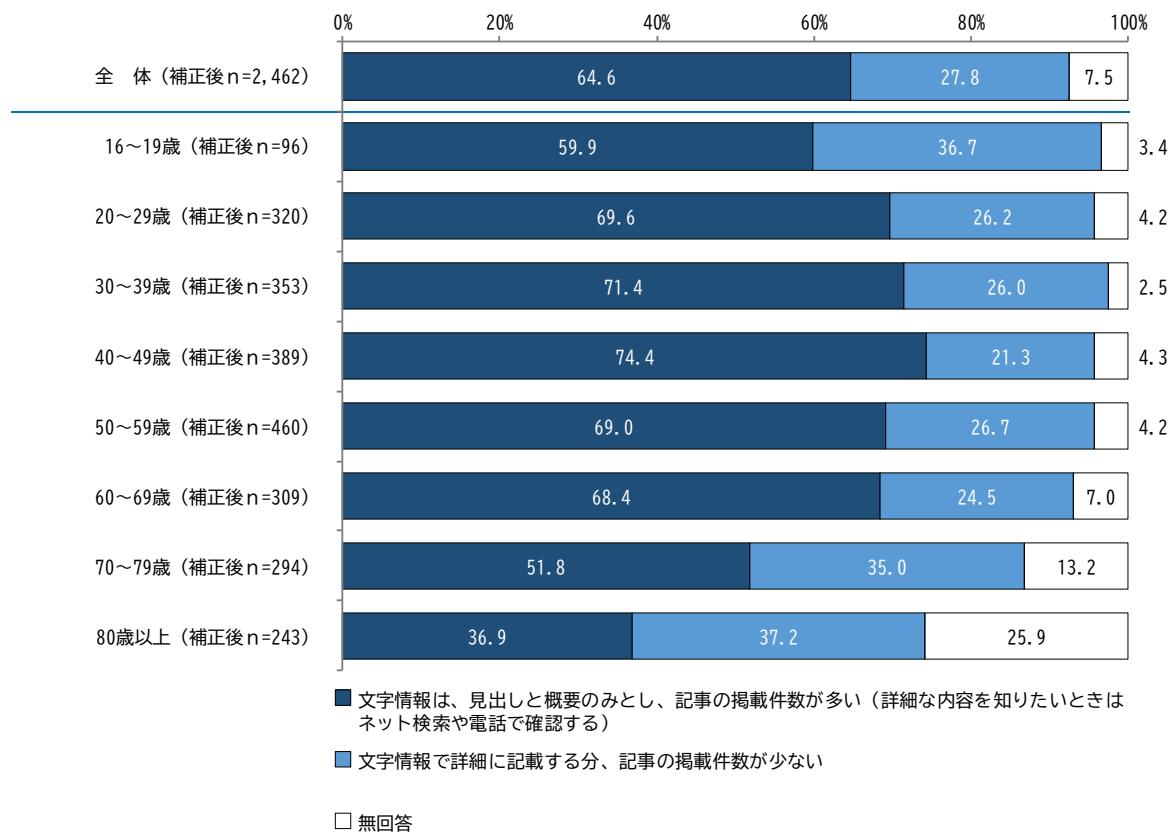
図表7-3-7 広報誌について（記事の詳細度）



■ 7-3ウ×年齢

年齢別でみると、16歳～79歳までは「文字情報は、見出しと概要のみとし、記事の掲載件数が多い」の割合の方が高く、80歳以上は「文字情報で詳細に記載する分、記事の掲載件数が少ない」の割合の方が高くなっています。

図表7-3-8 広報誌について（記事の詳細度）



7-4

広報誌では、どのようなテーマの特集記事を読みたいですか。

自由記述

562人から回答があり、その内容を分類した結果は次のとおりです。
 ※複数の意見が記入されているため、回答者数の合計とは一致しません。

図表7-4 読みたい特集記事のテーマについて

区分	件数
市政・行政	121
地域・イベント	117
子育て・教育	70
地域活動・市民参加	58
グルメ・店舗	54
生活情報・その他	54
防災・防犯	51
高齢者・福祉	51
健康・医療	46
文化・歴史・観光	46
交通・インフラ	13
動物・自然	12
雇用・求人	11
その他	68
合計	772

主な内容は以下のとおりです。

■ 市政・行政

- ・この調査でこんなに市の情報源があること等を知りました。市で行っているサービスや施設のことをもっとアピールしてほしい。
- ・市が取り組んでいる(力を入れている)ことについてや大和市民が利用できるサービスが知りたい。
- ・市の財政状況。
- ・市政取り組み現状。今後の見直し、予定。
- ・市民税がどのように活用されているのか。
- ・大和の現在。北部、中部、南部で状況がちがうと思うので。
- ・大和市の議会映像などを YouTube などで見たい。ショート動画可。
- ・米軍基地に対する働きかけ

■ 地域・イベント

- ・お祭りなどの行事
- ・市内で行われる様々なイベント情報

- ・地域ごとのトピックス（シリーズなど）
- ・無料の学習・文化講座やスポーツイベント

■ 子育て・教育

- ・公教育の現状
- ・子育て制度特集、子どもが遊べる場所特集。
- ・子育て特集。市のとりくみ。
- ・児童・生徒の学びに協力している企業やお店の紹介や生徒との取り組みの内容。
- ・小中高校（市内の）が、現在どのようなことをしているのか知りたい。子どもが卒業してしまうと、今後の子どもたちがどのように育っていくのか知りたい。
- ・大和市で活躍している子どもや各小中学校の面白い一面や先生インタビューなど。小学校の自慢したい場所、教室紹介や中学校の部活紹介など、進学、進級する子どもがいる家庭の話題にもなると思う。
- ・大和市の小中学校だけでなく高校、大学生までより広い年代まで良く目を向けて欲しい。頑張っている子どもたちにも自信がつくようにもっと密着して、彼らのためになるような地域にしてほしい。彼らにもっとこの街を好きになって欲しい。この世代がこの先の大和市を作っていく、背負って行くんだと思うと、今のままでは決していい街にはならないと思います。今の20代の世代をもっと大切に思い未来の大和市のために今の大人が目を向けるべきだと思います。

■ 地域活動・市民参加

- ・街おこし的な取り組みをしてる地域の活動。
- ・市と地域、市と市民が協力して活動し、何か成果を上げた事例があれば知りたい。
- ・市のサークル、ボランティア活動。
- ・市民の声（意見）等をもっと広く掲載。
- ・自治会の現状
- ・大和在住の人の頑張っている人（子どもたちも含めて）、地域貢献している人。
- ・長年の功績や高い成果をあげた方を紹介するのも素晴らしいですが、小さな活動をしているかたも、多くとりあげてほしい。

■ グルメ・店舗

- ・個人店など、人にフォーカスした話。
- ・市内の店情報、手土産に良い品の紹介など。
- ・新しい店舗のオープン、閉店情報
- ・大和市で作っている野菜が売ってる場所
- ・大和市の新しいお店やおすすめカフェやランチ。
- ・大和市民でも行った事のない所の情報が知れるよう地域を詳しく特集した記事を読んでみたいと思いました。
- ・美味しい飲食店紹介等。大和市の企業が元気になる記事。

■ 生活情報・その他

- ・一人住まい世帯の有用な情報、取り組み。
- ・若者の大和市での過ごし方。
- ・身近な市の取り組みで市民生活に便利だったり、役に立つもの
- ・大和市内駅別の地区の情報を写真やイラストで紹介して下さい。

■ 防災・防犯

- ・ハザードマップなど役に立つことに関する記事。防災に関することをわかりやすく知りたい。
- ・大和市で起きた犯罪やその後。防犯対策など。
- ・大和市の事故や事件などを知りたい
- ・防災についてなどの最新情報

■ 高齢者・福祉

- ・60代などが参加できる講座などを（スポーツや教養）紹介する記事。
- ・介護をしている方が多いと思うが介護者の悩みは尽きないと思うので介護者の体験談 etc 情報を共有できる紙面があるとよい。
- ・障がい者の暮らし、手続きなどに関する事。シニアライフに関する事。住宅、介護施設情報など。

■ 健康・医療

- ・健康について（感染症情報等）。
- ・健康増進（食生活、運動等）をテーマにしたもの
- ・健診の案内など、医療に関する情報。
- ・老人向け健康志向に関する記事

■ 文化・歴史・観光

- ・市の文化活動、生涯学習に関する情報
- ・市内の観光スポット
- ・大和市の歴史
- ・地域文化の向上に資する情報

■ 交通・インフラ

- ・自転車のマナー
- ・大和市の交通ニュース

■ 動物・自然

- ・ペットや動物の特集
- ・泉の森の動植物や自然環境、自然保全について

■ 雇用・求人

- ・シニアの働く情報
- ・求人情報をのせてほしい

■ その他

- ・今のままでよいと思います。
- ・市内であった、ささやかな幸福を伝えて欲しい。全国紙などを見ていると気が滅入るような事件や、将来が不安になるような記事が多いので、ほっこりするような話が掲載されていると嬉しい。
- ・従来から配布されると読んでいます。良く掲載されていますが読者の意見等がないので、たまには掲載されても良いと思います。

問8 大和駅周辺でのイベント開催についてお聞きします。

8-1

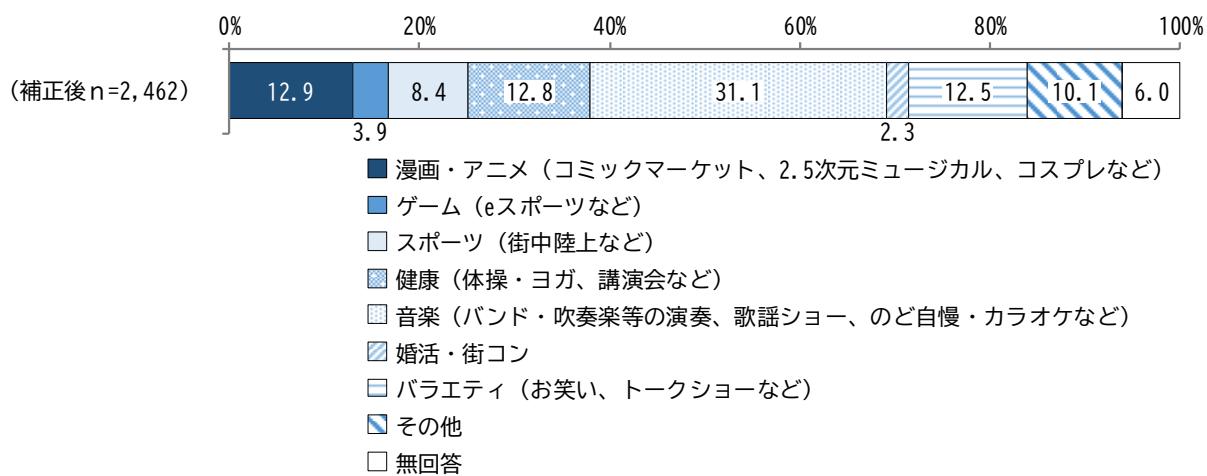
大和駅周辺のにぎわい創出のために、プロムナードからシリウス（メインホール等）を一体的に活用したイベントを開催する場合、実施してほしいイベントのジャンルを1つ選んでください。

○は1つ

実施してほしいイベントのジャンルでは、「音楽（バンド・吹奏楽等の演奏、歌謡ショー、のど自慢・カラオケなど）」が約3割となっています。

実施してほしいイベントのジャンルについて、「音楽（バンド・吹奏楽等の演奏、歌謡ショー、のど自慢・カラオケなど）」の割合が31.1%と最も高く、次いで「漫画・アニメ（コミックマーケット、2.5次元ミュージカル、コスプレなど）」の割合が12.9%、「健康（体操・ヨガ、講演会など）」の割合が12.8%となっています。

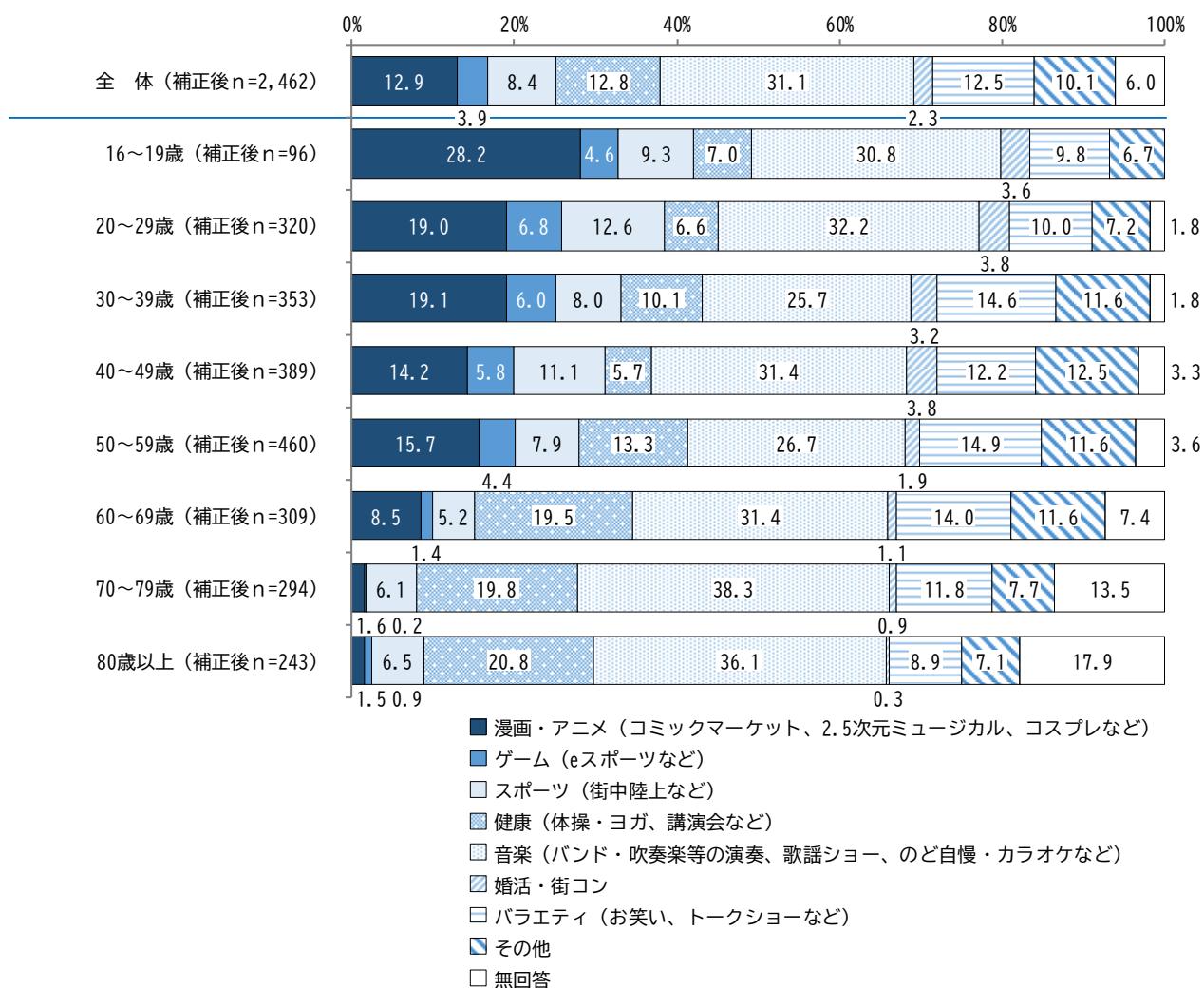
図表8-1-1 実施してほしいイベントのジャンル



■ 8-1 ×年齢

年齢別でみると、年齢が下がるほど「漫画・アニメ（コミックマーケット、2.5次元ミュージカル、コスプレなど）」の割合が高い傾向にあり、年齢が上がるほど「健康（体操・ヨガ、講演会など）」の割合が高い傾向にあります。

図表8-1-2 実施してほしいイベントのジャンル×年齢



8-2

8-1で選択したジャンルで具体的な題材や内容などがあれば、ご記入ください。

自由記述

550人から回答があり、その内容を分類した結果は次のとおりです。

※複数の意見が記入されているため、回答者数の合計とは一致しません。

図表8-2 実施してほしいイベントの具体的な内容について

区分	件数
音楽	169
漫画・アニメ	84
健康	77
バラエティ	56
スポーツ	26
ゲーム	25
婚活・街コン	14
その他	230
合計	681

主な内容は以下のとおりです。

■ 音楽

- ・シリウスのホールで、もっと色々なジャンルの音楽のライブ等をしてほしい。
- ・ストリートミュージシャン、ダンスができるプロムナードの創出と地域の協力関係の強化。
- ・音楽は好きだが、歌謡曲やのど自慢、カラオケには反対。
- ・楽器を使用した、ジャズやクラシック等インストが聴きたい。
- ・音楽は年齢層幅広く人々を元気にさせてくれます。シリウスは芸術性が高い施設なので、芸術関係のものが似合うと思います。
- ・街角ピアノ
- ・米軍基地の方々とのジャズ交流。
- ・音楽サークルの発表の場
- ・津軽三味線

■ 漫画・アニメ

- ・ある程度の規模にならないならやらなくてもいい。
- ・人気アニメ等のカードの大会
- ・声優イベント、子どもが好きなアニメイベント。
- ・昔のアニメ、まんが展のようなもの。今の親世代のものがみたい。母が好きだった作品があれば一緒に行ったら楽しそう。
- ・特に大和を舞台にした題材がないと思うので、これを機に前例をつくってほしい。
- ・漫画・アニメのコスプレ大会や、アニソンのど自慢、2.5次元ミュージカル俳優が来てイベント参加。アニソン関係のバンド。

■ 健康

- ・その分野のプロの方々（市内で活躍されている方）などを招いて市民に紹介してほしい。
- ・ヨガやピラティス、予防医学などの講演。
- ・現役のスポーツ選手による実技指導。
- ・高校生による体操・ダンス・ヨガなどお披露目と誰でもできる簡単な動作の紹介をしてほしい。
- ・高齢者向けに、認知症予防の為の運動などしてほしい。
- ・他県ではシニアの健康作りの為市で体操を普及させている所がある。みんなが当たり前にやれる簡単な体操とかストレッチ等を市としてすすめることはないのでしょうか？
- ・幼児、大人、シニア別に参加できる体操や、ヨガ、ストレッチ等

■ バラエティ

- ・子どもメインのクイズ大会。お笑い芸人によるトークショー。地元出身の芸能人のトークショー。スタンプラリー。
- ・お笑いライブ、ものまね芸人のステージ、大和市にゆかりのある有名人のトークショーなど。
- ・動物とのふれあい。
- ・有名な芸人さんのコントやトークショー、ものまねなど笑えるもの。

■ スポーツ

- ・オリンピアンを呼び、あらゆる年代の市民と一緒に競技する。（100m走、110mハードルやバスケットボールなど）
- ・スポーツをやってみたいけど、きっかけがない事が多いので、いろんなスポーツのブースを作ってほしい。
- ・プロムナードの直線距離を利用したスピード的スポーツ。
- ・健康に良く、子ども、高齢者等が気軽に参加出来る新しいスポーツ（例えばピックルボールの様なスポーツ）が良い。
- ・年代問わずのスポーツテスト。

■ ゲーム

- ・親子で参加もできるゲーム製作イベント
- ・アナログゲームの試遊イベント
- ・eスポーツでなく、ボードゲーム(将棋や囲碁を含む)などで老若男女が一緒に楽しめるものをやつたら面白いかと思います。
- ・eスポーツの大会。
- ・格闘ゲームのゲーム実況者を呼んでみたりして大和市を知ってもらう。
- ・子どもが楽しめるゲームで、体も動かせる様なイベント
- ・今後発展していく分野に多くの世代が興味を持つ機会を提供することには意味があると思う。

■ 婚活・街コン

- ・お話しするのが苦手な方達が言葉少なからずとも作業をしながら少しでも会話が弾むイベント。
- ・若い人の出会いの場がなくて、横浜市や東京都は婚活を支援していると聞いているので、大和市もやってみては？
- ・地元密着で飲食店を用意してそこで街コンをやる。

■ その他

- ・1日だけ昭和時代を歴史追体験できる商店街（過去の大和市）のイベント。昭和時代のもちもの、流行したもの、今となっては珍しいものを並べ、商人は昭和時代にタイムトラベルした形式で、全員コスプレする。歴史学も学べるイベント。
- ・イギリスの路上パーティーもしくは千葉県柏市のストリートパーティー。
- ・ダンス大会は日本全県。アイドルは国籍関係なく、大和市のアイドルを選出。
- ・全ての人が「にぎわい」を求めているわけではない。「にぎわい」＝「住みやすさ」「魅力」ではない。静かで居心地が良いことにも目を向けて欲しい。
- ・小学生の子ども達が楽しんで「囲碁」と「将棋」を利用してていたのになくなってしまい、残念がっている。無料であったので市民には心やさしいと思っていたが、残念だ。利用者もいたのに納得できず、すぐにでも再開してほしい。
- ・小田急、相鉄とコラボしたイベントなど。
- ・消防体験イベントがあるように、その他自転車交通、ごみ分別、環境問題などのジャンルもあるといい。
- ・大和市内のこだわりのお店が1箇所に集うマルシェがあったら行きたい。パン、レストラン、雑貨、アクセサリー、地域活動団体など。
- ・大和市や周辺のパン屋さんに出店してもらい様々な種類のパンを販売するイベントをやってほしい。
- ・藤沢や茅ヶ崎方面では上記イベントが活発で、子どもと行っても楽しみながら学べて未来につながるすてきなものが多いなか、大和市はそのような催しがなく残念です。

問9 ごみの分別や指定ごみ袋についてお伺いします。

9-1

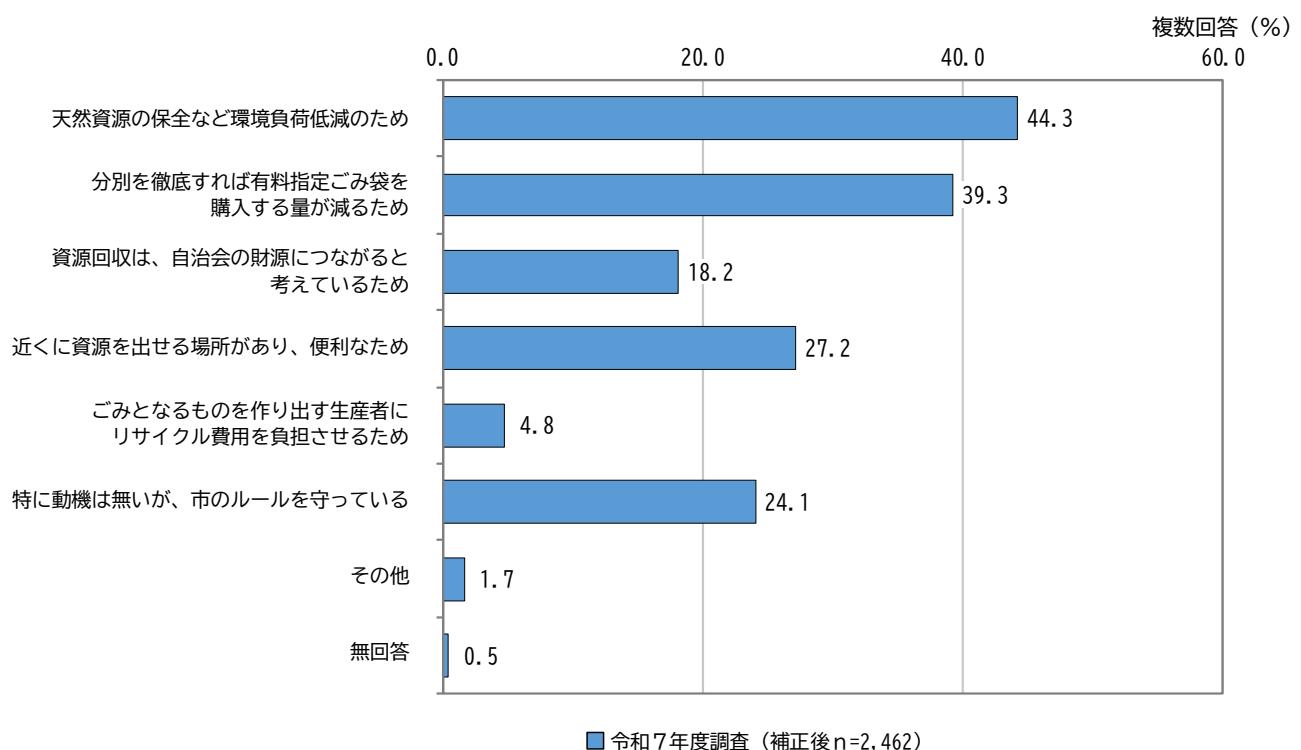
あなたがごみの減量化や資源分別をする動機としてあてはまるものをお選びください。

○はいくつでも

ごみの減量化や資源分別をする動機では、「天然資源の保全など環境負荷低減のため」「分別を徹底すれば有料指定ごみ袋を購入する量が減るため」が約4割となっています。

ごみの減量化や資源分別をする動機について、「天然資源の保全など環境負荷低減のため」の割合が44.3%と最も高く、次いで「分別を徹底すれば有料指定ごみ袋を購入する量が減るため」の割合が39.3%、「近くに資源を出せる場所があり、便利なため」の割合が27.2%となっています。

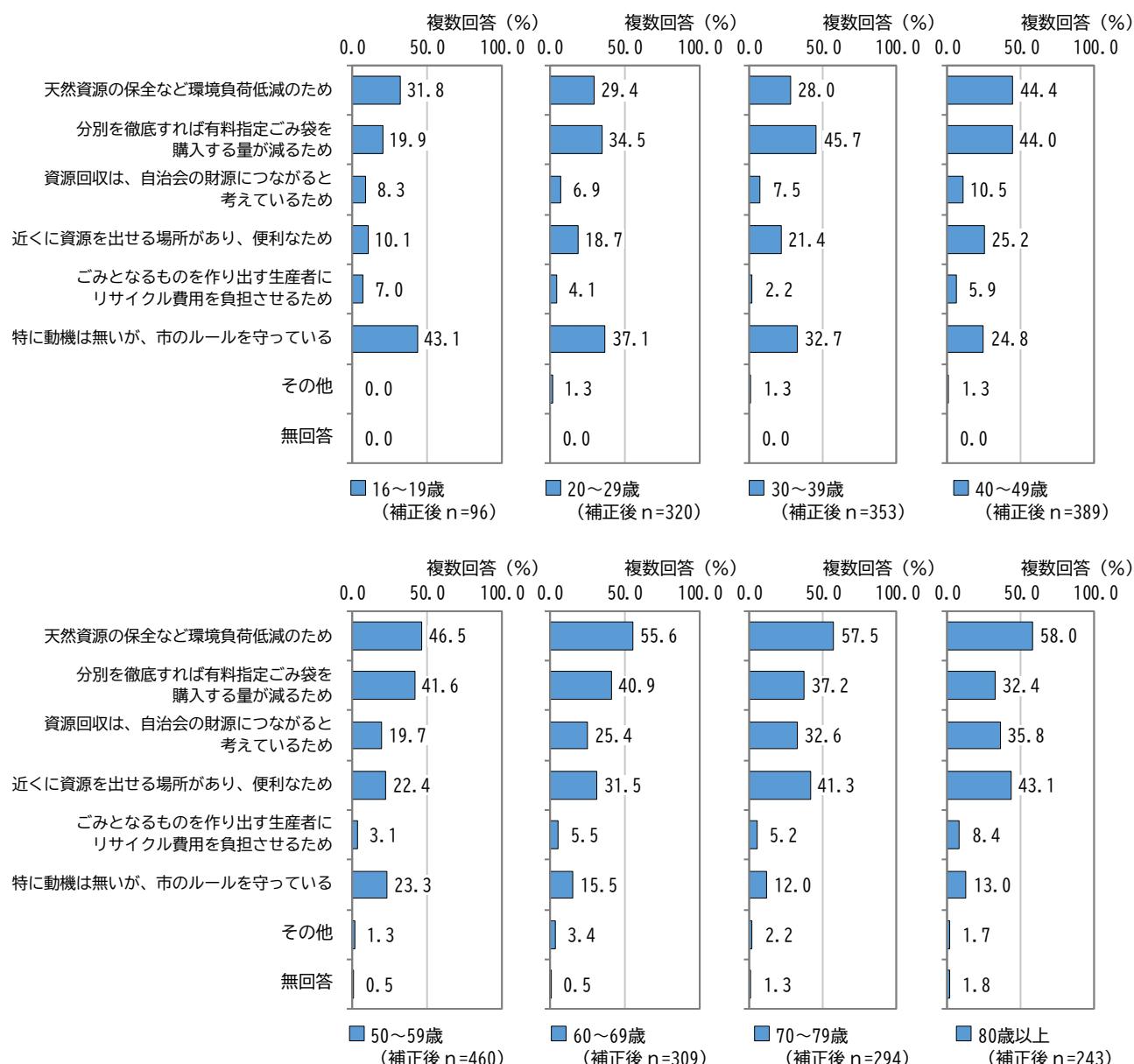
図表9-1-1 ごみの減量化や資源分別をする動機



■ 9-1 ×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど「近くに資源を出せる場所があり、便利なため」「資源回収は、自治会の財源につながると考えているため」の割合が高い傾向にあります。また、60～69歳、70～79歳、80歳以上で「天然資源の保全など環境負荷低減のため」、16～19歳で「特に動機は無いが、市のルールを守っている」の割合が高くなっています。

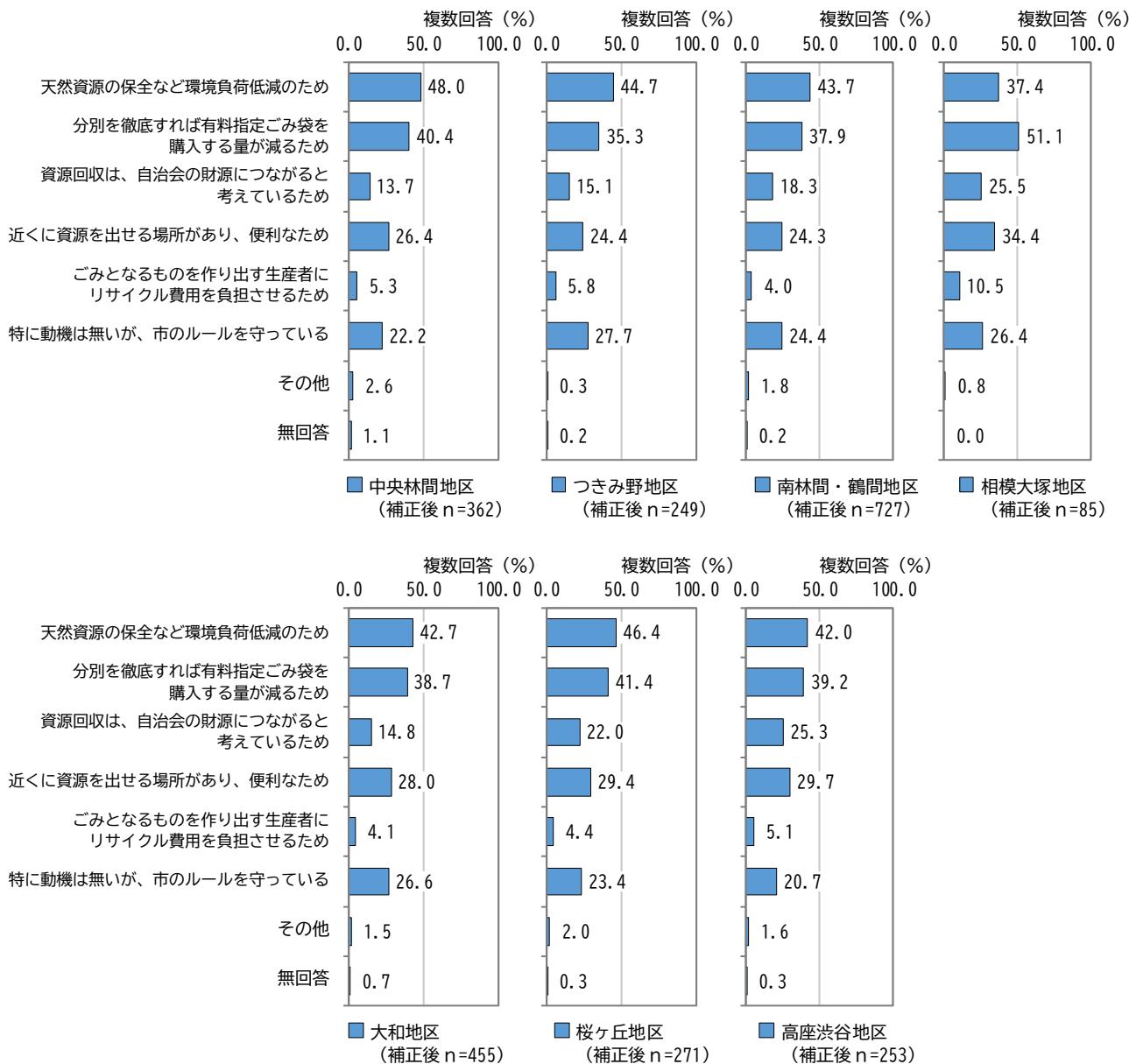
図表9-1-2 ごみの減量化や資源分別をする動機×年齢



■ 9-1 ×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で「分別を徹底すれば有料指定ごみ袋を購入する量が減るため」の割合が高くなっています。

図表9-1-3 ごみの減量化や資源分別をする動機×居住地域別



9-2

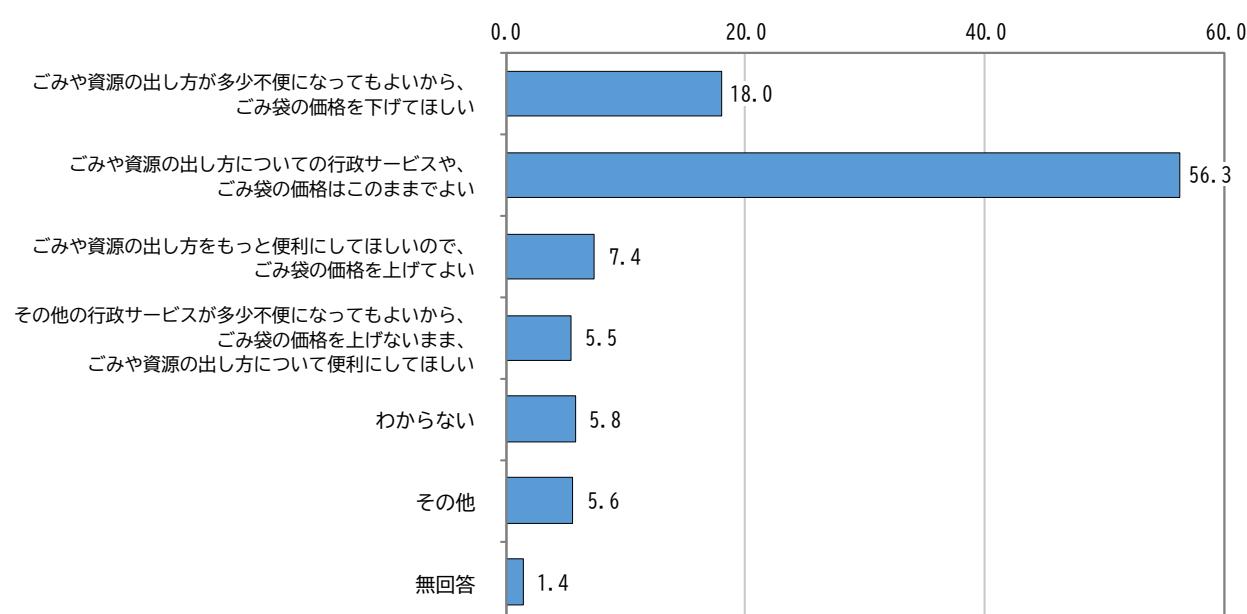
指定ごみ袋制度についてあなたのお気持ちにもっともあてはまる
ものをお選びください。

○は1つ

指定ごみ袋制度について、「ごみや資源の出し方についての行政サービスや、ごみ袋の価格はこのままよい」が約6割となっています。

指定ごみ袋制度について、「ごみや資源の出し方についての行政サービスや、ごみ袋の価格はこのままよい」の割合が56.3%と最も高く、次いで「ごみや資源の出し方が多少不便になつてもよいから、ごみ袋の価格を下げてほしい」の割合が18.0%となっています。

図表9-2-1 指定ごみ袋制度

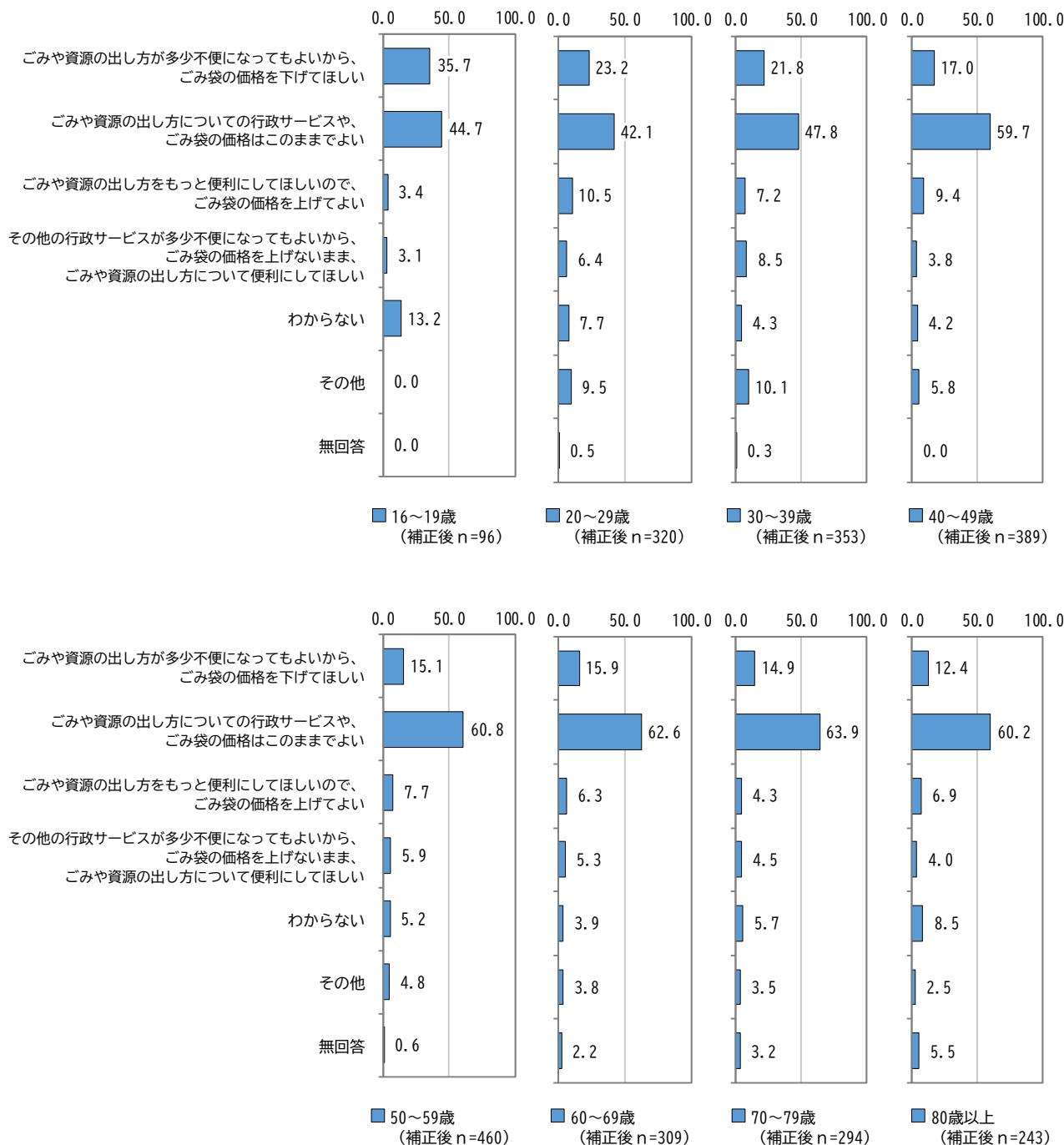


■ 令和7年度調査（補正後n=2,462）

■ 9-2 ×年齢

年齢別でみると、年齢が下がるほど「ごみや資源の出し方が多少不便になつてもよいから、ごみ袋の価格を下げてほしい」の割合が高い傾向にあり、年齢が上がるほど「ごみや資源の出し方についての行政サービスや、ごみ袋の価格はこのままでよい」の割合が高い傾向にあります。

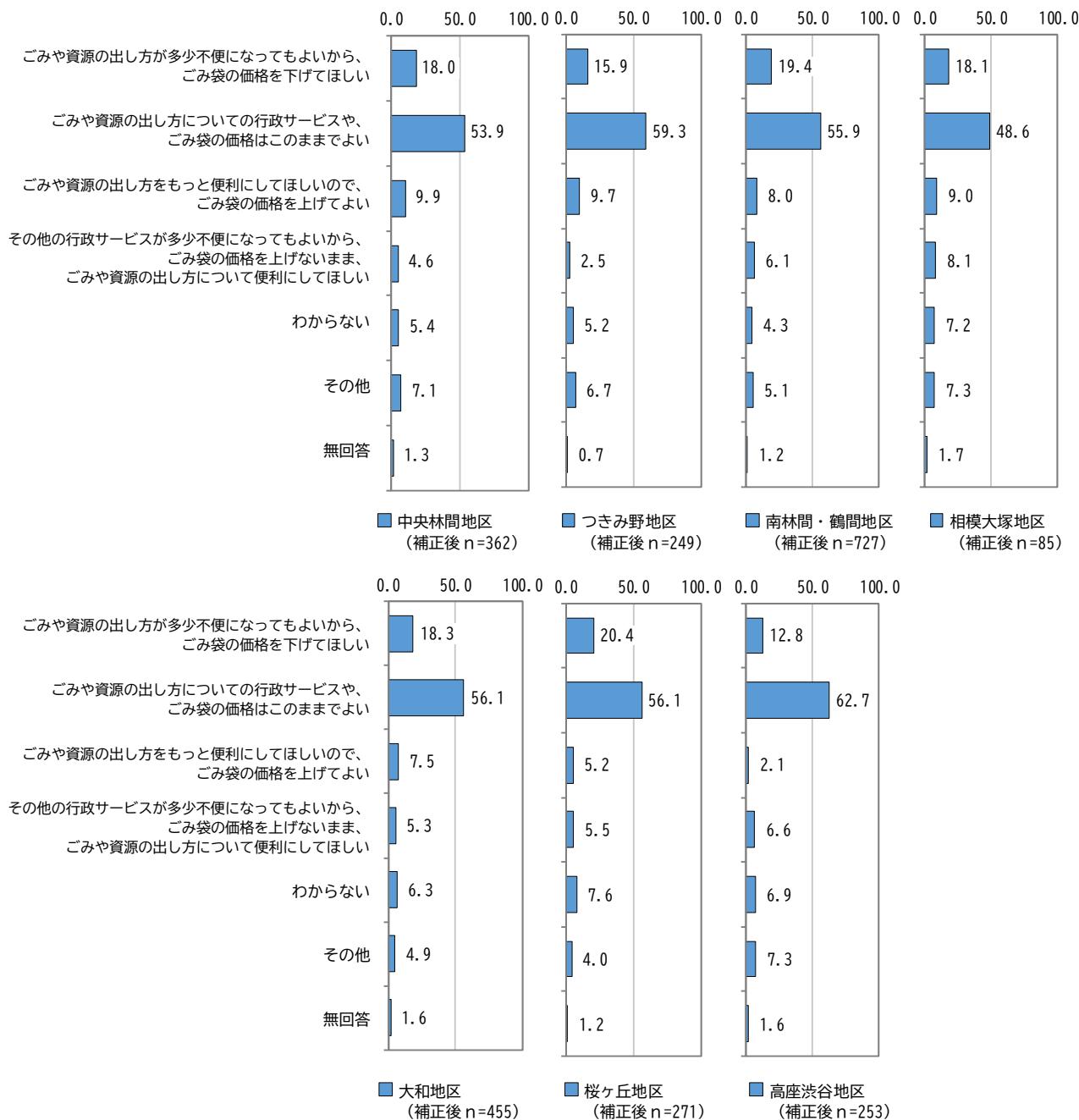
図表9-2-2 指定ごみ袋制度×年齢



■ 9-2 ×居住地域

居住地域別でみると、高座渋谷地区で「ごみや資源の出し方についての行政サービスや、ごみ袋の価格はこのままでよい」の割合が高くなっています。

図表9-2-3 指定ごみ袋制度×居住地域別



問10 公共施設についてお伺いします。

10-1

あなたは大和市内の公共施設をどのくらいの頻度で利用していますか。
※ただし選挙の投票は利用回数に含めません。

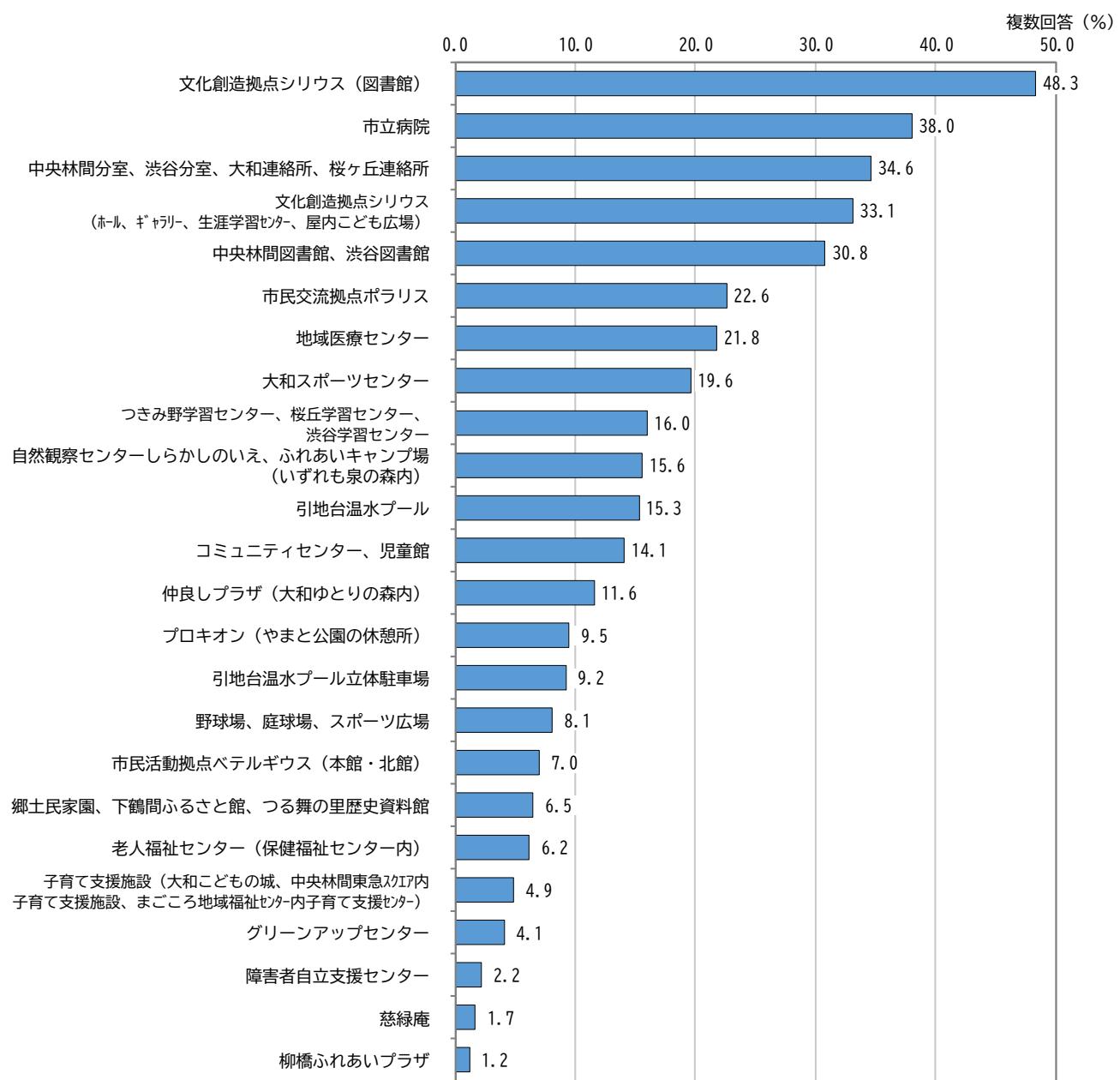
○は1つ

年に1回以上利用している公共施設は、「文化創造拠点シリウス（図書館）」が約5割となっています。

①～⑭ 年に1回以上利用している公共施設

『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は、「文化創造拠点シリウス（図書館）」が48.3%と最も高く、次いで「市立病院」が38.0%、「中央林間分室、渋谷分室、大和連絡所、桜ヶ丘連絡所」が34.6%となっています。

図表10-1-1 年に1回以上利用している公共施設

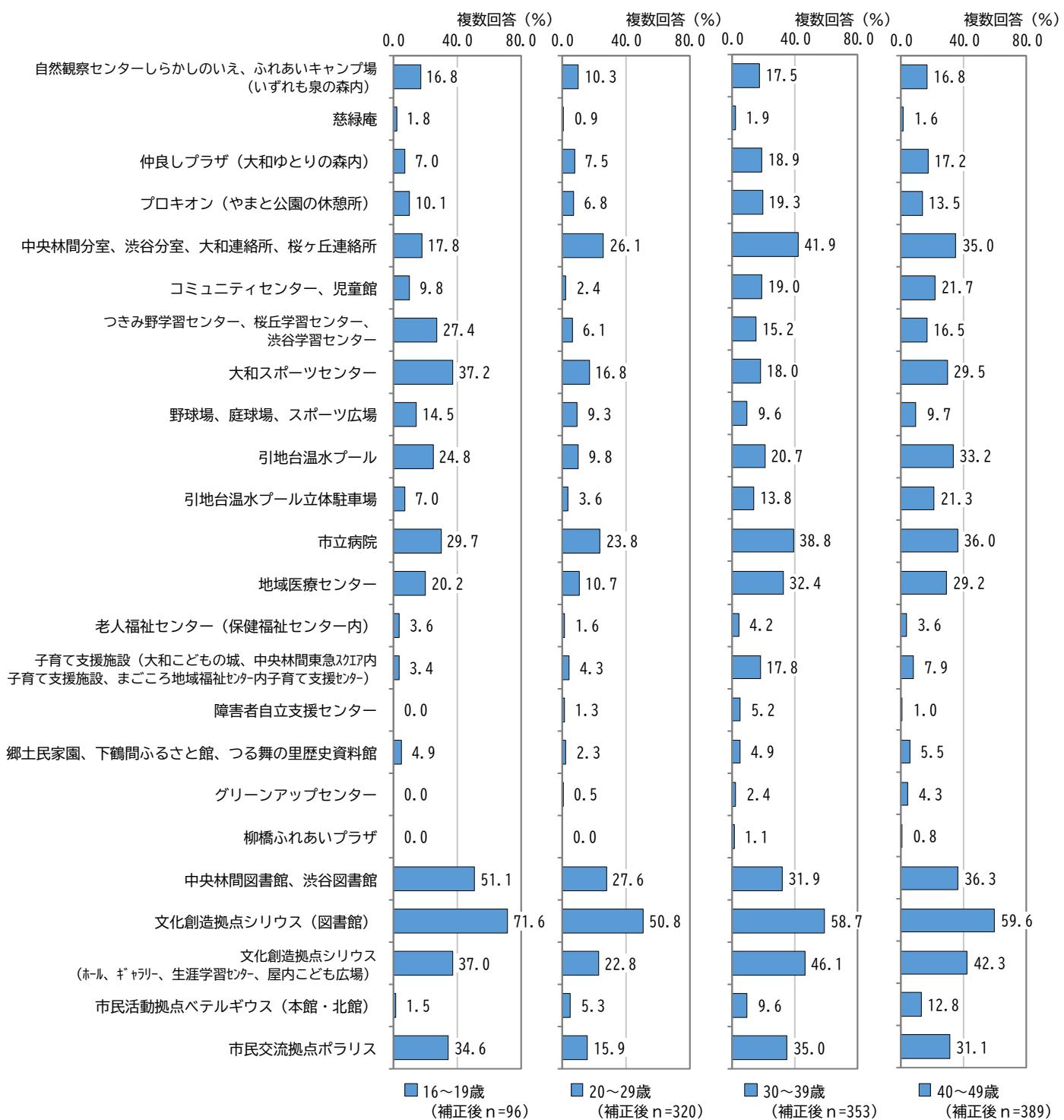


■ 令和7年度調査（補正後n=2,462）

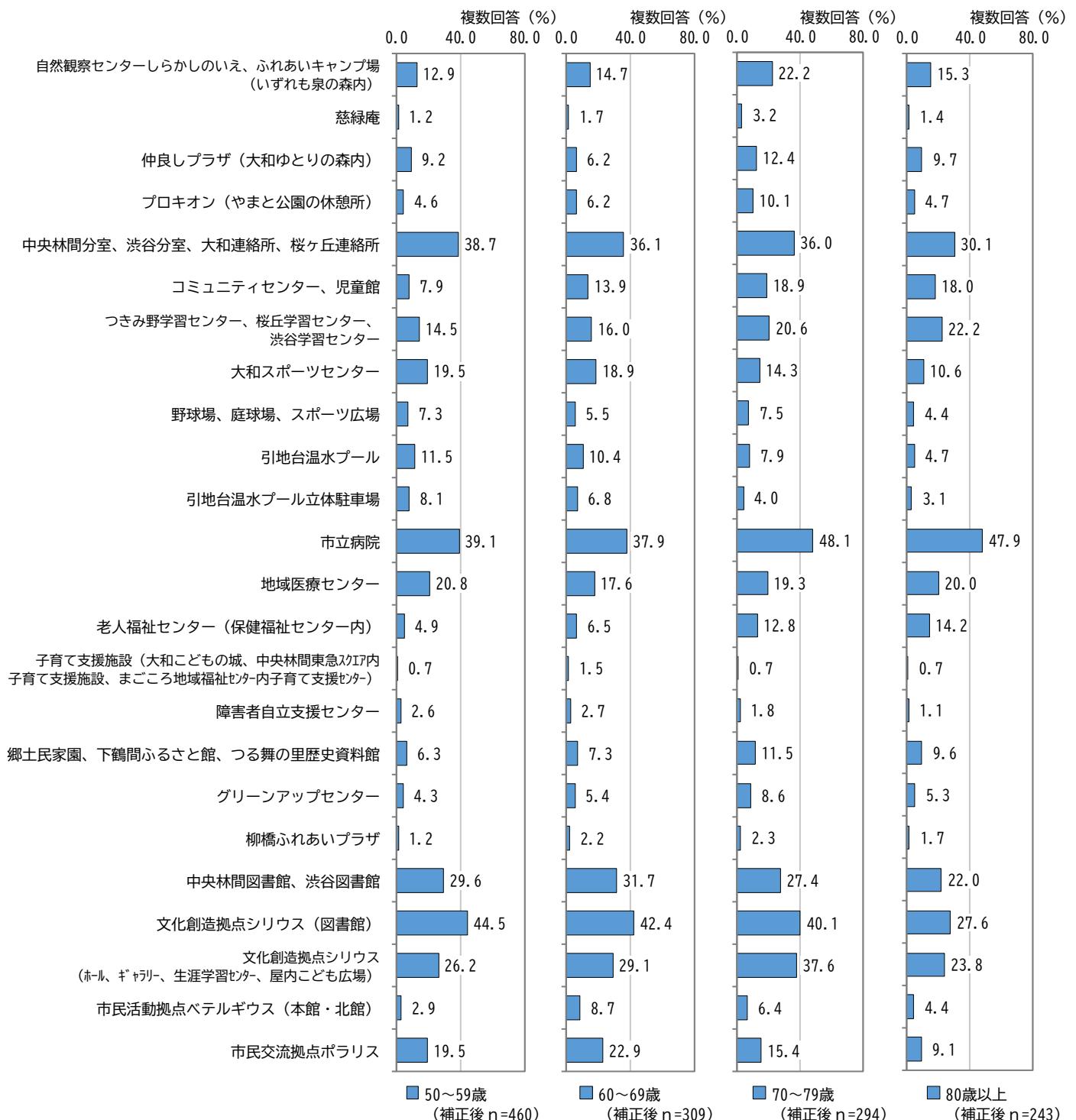
■ 問10（全体）×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど「老人福祉センター（保健福祉センター内）」の割合が高い傾向にあります。また、16～19歳で「つきみ野学習センター、桜丘学習センター、渋谷学習センター」、30～39歳で「地域医療センター」「文化創造拠点シリウス（ホール、ギャラリー、生涯学習センター、屋内こども広場）」、70～79歳で「市立病院」の割合が高くなっています。

図表 10-1-2 年に1回以上利用している公共施設×年齢



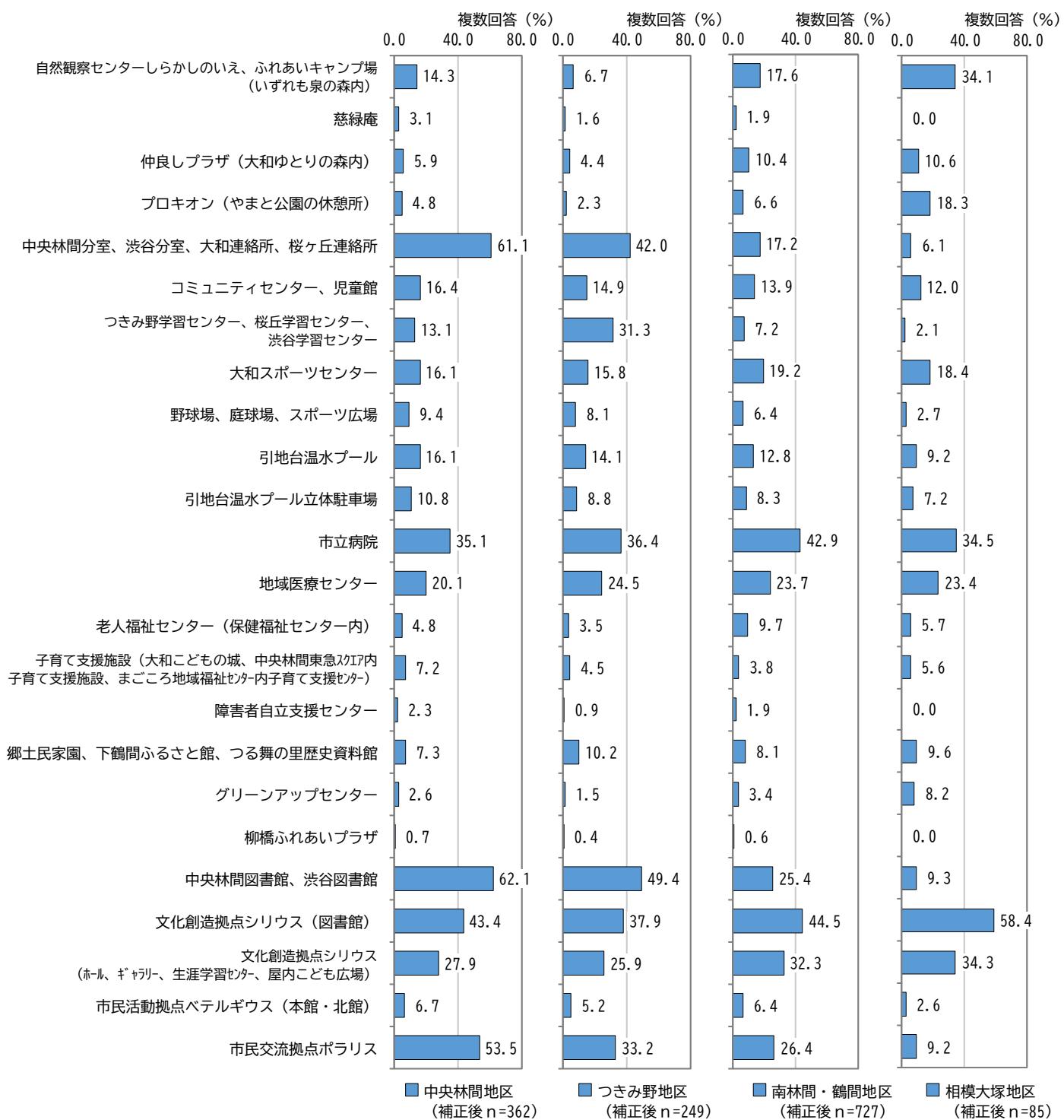
図表 10-1-2 年に1回以上利用している公共施設×年齢（続き）



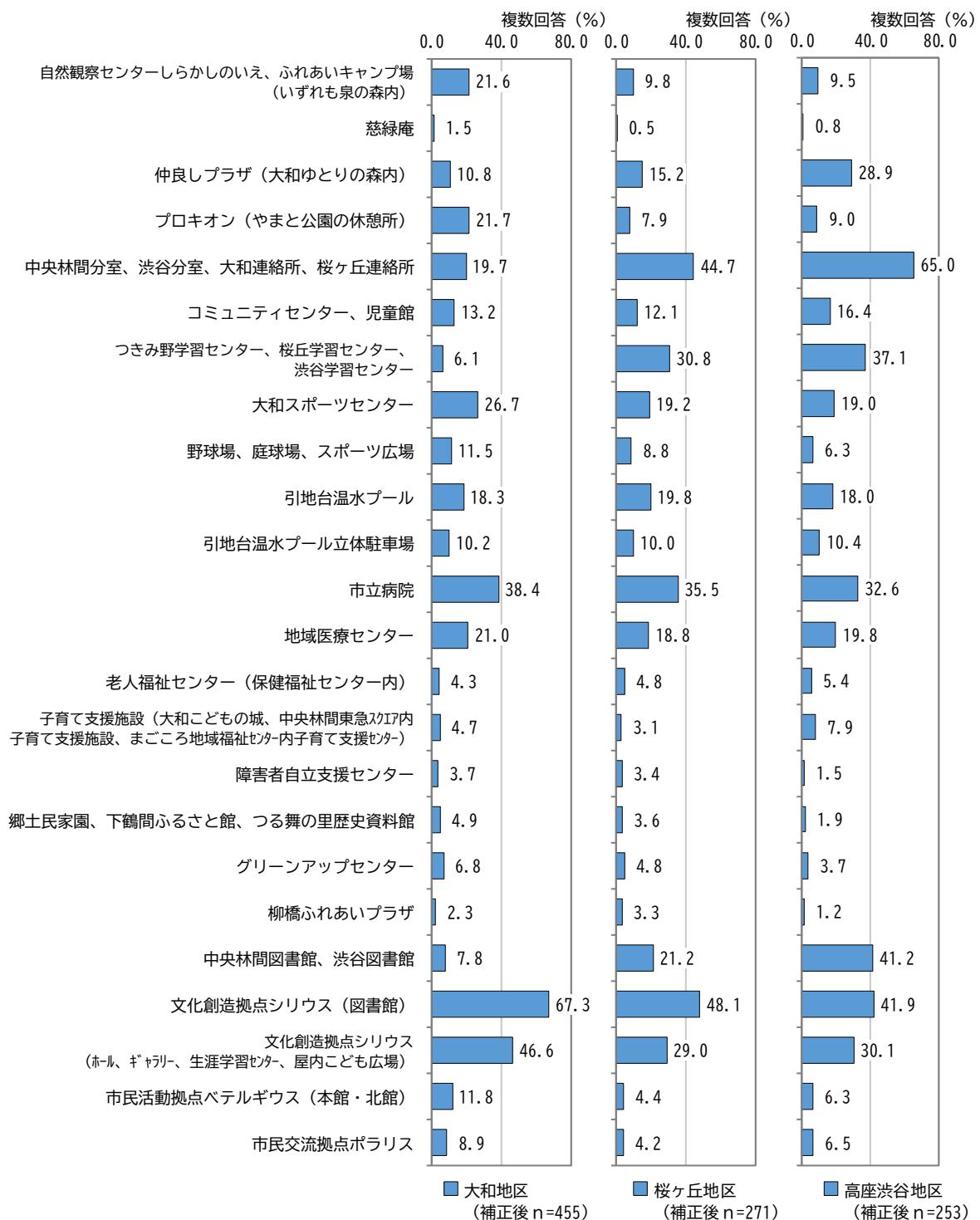
■ 問10（全体）×居住地域

居住地域別でみると、中央林間地区、つきみ野地区で「中央林間図書館、渋谷図書館」「市民交流拠点ポラリス」、南林間・鶴間地区で「市立病院」、相模大塚地区で「自然観察センターしらかしのいえ、ふれあいキャンプ場（いずれも泉の森内）」、大和地区で「プロキオン（やまと公園の休憩所）」「文化創造拠点シリウス（図書館）」、桜ヶ丘地区、高座渋谷地区で「仲良しプラザ（大和ゆとりの森内）」「つきみ野学習センター、桜丘学習センター、渋谷学習センター」の割合が高くなっています。

図表 10-1-3 年に1回以上利用している公共施設×居住地域別



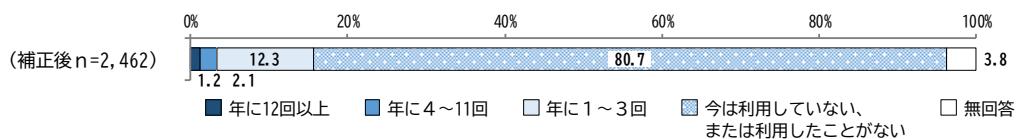
図表 10-1-3 年に1回以上利用している公共施設×居住地域別（続き）



① 自然観察センターしらかしのいえ、ふれあいキャンプ場（いずれも泉の森内）

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は15.6%となってています。

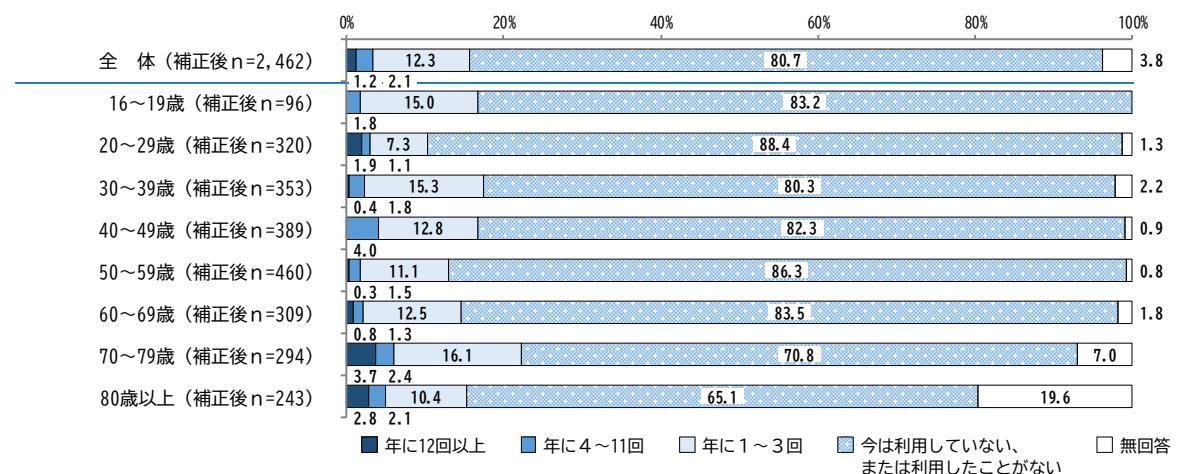
図表10-1-1-1 自然観察センターしらかしのいえ、ふれあいキャンプ場の利用



■問10①×年齢

年齢別でみると、70～79歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

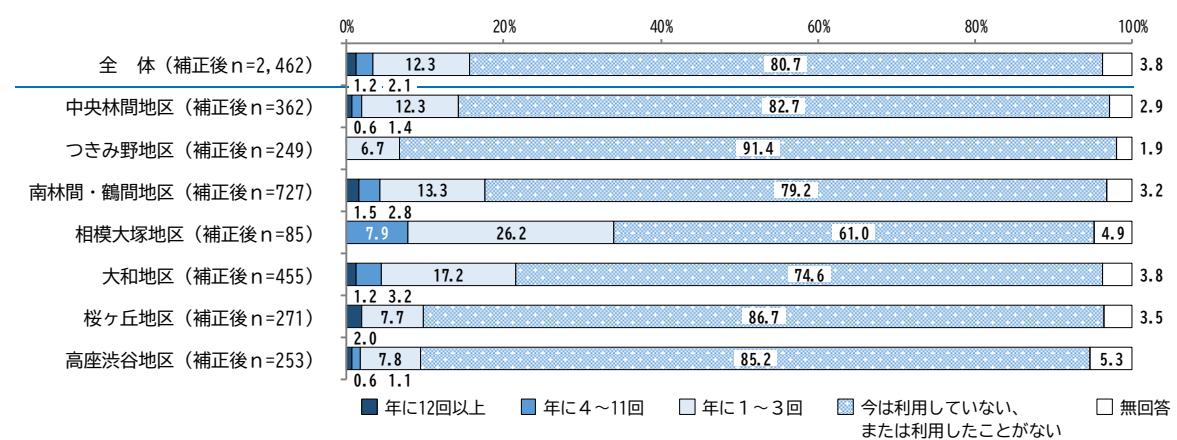
図表10-1-1-2 自然観察センターしらかしのいえ、ふれあいキャンプ場の利用×年齢



■問10①×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

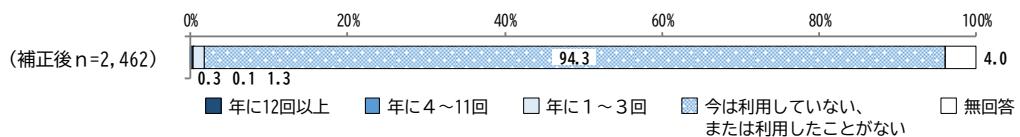
図表10-1-1-3 自然観察センターしらかしのいえ、ふれあいキャンプ場の利用×居住地域別



② 慈緑庵

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は1.7%となっています。

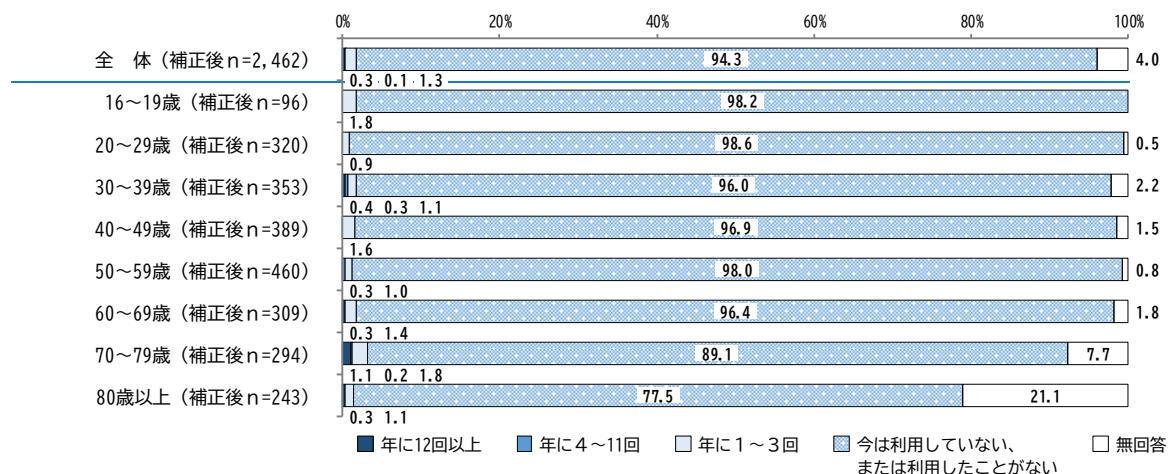
図表 10-1-2-1 慈緑庵の利用



■ 問10②×年齢

年齢別でみると、大きな差はみられません。

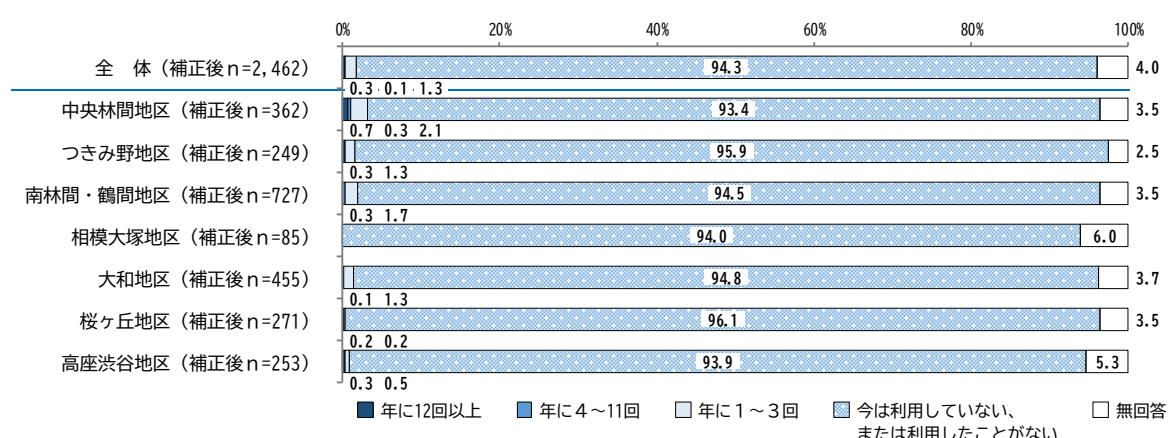
図表 10-1-2-2 慈緑庵の利用×年齢



■ 問10②×居住地域

居住地域別でみると、大きな差はみられません。

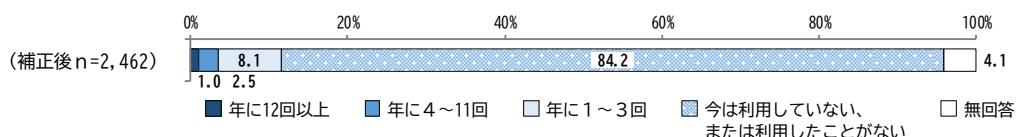
図表 10-1-2-3 慈緑庵の利用×居住地域別



③ 仲良しプラザ（大和ゆとりの森内）

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は11.6%となっています。

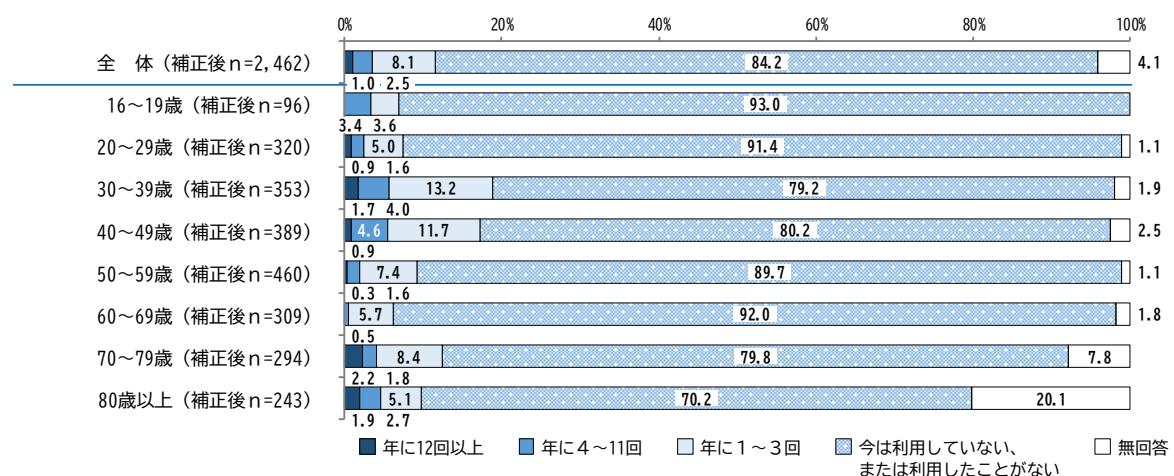
図表10-1-3-1 仲良しプラザ（大和ゆとりの森内）の利用



■問10③×年齢

年齢別でみると、30～39歳、40～49歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

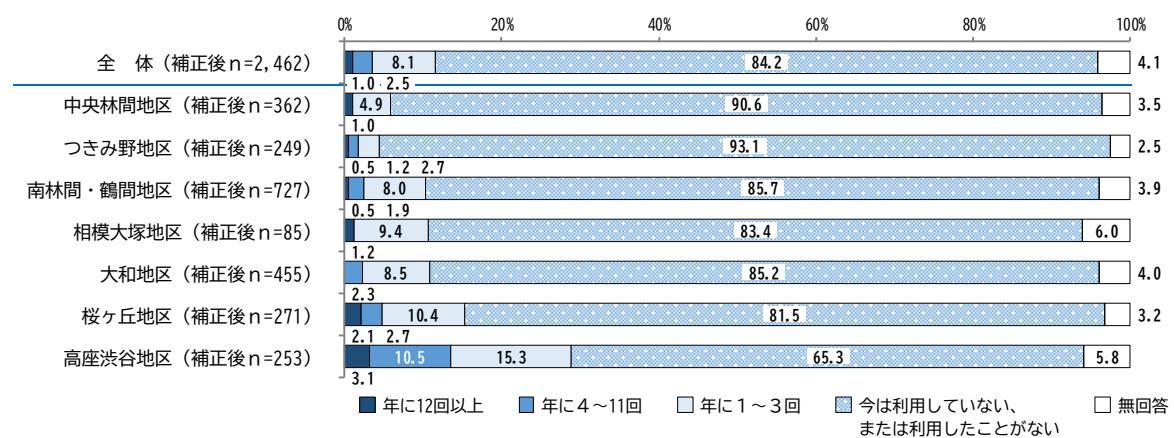
図表10-1-3-2 仲良しプラザ（大和ゆとりの森内）の利用×年齢



■問10③×居住地域

居住地域別でみると、高座渋谷地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

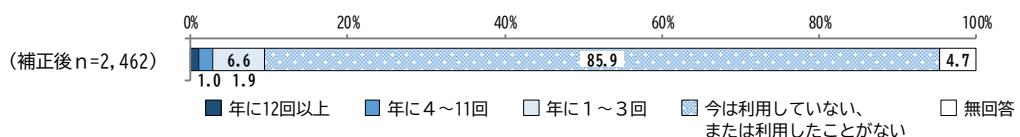
図表10-1-3-3 仲良しプラザ（大和ゆとりの森内）の利用×居住地域別



④ プロキオン（やまと公園の休憩所）

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は9.5%となっています。

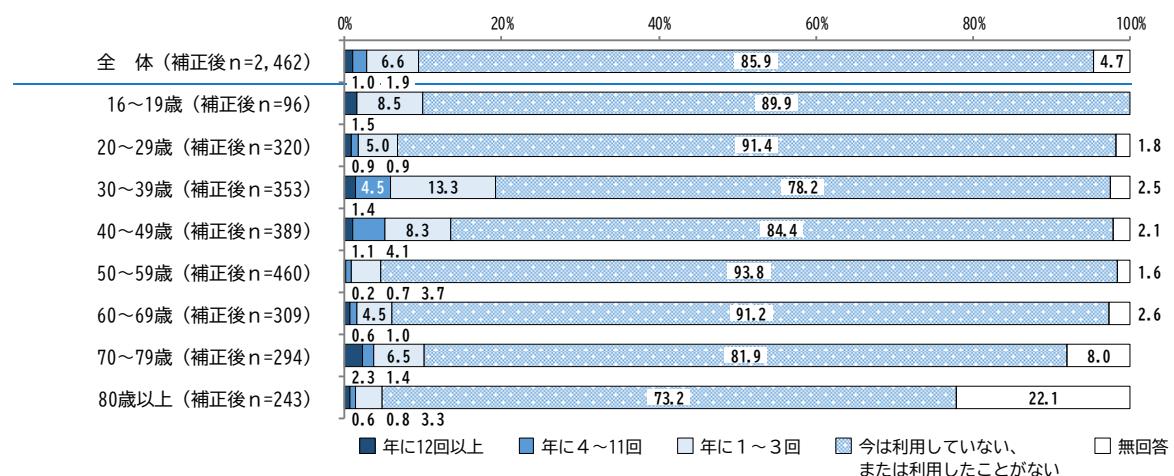
図表10-1-4-1 プロキオン（やまと公園の休憩所）の利用



■問10④×年齢

年齢別でみると、30～39歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

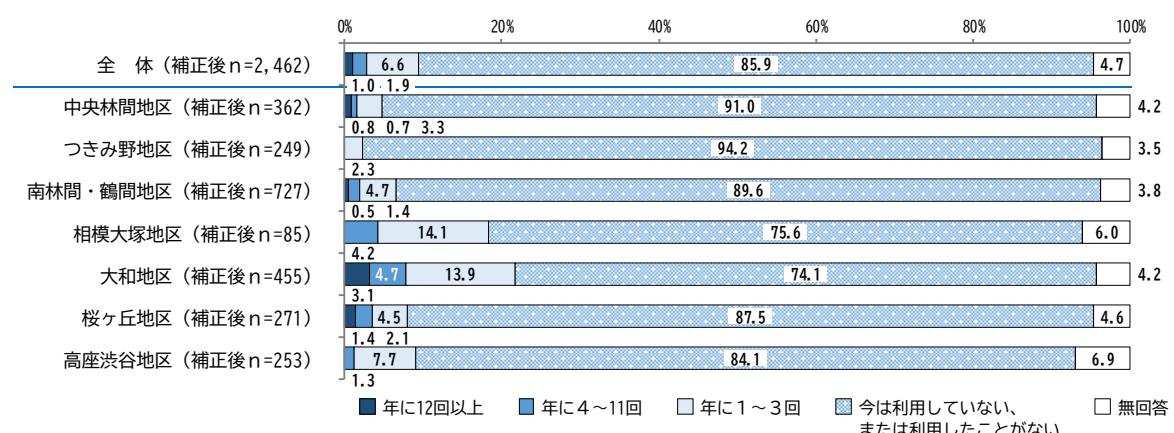
図表10-1-4-2 プロキオン（やまと公園の休憩所）の利用×年齢



■問10④×居住地域

居住地域別でみると、大和地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

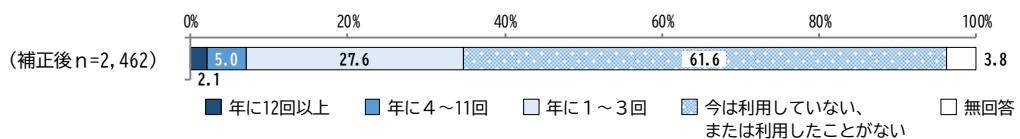
図表10-1-4-3 プロキオン（やまと公園の休憩所）の利用×居住地域別



⑤ 中央林間分室、渋谷分室、大和連絡所、桜ヶ丘連絡所

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は34.6%となっています。

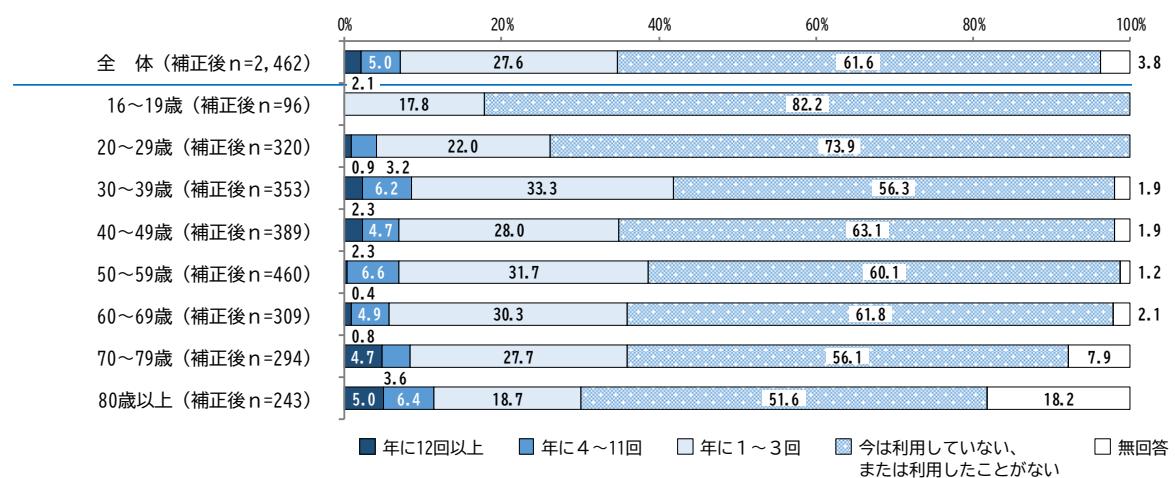
図表 10-1-5-1 中央林間分室、渋谷分室、大和連絡所、桜ヶ丘連絡所の利用



■ 問10⑤×年齢

年齢別でみると、16～19歳、20～29歳で『年に1回以上利用している』の割合が低くなっています。

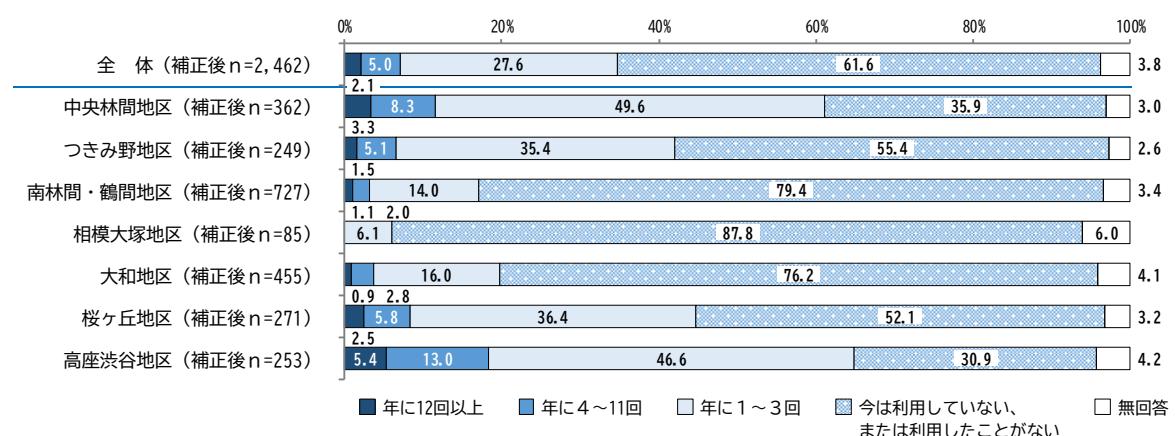
図表 10-1-5-2 中央林間分室、渋谷分室、大和連絡所、桜ヶ丘連絡所の利用×年齢



■ 問10⑤×居住地域

居住地域別でみると、中央林間地区、高座渋谷地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

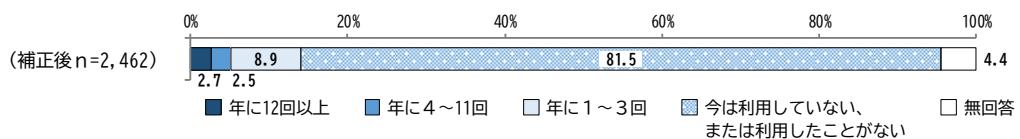
図表 10-1-5-3 中央林間分室、渋谷分室、大和連絡所、桜ヶ丘連絡所の利用×居住地域別



⑥ コミュニティセンター、児童館

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は14.1%となっています。

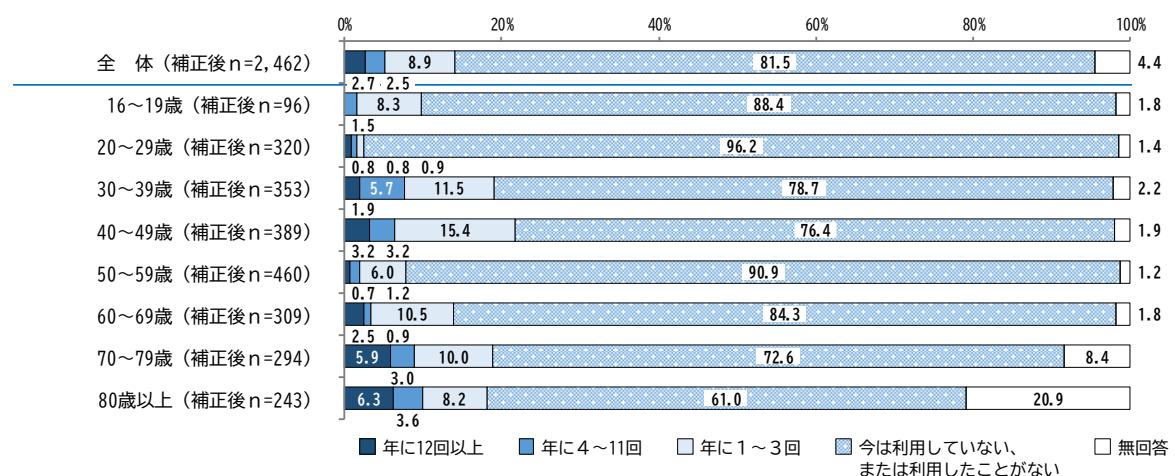
図表10-1-6-1 コミュニティセンター、児童館の利用



■問10⑥×年齢

年齢別でみると、20～29歳、50～59歳で『年に1回以上利用している』の割合が低くなっています。

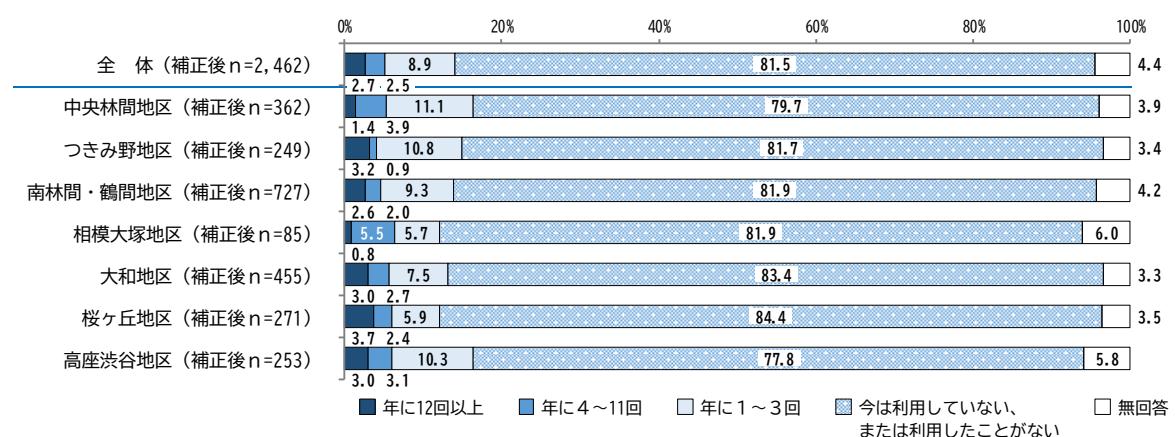
図表10-1-6-2 コミュニティセンター、児童館の利用×年齢



■問10⑥×居住地域

居住地域別でみると、大きな差はみられません。

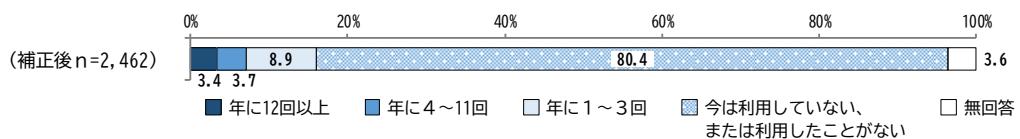
図表10-1-6-3 コミュニティセンター、児童館の利用×居住地域別



⑦ つきみ野学習センター、桜丘学習センター、渋谷学習センター

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は16.0%となっています。

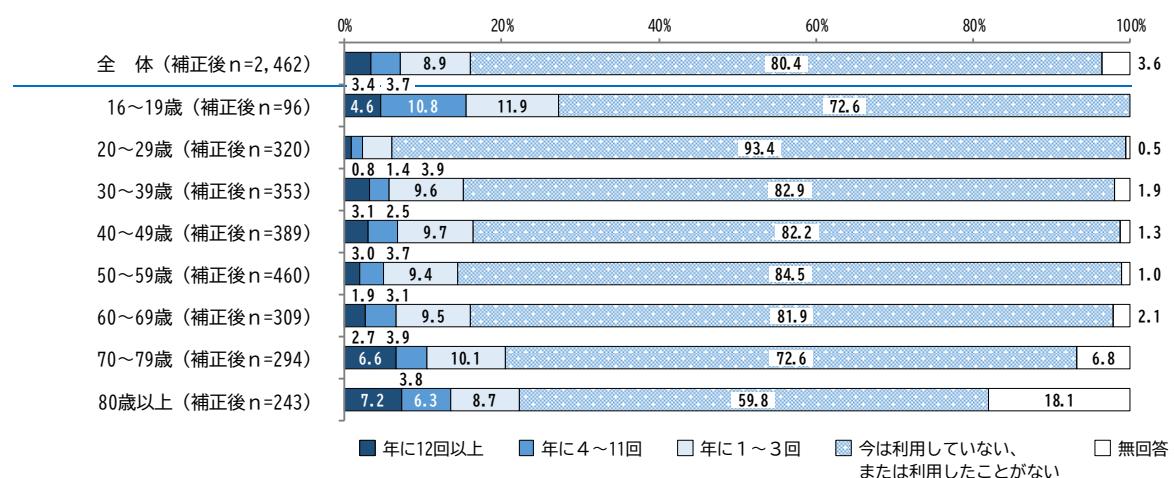
図表 10-1-7-1 つきみ野学習センター、桜丘学習センター、渋谷学習センターの利用



■ 問10⑦×年齢

年齢別でみると、20～29歳で『年に1回以上利用している』の割合が低くなっています。

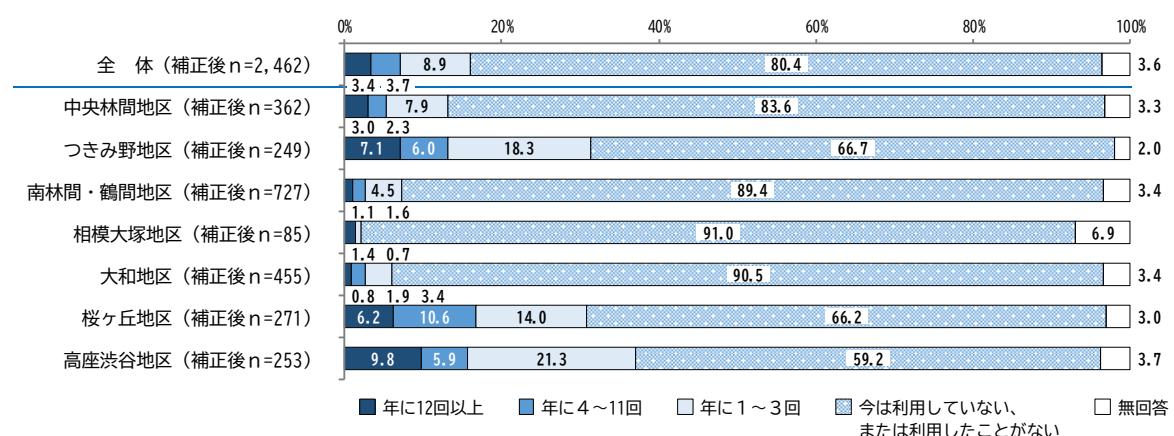
図表 10-1-7-2 つきみ野学習センター、桜丘学習センター、渋谷学習センターの利用×年齢



■ 問10⑦×居住地域

居住地域別でみると、つきみ野地区、桜ヶ丘地区、高座渋谷地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

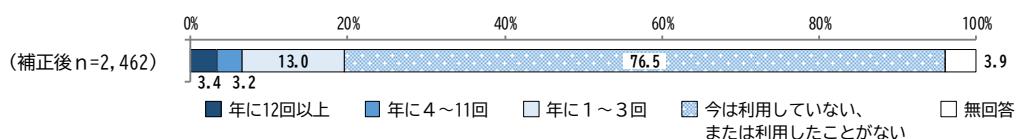
図表 10-1-7-3 つきみ野学習センター、桜丘学習センター、渋谷学習センターの利用×居住地域別



⑧ 大和スポーツセンター

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は19.6%となっています。

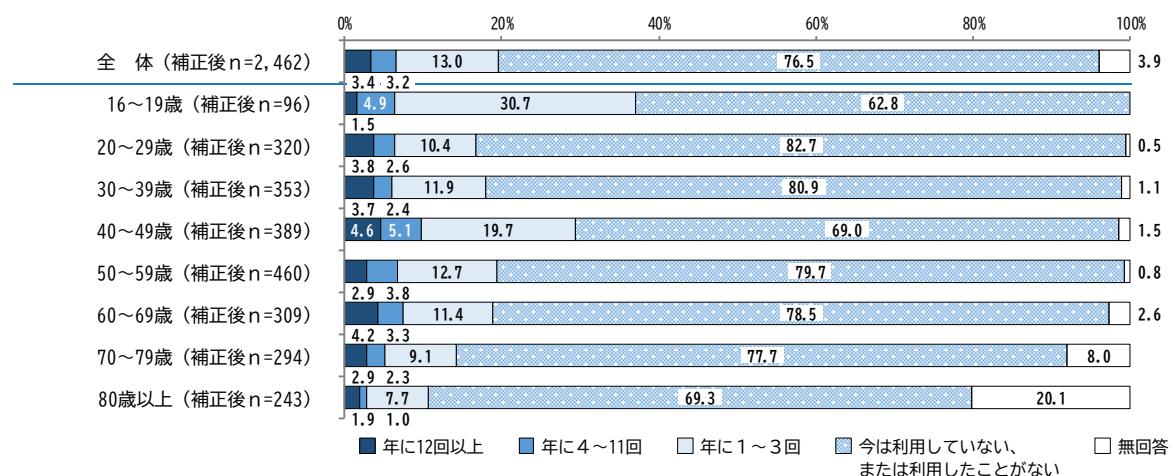
図表10-1-8-1 大和スポーツセンターの利用



■問10⑧×年齢

年齢別でみると、16～19歳、40～49歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

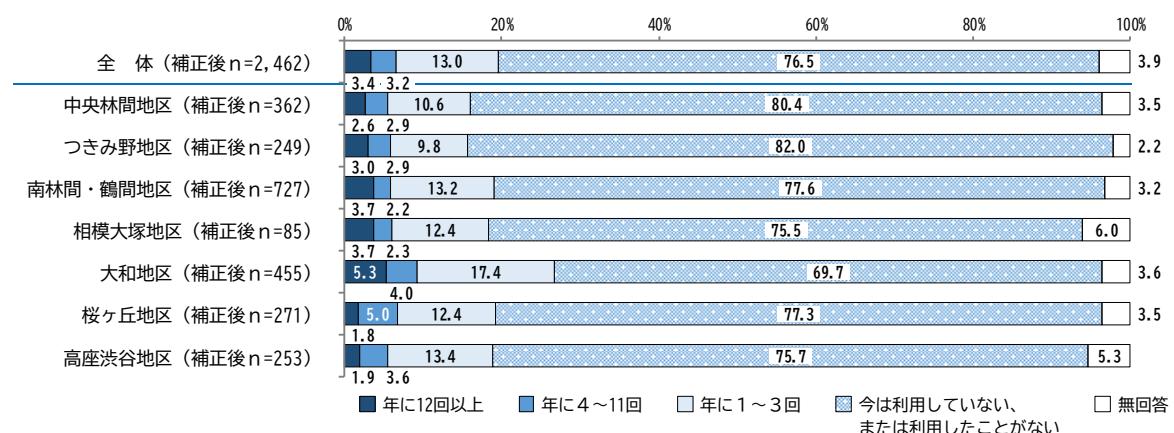
図表10-1-8-2 大和スポーツセンターの利用×年齢



■問10⑧×居住地域

居住地域別でみると、大和地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

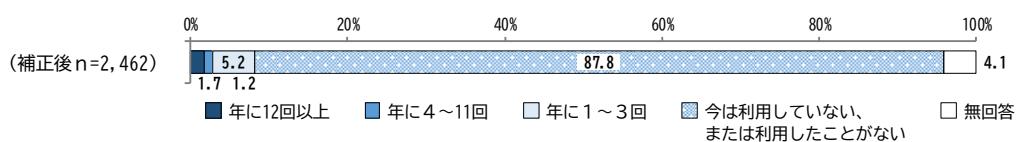
図表10-1-8-3 大和スポーツセンターの利用×居住地域別



⑨ 野球場、庭球場、スポーツ広場

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は8.1%となっています。

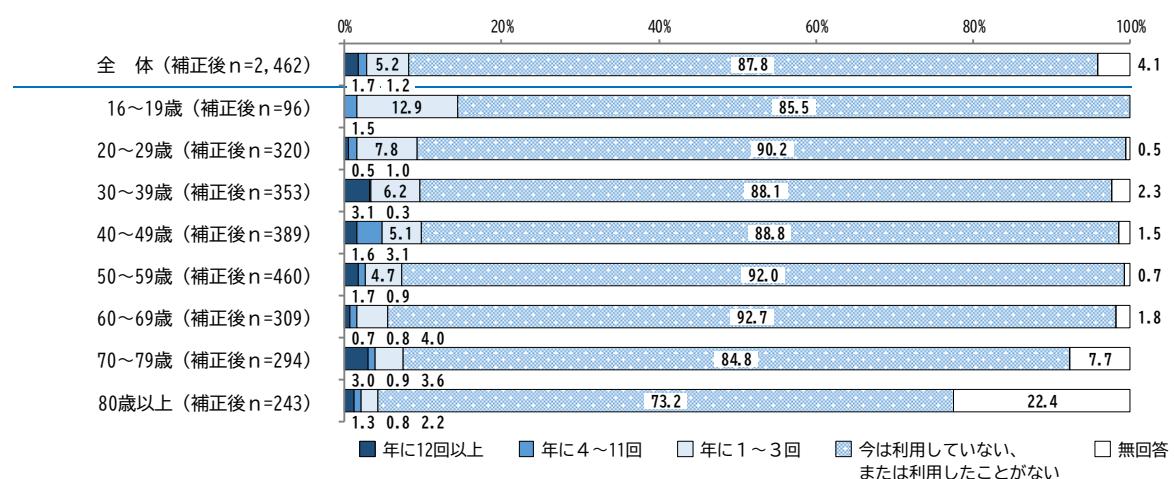
図表 10-1-9-1 野球場、庭球場、スポーツ広場の利用



■ 問10⑨×年齢

年齢別でみると、16～19歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

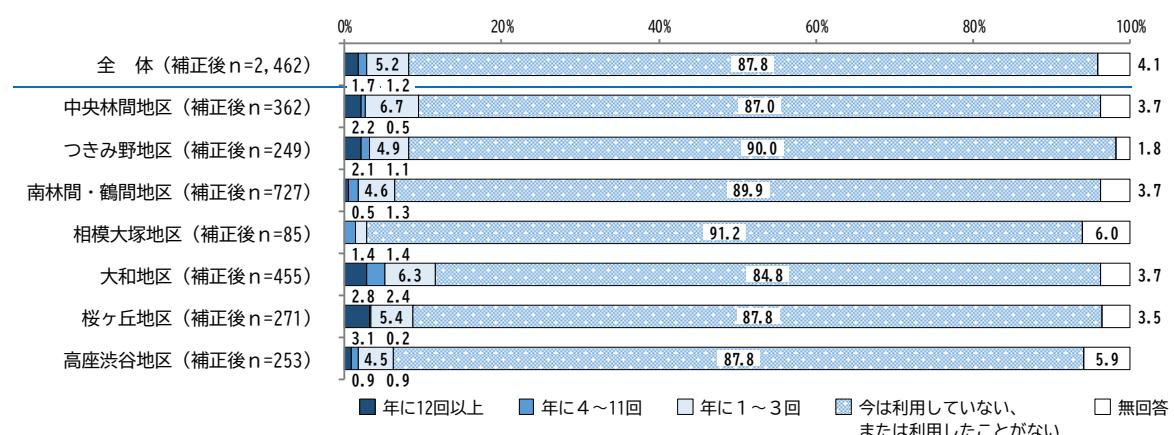
図表 10-1-9-2 野球場、庭球場、スポーツ広場の利用×年齢



■ 問10⑨×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で『年に1回以上利用している』の割合が低くなっています。

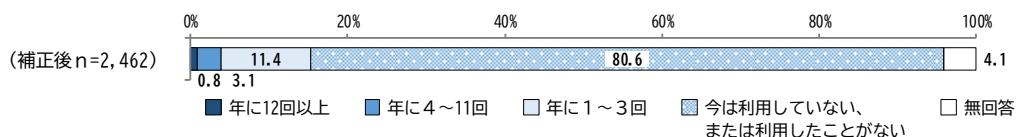
図表 10-1-9-3 野球場、庭球場、スポーツ広場の利用×居住地域別



⑩ 引地台温水プール

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は15.3%となっています。

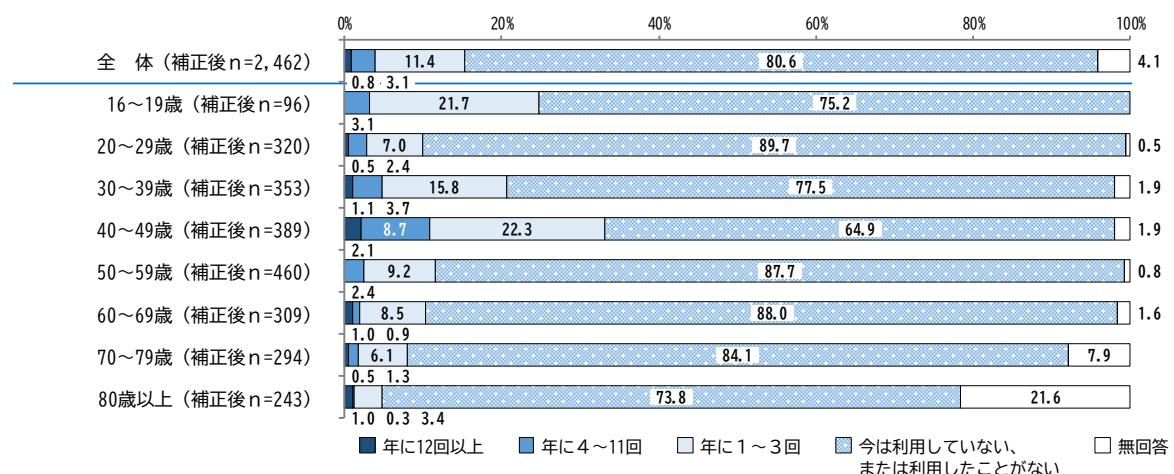
図表 10-1-10-1 引地台温水プールの利用



■ 問10⑩×年齢

年齢別でみると、16～19歳、40～49歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

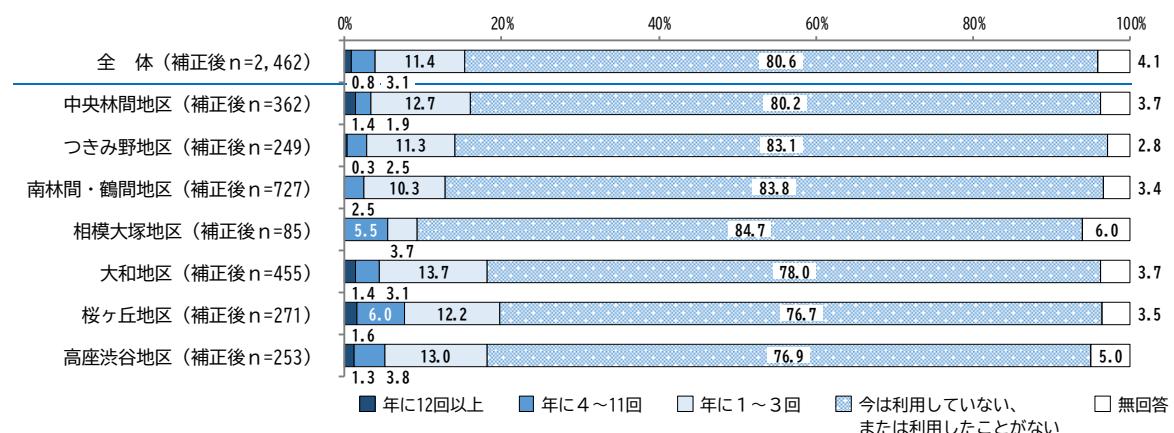
図表 10-1-10-2 引地台温水プールの利用×年齢



■ 問10⑩×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で『年に1回以上利用している』の割合が低くなっています。

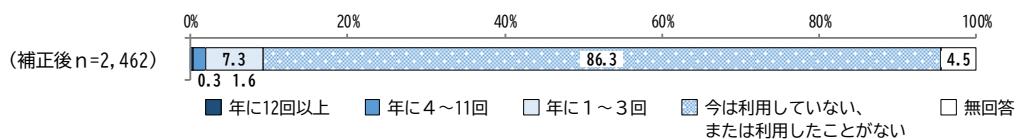
図表 10-1-10-3 引地台温水プールの利用×居住地域別



⑪ 引地台温水プール立体駐車場

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は9.2%となっています。

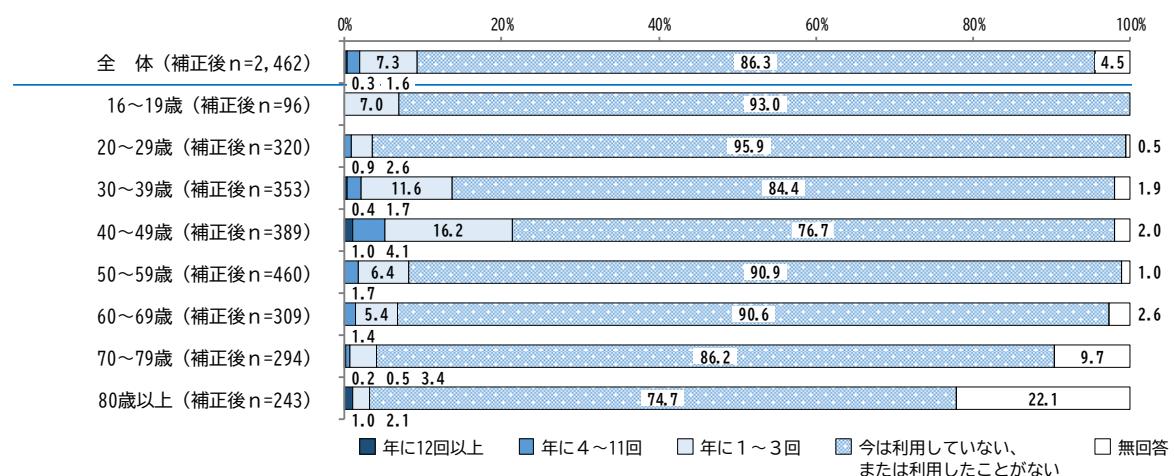
図表 10-1-11-1 引地台温水プール立体駐車場の利用



■ 問10⑪×年齢

年齢別でみると、40～49歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

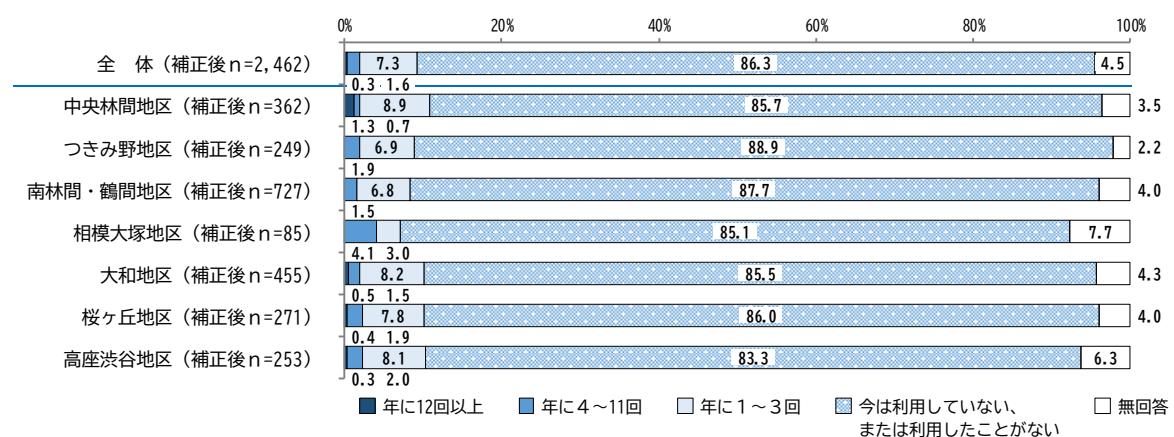
図表 10-1-11-2 引地台温水プール立体駐車場の利用×年齢



■ 問10⑪×居住地域

居住地域別でみると、大きな差はみられません。

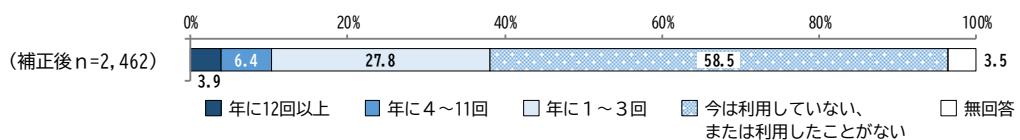
図表 10-1-11-3 引地台温水プール立体駐車場の利用×居住地域別



⑫ 市立病院

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は38.0%となっています。

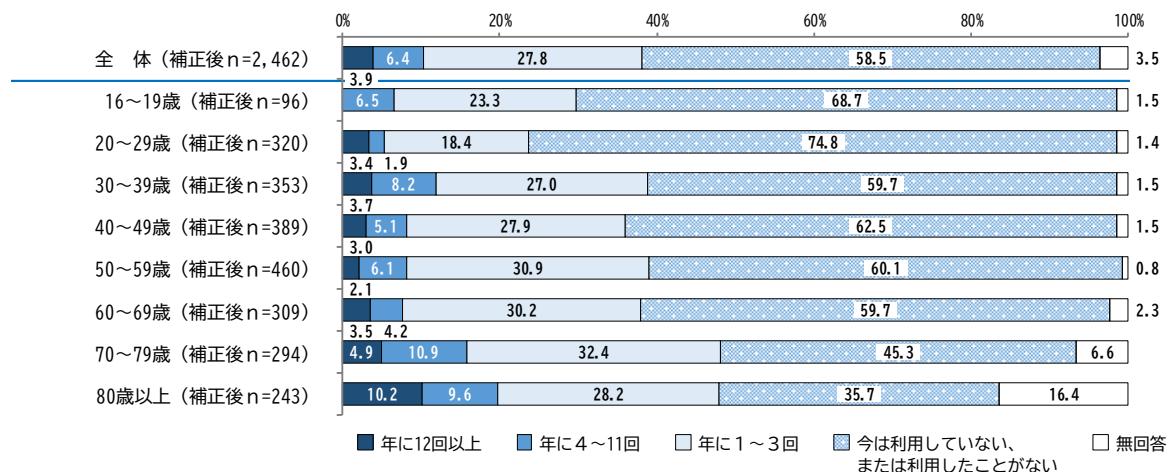
図表 10-1-12-1 市立病院の利用



■ 問10⑫×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど『年に1回以上利用している』の割合が高い傾向にあります。

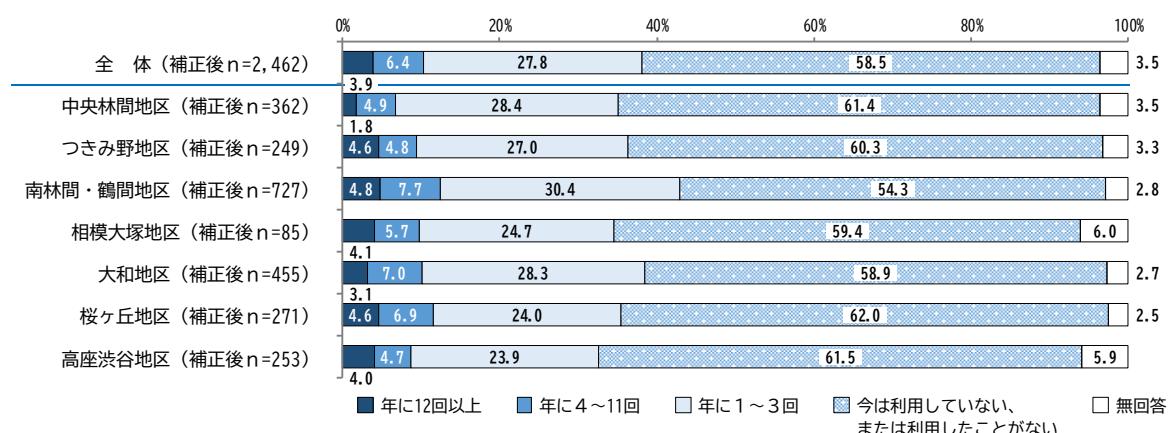
図表 10-1-12-2 市立病院の利用×年齢



■ 問10⑫×居住地域

居住地域別でみると、南林間・鶴間地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

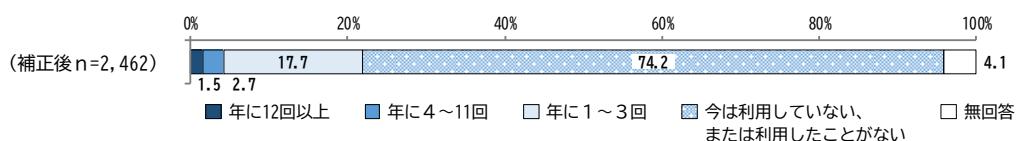
図表 10-1-12-3 市立病院の利用×居住地域別



⑬ 地域医療センター

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は21.8%となっています。

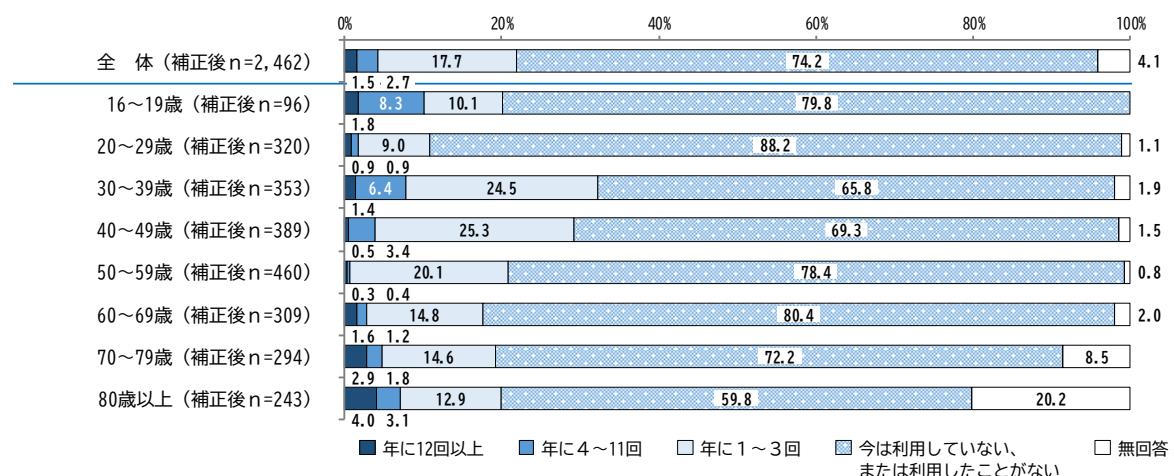
図表 10-1-13-1 地域医療センターの利用



■ 問10⑬×年齢

年齢別でみると、30～39歳、40～49歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

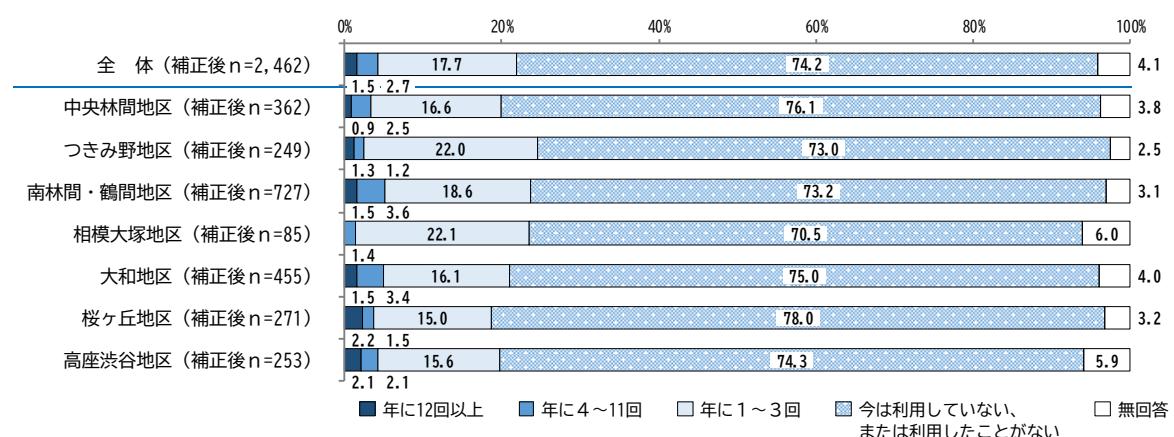
図表 10-1-13-2 地域医療センターの利用×年齢



■ 問10⑬×居住地域

居住地域別でみると、大きな差はみられません。

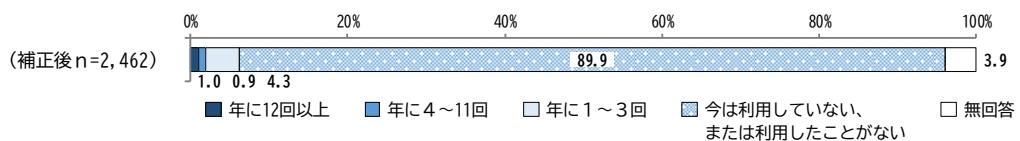
図表 10-1-13-3 地域医療センターの利用×居住地域別



⑭ 老人福祉センター（保健福祉センター内）

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は6.2%となっています。

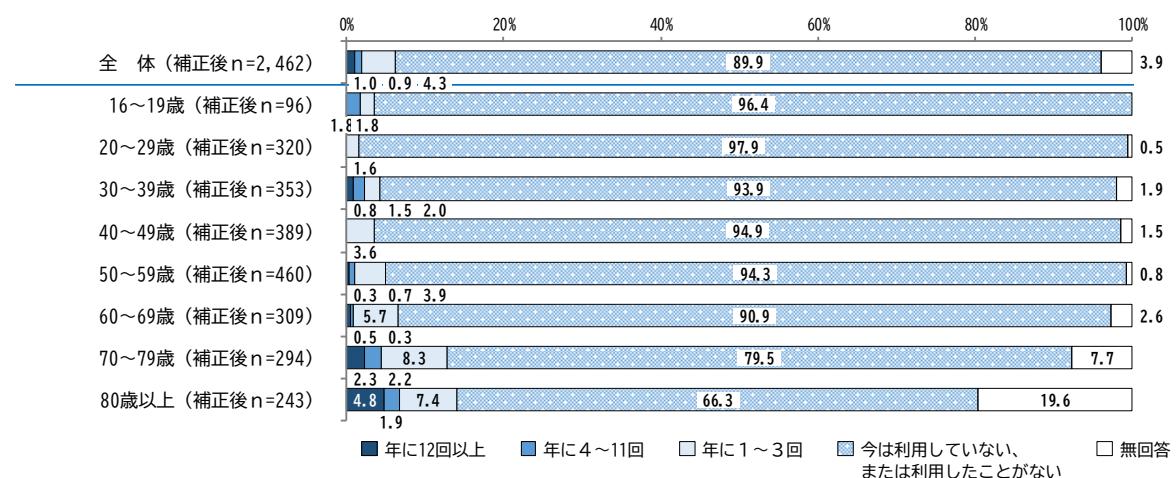
図表 10-1-14-1 老人福祉センター（保健福祉センター内）の利用



■問10⑭×年齢

年齢別でみると、70～79歳、80歳以上で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

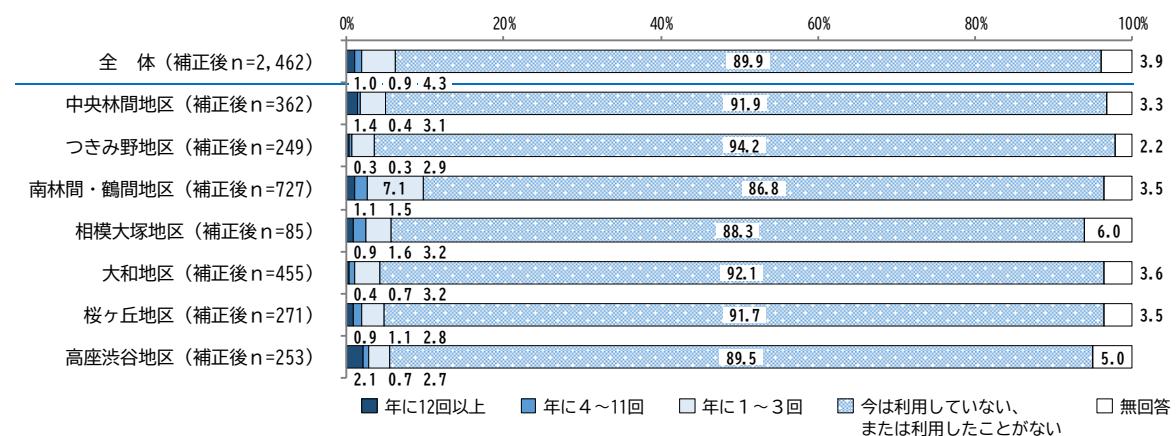
図表 10-1-14-2 老人福祉センター（保健福祉センター内）の利用×年齢



■問10⑭×居住地域

居住地域別でみると、南林間・鶴間地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

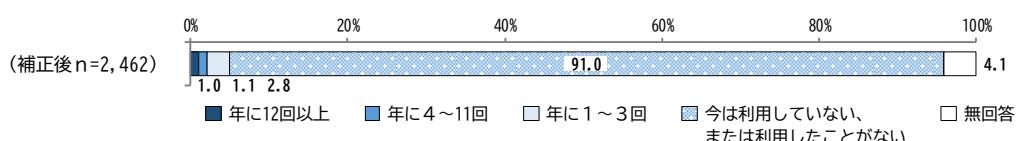
図表 10-1-14-3 老人福祉センター（保健福祉センター内）の利用×居住地域別



⑯ 子育て支援施設（大和こどもの城、中央林間東急スクエア内子育て支援施設、まごころ地域福祉センター内子育て支援センター）

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は4.9%となっています。

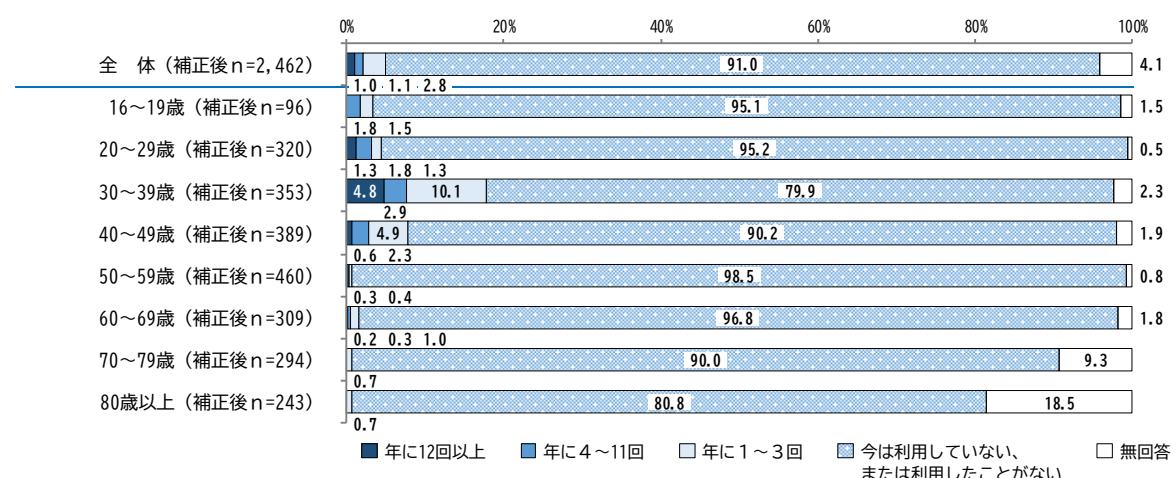
図表 10-1-15-1 子育て支援施設の利用



問10⑯×年齢

年齢別でみると、30～39歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

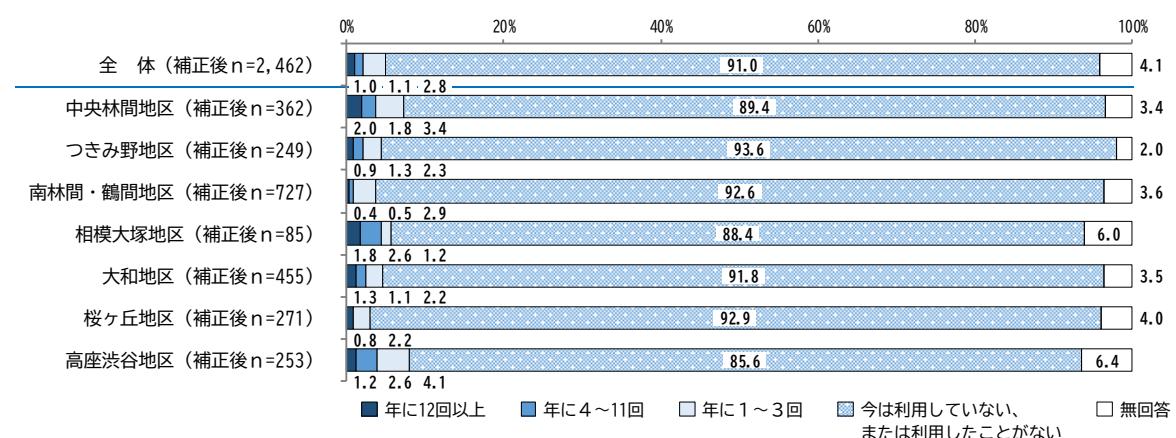
図表 10-1-15-2 子育て支援施設の利用×年齢



問10⑯×居住地域

居住地域別でみると、中央林間地区、高座渋谷地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

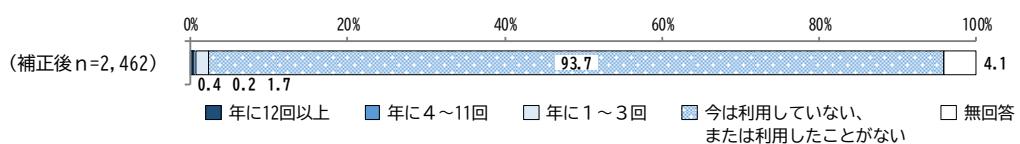
図表 10-1-15-3 子育て支援施設の利用×居住地域別



⑯ 障害者自立支援センター

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は2.2%となっています。

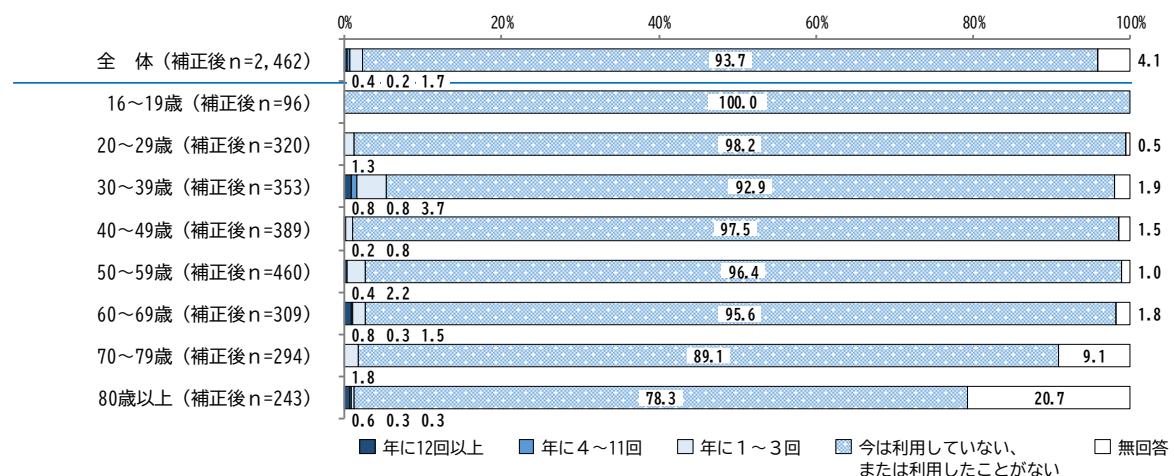
図表 10-1-16-1 障害者自立支援センターの利用



■ 問10⑯×年齢

年齢別でみると、30～39歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

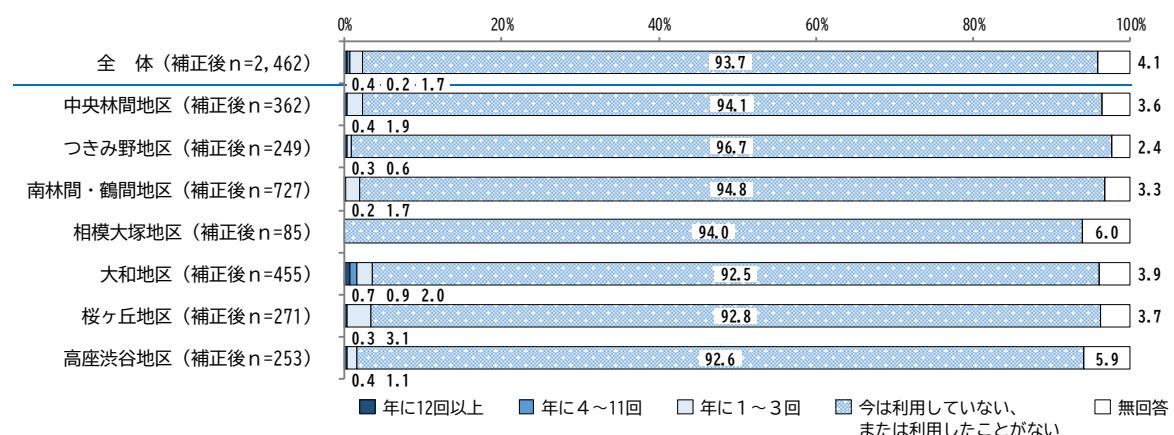
図表 10-1-16-2 障害者自立支援センターの利用×年齢



■ 問10⑯×居住地域

居住地域別でみると、大きな差はみられません。

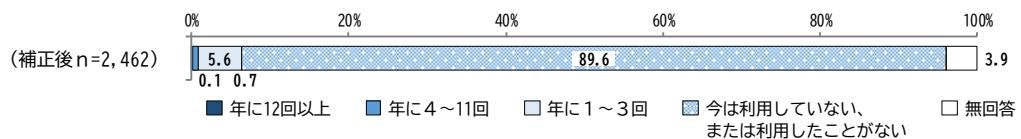
図表 10-1-16-3 障害者自立支援センターの利用×居住地域別



⑯ 郷土民家園、下鶴間ふるさと館、つる舞の里歴史資料館

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は6.5%となっています。

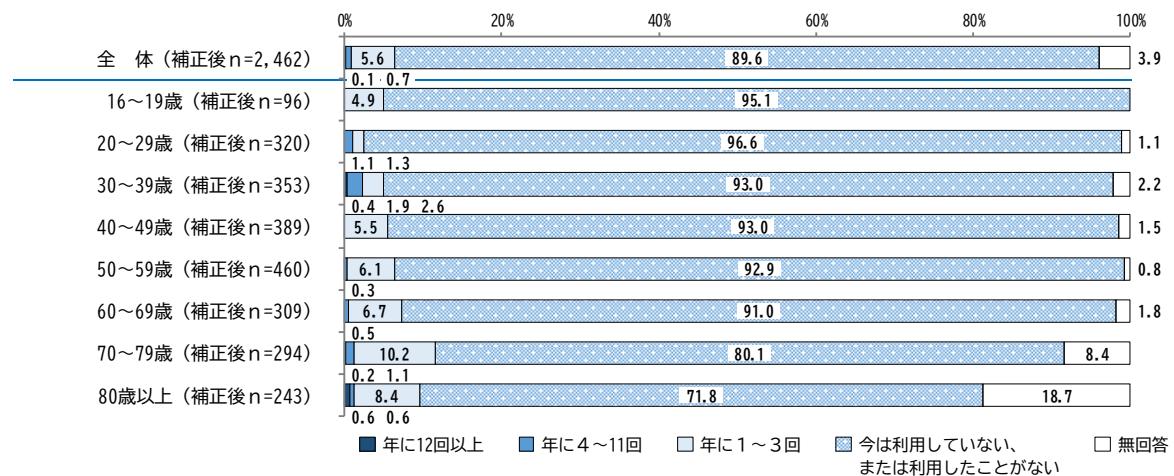
図表 10-1-17-1 郷土民家園、下鶴間ふるさと館、つる舞の里歴史資料館の利用



■ 問10⑯×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど『年に1回以上利用している』の割合が高い傾向にあります。

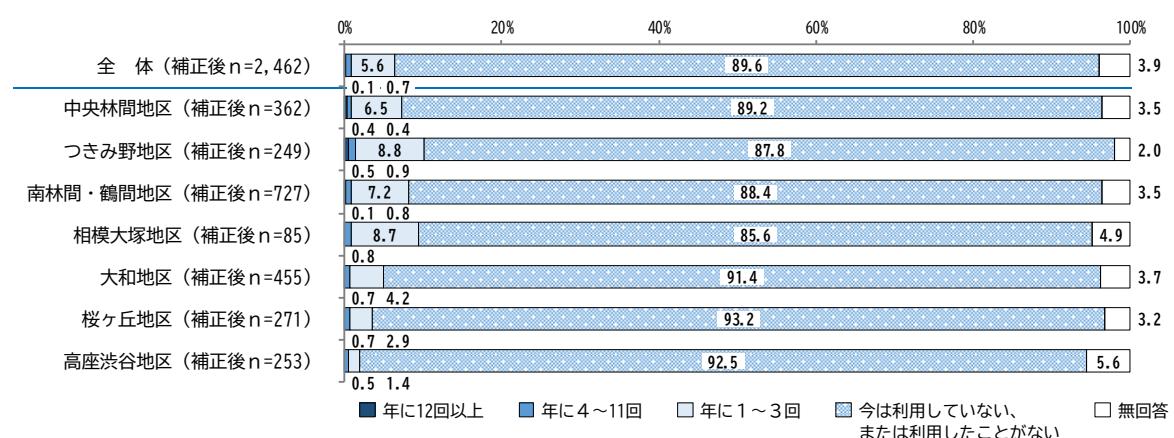
図表 10-1-17-2 郷土民家園、下鶴間ふるさと館、つる舞の里歴史資料館の利用×年齢



■ 問10⑯×居住地域

居住地域別でみると、桜ヶ丘地区、高座渋谷地区で『年に1回以上利用している』の割合が低くなっています。

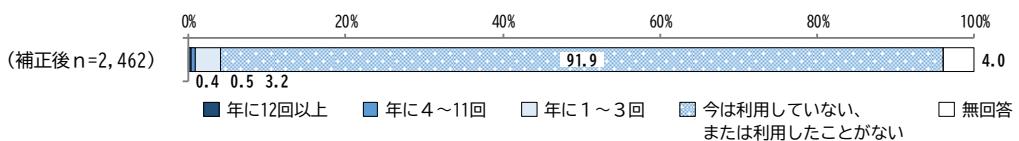
図表 10-1-17-3 郷土民家園、下鶴間ふるさと館、つる舞の里歴史資料館の利用×居住地域別



⑯ グリーンアップセンター

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は4.1%となっています。

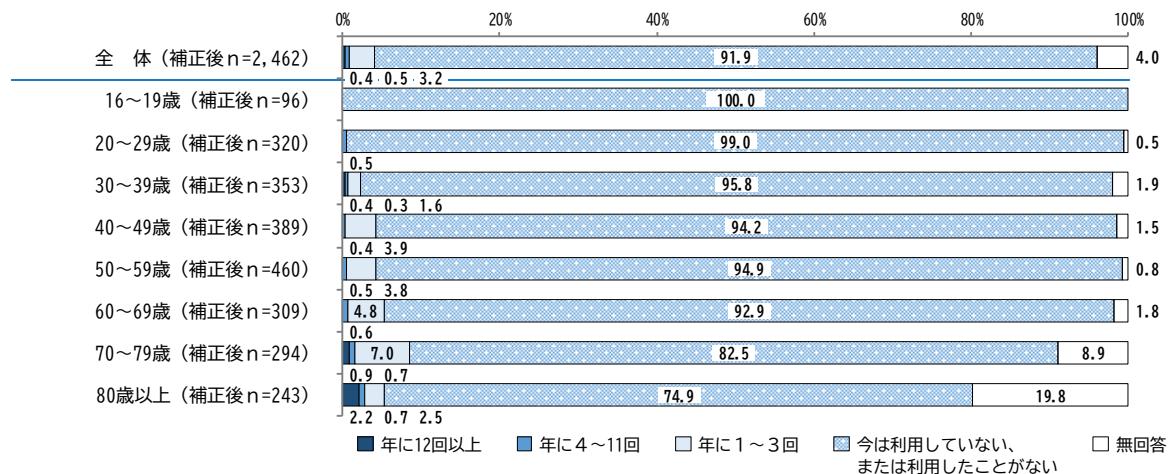
図表 10-1-18-1 グリーンアップセンターの利用



■ 問10⑯×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど『年に1回以上利用している』の割合が高い傾向にあります。

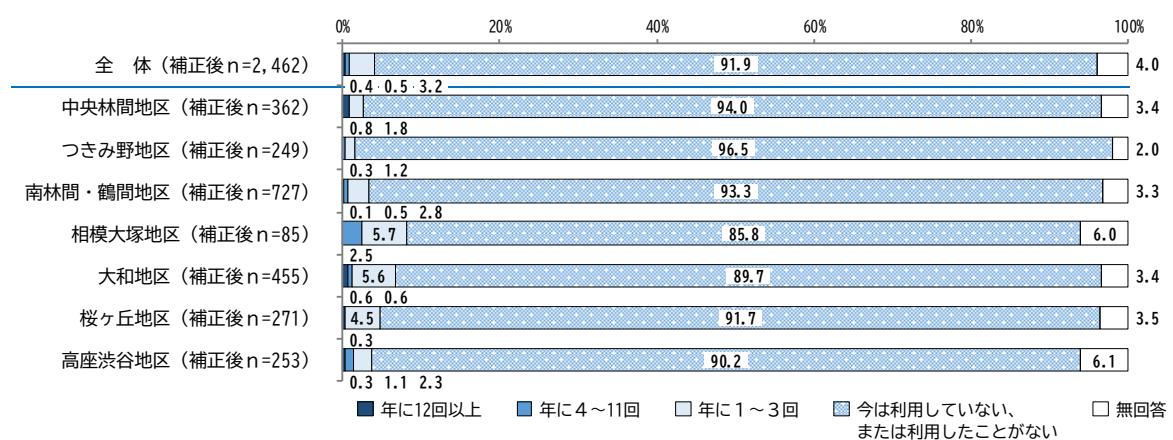
図表 10-1-18-2 グリーンアップセンターの利用×年齢



■ 問10⑯×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

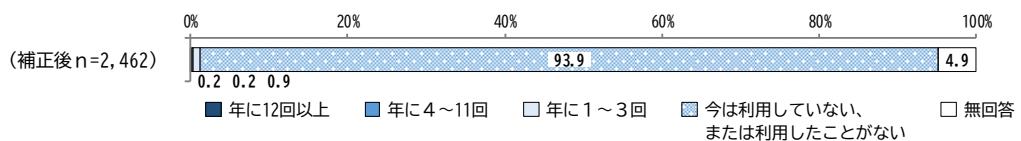
図表 10-1-18-3 グリーンアップセンターの利用×居住地域別



⑯ 柳橋ふれあいプラザ

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は1.2%となっています。

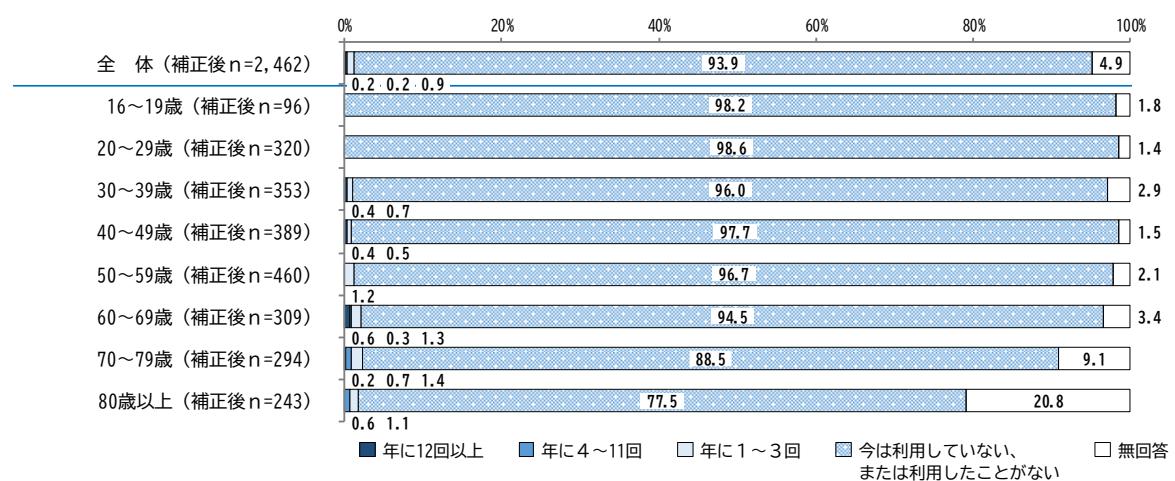
図表 10-1-19-1 柳橋ふれあいプラザの利用



■ 問10⑯×年齢

年齢別でみると、大きな差はみられません。

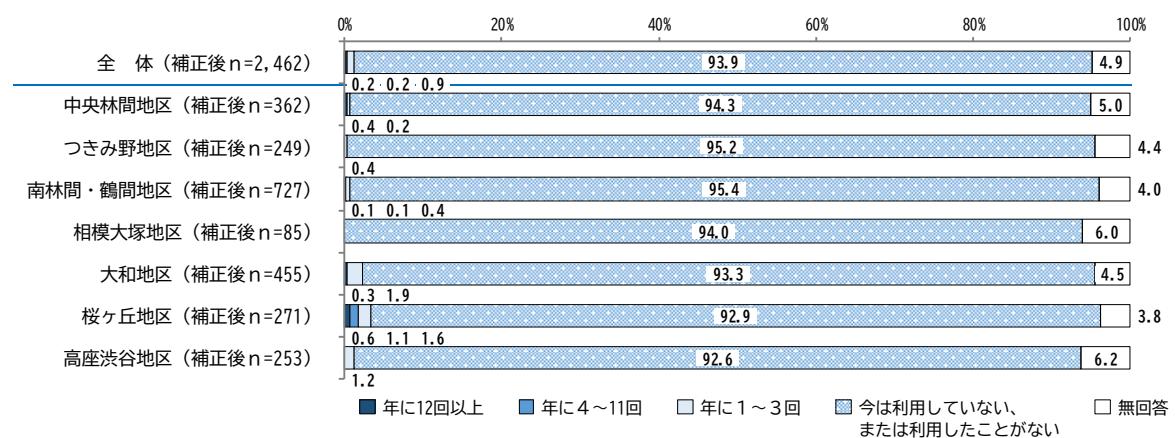
図表 10-1-19-2 柳橋ふれあいプラザの利用×年齢



■ 問10⑯×居住地域

居住地域別でみると、大きな差はみられません。

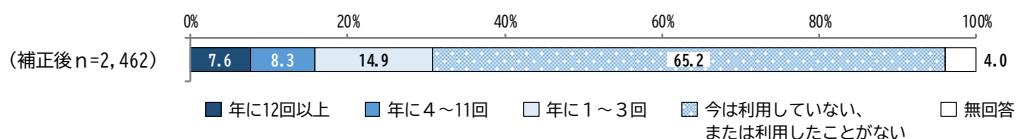
図表 10-1-19-3 柳橋ふれあいプラザの利用×居住地域別



⑯ 中央林間図書館、渋谷図書館

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は30.8%となっています。

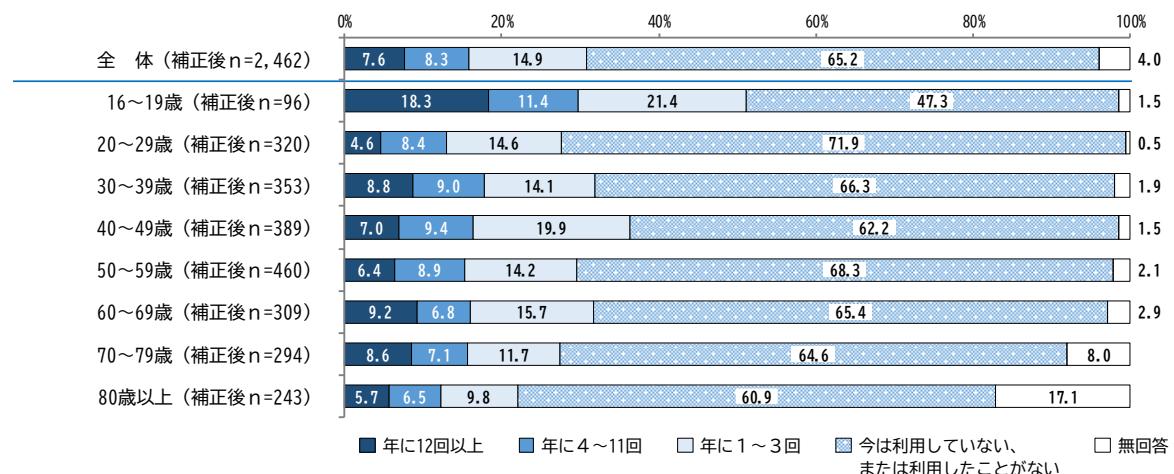
図表 10-1-20-1 中央林間図書館、渋谷図書館の利用



問10⑩×年齢

年齢別でみると、16～19歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

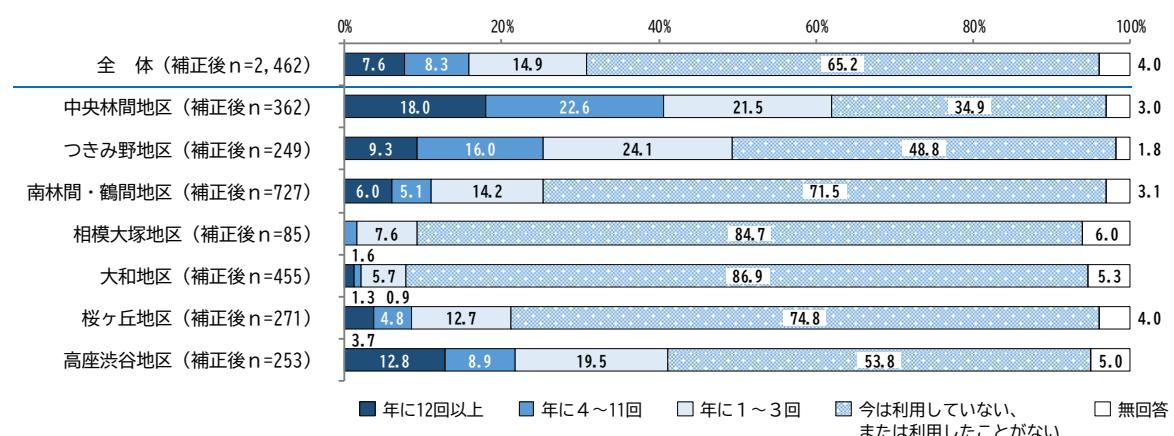
図表 10-1-20-2 中央林間図書館、渋谷図書館の利用×年齢



問10⑩×居住地域

居住地域別でみると、中央林間地区、つきみ野地区、高座渋谷地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

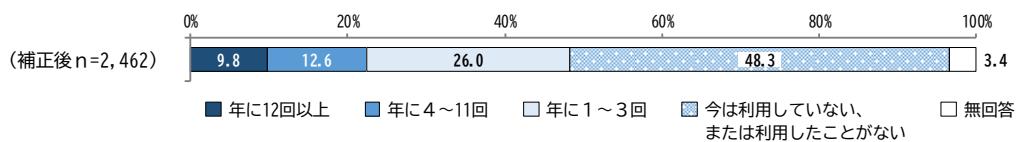
図表 10-1-20-3 中央林間図書館、渋谷図書館の利用×居住地域別



② 文化創造拠点シリウス（図書館）

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は48.3%となっています。

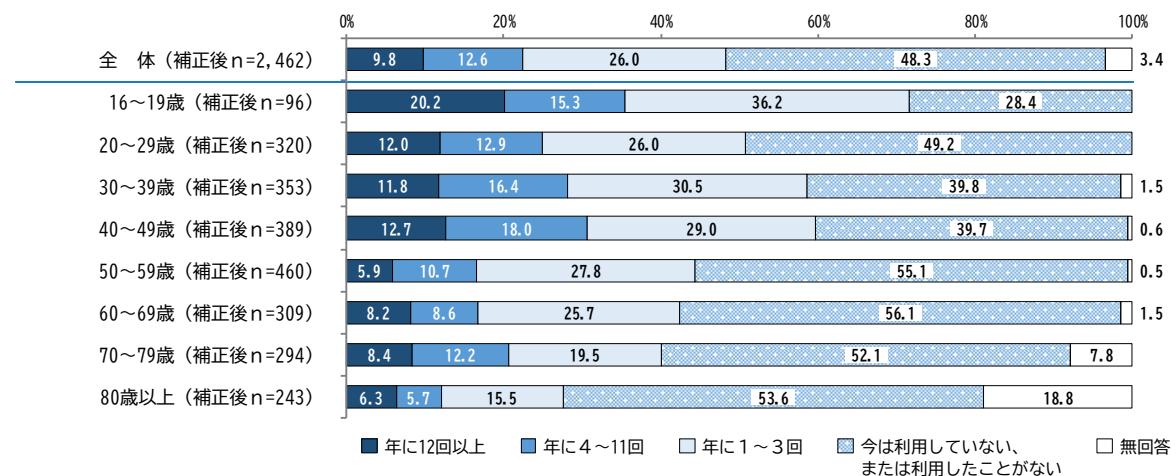
図表10-1-21-1 文化創造拠点シリウス（図書館）の利用



■問10②×年齢

年齢別でみると、16～19歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

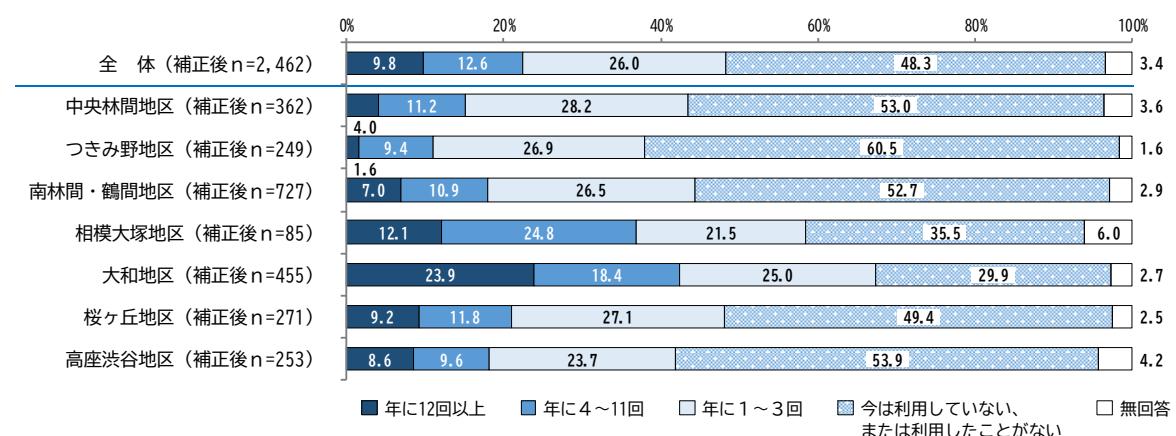
図表10-1-21-2 文化創造拠点シリウス（図書館）の利用×年齢



■問10②×居住地域

居住地域別でみると、相模大塚地区、大和地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

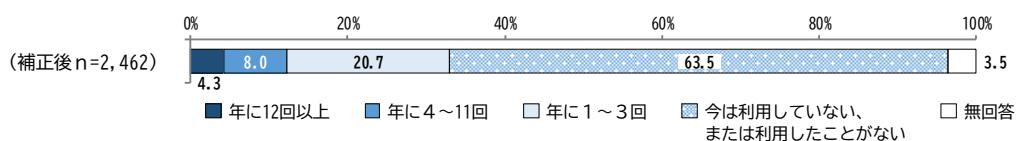
図表10-1-21-3 文化創造拠点シリウス（図書館）の利用×居住地域別



② 文化創造拠点シリウス（ホール、ギャラリー、生涯学習センター、屋内こども広場）

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は33.1%となっています

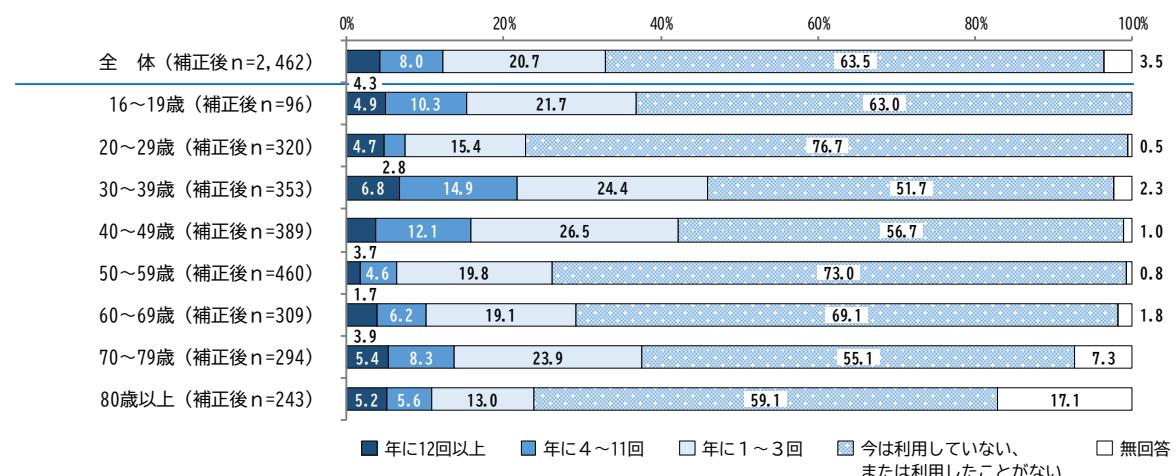
図表10-1-22-1 文化創造拠点シリウスの利用



■問10②×年齢

年齢別でみると、30～39歳、40～49歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

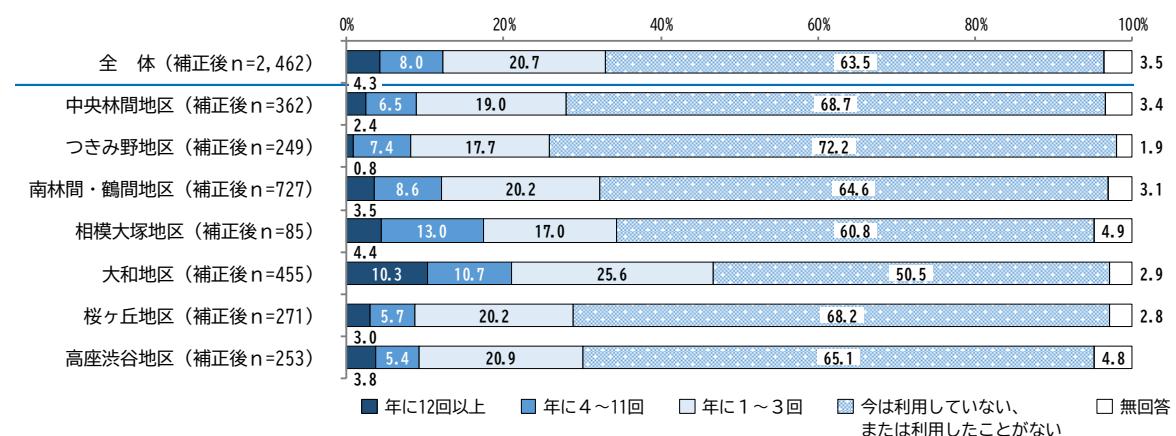
図表10-1-22-2 文化創造拠点シリウスの利用×年齢



■問10②×居住地域

居住地域別でみると、大和地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

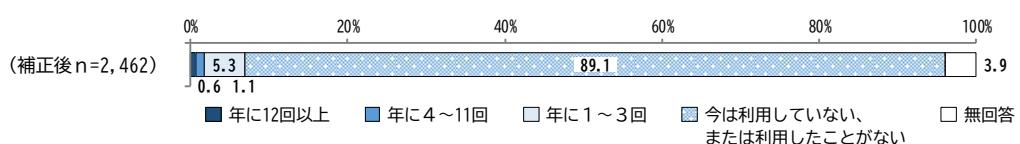
図表10-1-22-3 文化創造拠点シリウスの利用×居住地域別



㉓ 市民活動拠点ベテルギウス（本館・北館）

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は7.0%となっています。

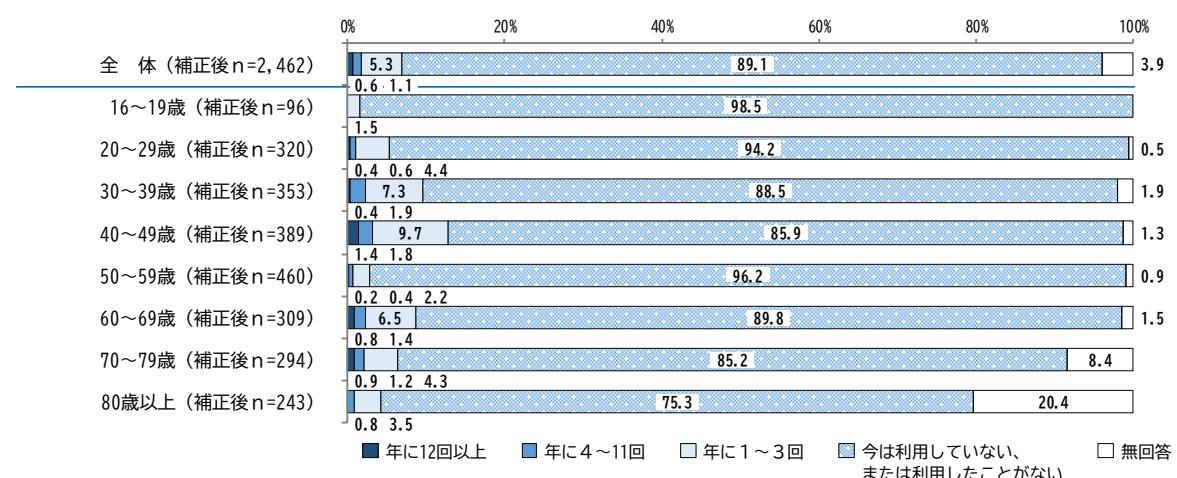
図表 10-1-23-1 市民活動拠点ベテルギウス（本館・北館）の利用



■ 問10㉓×年齢

年齢別でみると、40～49歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

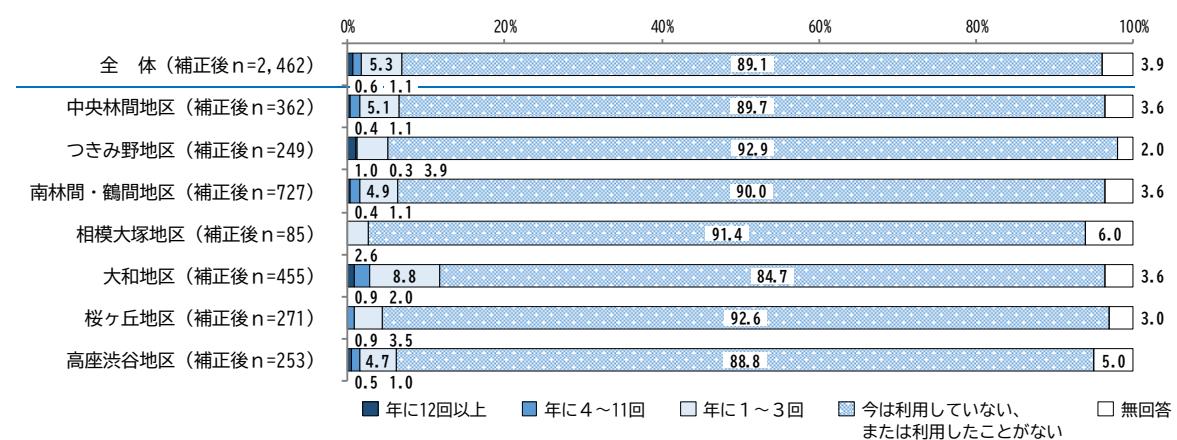
図表 10-1-23-2 市民活動拠点ベテルギウス（本館・北館）の利用×年齢



■ 問10㉓×居住地域

居住地域別でみると、大和地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

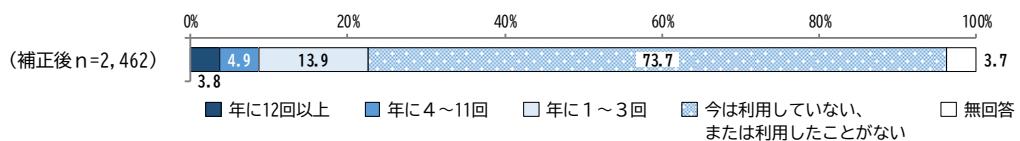
図表 10-1-23-3 市民活動拠点ベテルギウス（本館・北館）の利用×居住地域別



②4 市民交流拠点ポラリス

上記の施設について、『年に1回以上利用している』（「年に12回以上」「年に4～11回」「年に1～3回」の合計）の割合は22.6%となっています。

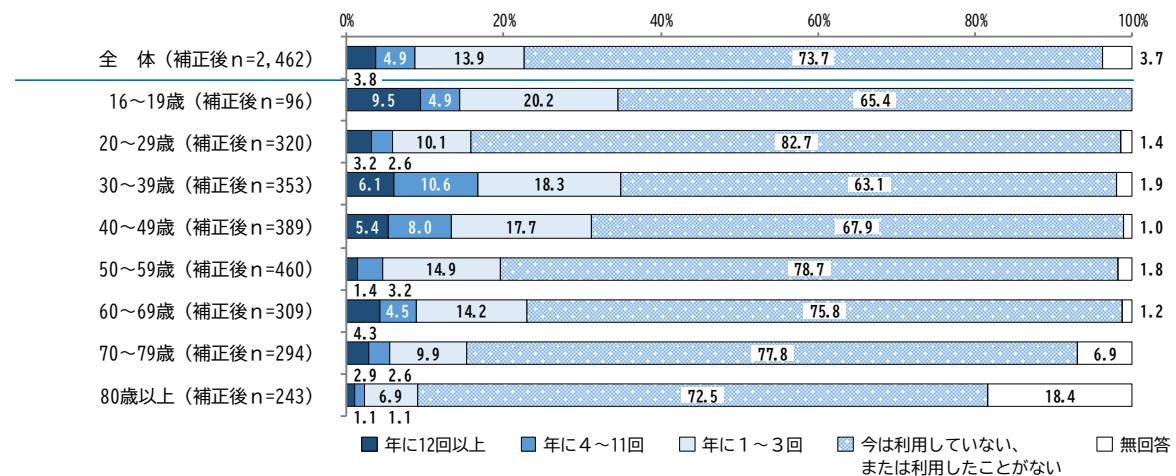
図表10-1-24-1 市民交流拠点ポラリスの利用



■問10④×年齢

年齢別でみると16～19歳、30～39歳、40～49歳で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

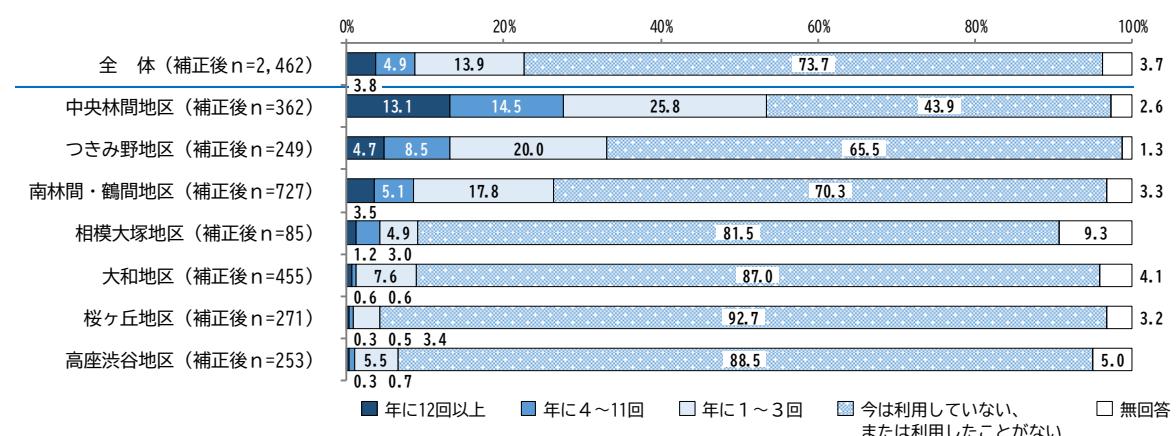
図表10-1-24-2 市民交流拠点ポラリスの利用×年齢



■問10④×居住地域

居住地域別でみると、中央林間地区で『年に1回以上利用している』の割合が高くなっています。

図表10-1-24-3 市民交流拠点ポラリスの利用×居住地域別



10-2

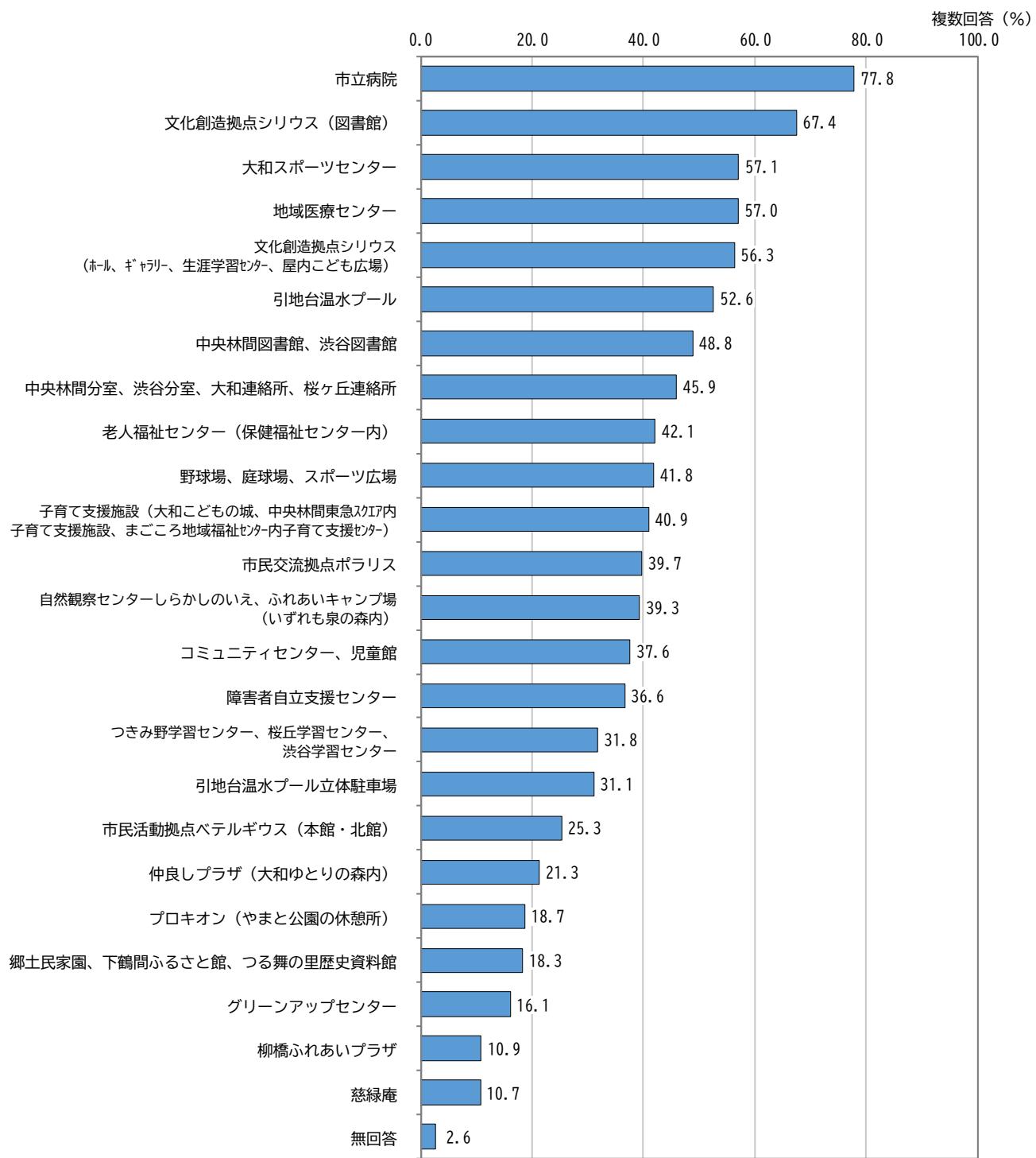
大和市に住む人みんなにとって、これからも大切だと思う市内公共施設を、①～⑭からすべて選んでください。

○はいくつでも

大和市に住む人みんなにとって、これからも大切だと思う市内公共施設では、「市立病院」が約8割となっています。

大和市に住む人みんなにとって、これからも大切だと思う市内公共施設について、「市立病院」の割合が77.8%と最も高く、次いで「文化創造拠点シリウス（図書館）」の割合が67.4%、「大和スポーツセンター」の割合が57.1%となっています。

図表10-2-1 これからも大切だと思う市内公共施設

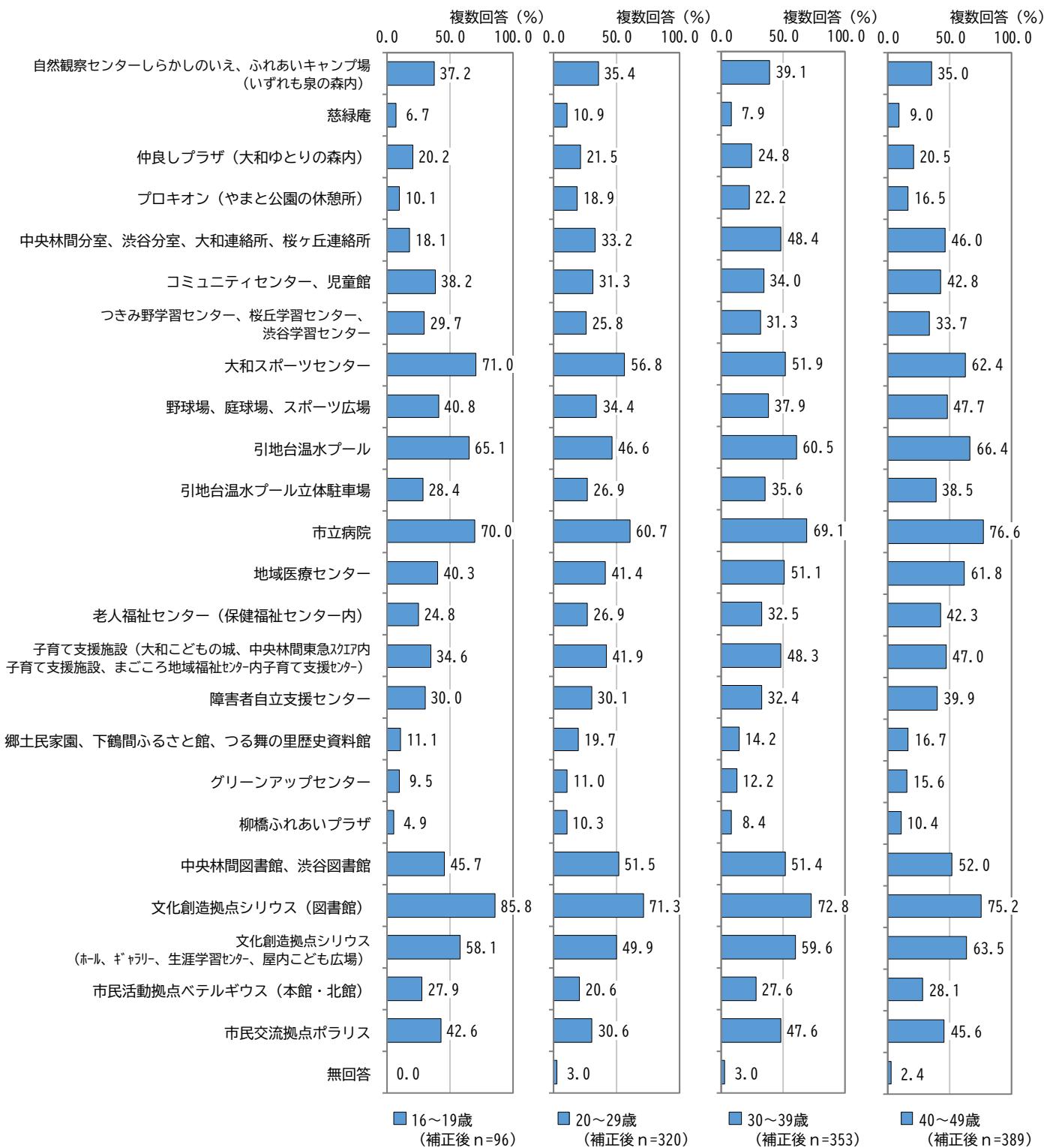


■ 令和7年度調査（補正後n=2,462）

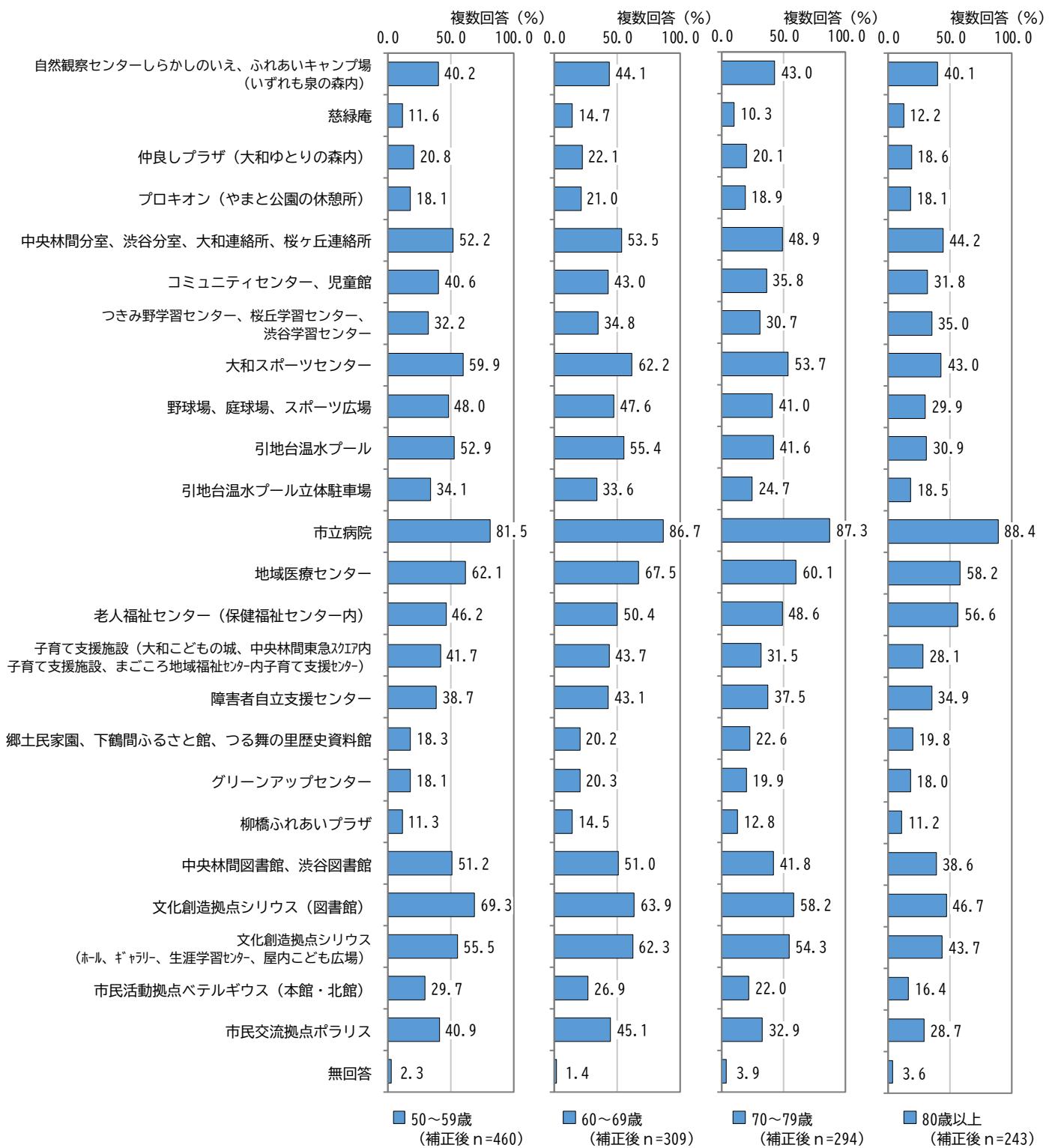
■ 10-2 ×年齢

年齢別でみると、年齢が上がるほど「市立病院」の割合が高い傾向にあり、年齢が下がるほど「文化創造拠点シリウス（図書館）」の割合が高い傾向にあります。

図表 10-2-2 これからも大切だと思う市内公共施設×年齢



図表 10-2-2 これからも大切だと思う市内公共施設×年齢（続き）

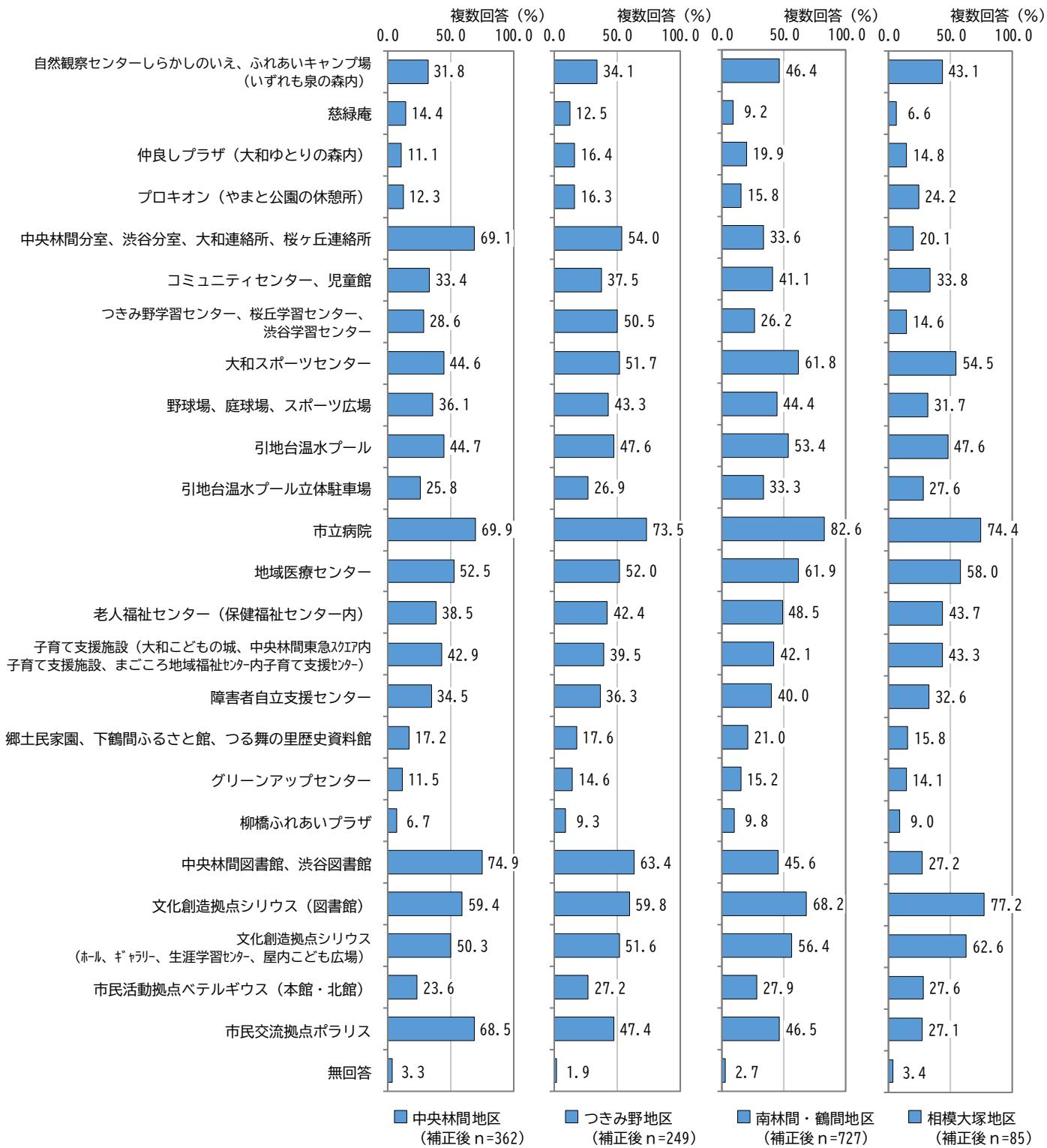


■ 10-2 ×居住地域

居住地域別でみると、中央林間地区、つきみ野地区、南林間・鶴間地区で「市民交流拠点ポラリス」、相模大塚地区、大和地区で「文化創造拠点シリウス（図書館）」、桜ヶ丘地区、高座渋谷地区で「仲良しプラザ（大和ゆとりの森内）」の割合が高くなっています。

「市立病院」「地域医療センター」はいずれの地域でも割合が高くなっています。

図表 10-2-3 これからも大切だと思う市内公共施設×居住地域別



図表 10-2-3 これからも大切だと思う市内公共施設×居住地域別（続き）

